

M3A79-T Deluxe



Motherboard

J4021

初版第 1 刷

2008年 9月

Copyright © 2008 ASUSTeK COMPUTER INC. All Rights Reserved.

バックアップの目的で利用する場合を除き、本書に記載されているハードウェア・ソフトウェアを含む、全ての内容は、ASUSTeK Computer Inc. (ASUS) の文書による許可なく、編集、転載、引用、放送、複写、検索システムへの登録、他言語への翻訳などを行うことはできません。

以下の場合、保証やサービスを受けることができません。

- (1) ASUSが明記した方法以外で、修理、改造、交換した場合。
- (2) 製品のシリアル番号が読むことができない状態である場合。

ASUS は、本マニュアルについて、明示の有無にかかわらず、いかなる保証もいたしません。ASUS の責任者、従業員、代理店は、本書の記述や本製品に起因するいかなる損害（利益の損失、ビジネスチャンスの遺失、データの損失、業務の中断などを含む）に対して、その可能性を事前に指摘したかどうかに関りなく、責任を負いません。

本書の仕様や情報は、個人の使用目的にのみ提供するものです。また、予告なしに内容は変更されることがあり、この変更について ASUS はいかなる責任も負いません。本書およびハードウェア、ソフトウェアに関する不正確な内容について、ASUS は責任を負いません。

本マニュアルに記載の製品名及び企業名は、登録商標や著作物として登録されている場合がありますが、本書では、識別、説明、及びユーザーの便宜を図るために使用しており、これらの権利を侵害する意図はありません。

もくじ

もくじ	iii
ご注意	vii
安全上のご注意	viii
このマニュアルについて	ix
M3A79-T Deluxe 仕様一覧	xi

Chapter 1: 製品の概要

1.1 ようこそ	1-1
1.2 パッケージの内容	1-1
1.3 独自機能	1-2
1.3.1 製品の特長	1-2
1.3.2 ASUSの独自機能	1-5
1.3.3 ASUS インテリジェントオーバークロック機能	1-8

Chapter 2: ハードウェア

2.1 始める前に	2-1
2.2 マザーボードの概要	2-2
2.2.1 マザーボードのレイアウト	2-2
2.2.2 レイアウトの内容	2-3
2.2.3 設置方向	2-4
2.2.4 ネジ穴	2-4
2.3 CPU	2-5
2.3.1 CPUを取り付ける	2-5
2.3.2 CPUにヒートシンクとファンを取り付ける	2-7
2.4 システムメモリ	2-10
2.4.1 概要	2-10
2.4.2 メモリ構成	2-11
2.4.3 メモリを取り付ける	2-15
2.4.4 メモリを取り外す	2-15
2.5 拡張スロット	2-16
2.5.1 拡張カードを取り付ける	2-16
2.5.2 拡張カードを設定する	2-16
2.5.3 割り込み割り当て	2-17
2.5.4 PCI スロット	2-18
2.5.5 PCI Express x16 スロット	2-18
2.6 ジャンパ	2-20
2.7 オンボードスイッチ	2-21

もくじ

2.8	コネクタ	2-22
2.8.1	バックパネルコネクタ.....	2-22
2.7.2	内部コネクタ	2-24
2.9	初めて起動する	2-35
2.10	コンピュータの電源をオフにする	2-36
2.10.1	OSシャットダウン機能を使用する.....	2-36
2.10.2	電源スイッチのデュアル機能を使用する.....	2-36

Chapter 3: BIOS セットアップ

3.1	BIOS 管理更新	3-1
3.1.1	ASUS Update	3-1
3.1.2	ブートフロッピーディスクを作成する	3-4
3.1.3	ASUS EZ Flash 2.....	3-5
3.1.4	AFUDOS.....	3-6
3.1.5	ASUS CrashFree BIOS 2	3-8
3.2	BIOS 設定プログラム	3-9
3.2.1	BIOS メニュー画面.....	3-10
3.2.2	メニューバー	3-10
3.2.3	ナビゲーションキー	3-10
3.2.4	メニュー	3-11
3.2.5	サブメニュー	3-11
3.2.6	構成フィールド.....	3-11
3.2.7	ポップアップウィンドウ	3-11
3.2.8	スクロールバー	3-11
3.2.9	ヘルプ.....	3-11
3.3	メインメニュー	3-12
3.3.1	System Time	3-12
3.3.2	System Date.....	3-12
3.3.3	Legacy Diskette A.....	3-12
3.3.4	Language	3-12
3.3.5	Primary IDE Master/Slave, SATA1-6.....	3-13
3.3.6	Storage Configuration	3-14
3.3.7	システム情報.....	3-15
3.4	拡張メニュー	3-16
3.4.1	Jumperfree Configuration	3-16
3.4.2	AI NET 2.....	3-22

もくじ

3.4.3	CPU の設定	3-23
3.4.4	チップセット	3-24
3.4.5	ECC Configuration	3-26
3.4.6	オンボードデバイス設定構成	3-27
3.4.7	PCI PnP	3-29
3.4.8	USB 設定	3-30
3.5	電源メニュー	3-32
3.5.1	Suspend Mode	3-32
3.5.2	Repost Video on S3 Resume	3-32
3.5.3	ACPI 2.0 Support	3-32
3.5.4	ACPI APIC Support	3-32
3.5.5	APM の設定	3-33
3.5.6	ハードウェアモニタ	3-34
3.6	ブートメニュー	3-36
3.6.1	ブートデバイスの優先順位	3-36
3.6.2	起動設定	3-37
3.6.3	セキュリティ	3-38
3.7	ツールメニュー	3-40
3.7.1	ASUS EZ Flash 2	3-40
3.7.2	Express Gate	3-41
3.7.3	ASUS O.C. Profile	3-42
3.8	終了メニュー	3-43
 Chapter 4: ソフトウェア		
4.1	OS をインストールする	4-1
4.2	サポート DVD 情報	4-1
4.2.1	サポート DVD を実行する	4-1
4.2.2	ドライバメニュー	4-2
4.2.3	ユーティリティメニュー	4-3
4.2.4	Make Disk メニュー	4-5
4.2.5	マニュアルメニュー	4-6
4.2.6	コンタクトインフォメーション	4-6
4.2.7	その他の情報	4-7
4.3	ソフトウェア情報	4-9
4.3.1	ASUS MyLogo2™	4-9
4.3.2	AI NET2	4-11

もくじ

4.3.3	Cool 'n' Quiet!™ Technology	4-12
4.3.4	AI Audio 2 (SoundMAX® HD オーディオユーティリティ)...	4-15
4.3.5	ASUS PC Probe II	4-24
4.3.6	ASUS AI Suite.....	4-30
4.3.7	ASUS AI Gear 2.....	4-32
4.3.8	ASUS AI Nap.....	4-33
4.3.9	ASUS Q-Fan 2	4-34
4.3.10	ASUS AI Booster	4-35
4.3.11	ASUS Express Gate	4-36
4.3.12	AMD OverDrive (AOD)	4-45
4.4	RAID	4-46
4.4.1	RAIDの定義	4-46
4.4.2	Serial ATA ハードディスクを取り付ける	4-47
4.4.3	AMD® RAID	4-47
4.5	RAID ドライバディスクを作成する.....	4-53
4.5.1	OS に入らずに RAID ドライバディスクを作成する	4-53
4.5.2	Windows® 環境で RAID ドライバディスクを作成する	4-53

ご注意

Federal Communications Commission Statement (原文)

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

- This device may not cause harmful interference, and
- This device must accept any interference received including interference that may cause undesired operation.

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with manufacturer's instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment to an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.



The use of shielded cables for connection of the monitor to the graphics card is required to assure compliance with FCC regulations. Changes or modifications to this unit not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate this equipment.

Canadian Department of Communications Statement (原文)

This digital apparatus does not exceed the Class B limits for radio noise emissions from digital apparatus set out in the Radio Interference Regulations of the Canadian Department of Communications.

This class B digital apparatus complies with Canadian ICES-003.

安全上のご注意

電気の取り扱い

- ・ 作業を行う場合は、感電防止のため、電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- ・ 本製品に周辺機器を接続する場合は、本製品および周辺機器の電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。可能ならば、関係するすべての機器の電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- ・ 本製品にケーブルを接続する場合は、電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- ・ 電源延長コードや特殊なアダプタを用いる場合は専門家に相談してください。これらは、回路のショート等の原因になる場合があります。
- ・ 正しい電圧でご使用ください。ご使用になる地域の出力電力がわからない場合は、お近くの電力会社にお尋ねください。
- ・ 電源装置の修理は販売代理店などに依頼してください。

操作上の注意

- ・ 作業を行う前に、本製品に付属のマニュアルを全て熟読してください。
- ・ 電源を入れる前に、ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。また電源コードに損傷がないことを確認してください。
- ・ マザーボード上にクリップやネジなどの金属を落とさないようにしてください。回路のショート等の原因になります。
- ・ 埃・湿気・高温・低温を避けてください。湿気のある場所で本製品を使用しないでください。
- ・ 本製品は安定した場所に設置してください。
- ・ 本製品を修理する場合は、販売代理店などに依頼してください。



左のマークは、本製品が電気製品または電子装置であり、水銀を含むボタン電池を使用しており、地域のゴミと一緒に捨てられないことを示すマークです。廃棄の際は、地方自治体の廃棄処理に関する条例または規則等に従ってください。

このマニュアルについて

このマニュアルには、マザーボードの取り付けや構築の際に必要な情報が記してあります。

マニュアルの概要

本章は以下の章から構成されています。

- **Chapter 1: 製品の概要**
マザーボードの機能とサポートする新機能についての説明。
- **Chapter 2: ハードウェア**
コンポーネントの取り付けに必要なハードウェアのセットアップ手順及びスイッチ、ジャンパとコネクタの説明。
- **Chapter 3: BIOS セットアップ**
セットアップメニューでのシステム設定の変更方法とBIOSパラメータの詳細。
- **Chapter 4: ソフトウェア**
マザーボードパッケージに付属のサポート DVD とソフトウェアの内容。

詳細情報

本書に記載できなかった最新の情報は以下で入手することができます。また、BIOSや添付ソフトウェアの最新版があります。必要に応じてご利用ください。

1. **ASUS Webサイト (<http://www.asus.co.jp/>)**
各国や地域に対応したサイトを設け、ASUSのハードウェア・ソフトウェア製品に関する最新情報が満載です。
2. **追加ドキュメント**
パッケージ内容によっては、追加のドキュメントが同梱されている場合があります。注意事項や購入店・販売店などが追加した最新情報などです。これらは、本書がサポートする範囲には含まれていません。

このマニュアルの表記について

本製品を正しくお取り扱い頂くために以下の表記を参考にしてください。



危険/警告: 本製品を取扱う上で、人体への危険を避けるための情報です。



注意: 本製品を取扱う上で、コンポーネントへの損害を避けるための情報です。



重要: 本製品を取扱う上で、必要な指示です。



注記: 本製品を取扱う上でのヒントと追加情報です。

表記

<Key>

<> で囲った文字は、キーボードのキーです。

例: <Enter>→Enter もしくは リターンキーを押してください。

<Key1+Key2+Key3>

一度に2つ以上のキーを押す必要がある場合は(+)を使って示しています。

例: <Ctrl+Alt+D>

M3A79-T Deluxe 仕様一覧

CPU	AMD® Socket AM2/AM2+:AMD® Phenom™ FX / Phenom™ / Athlon™ / Sempron™ プロセッサ対応 AMD Cool 'n' Quiet™ テクノロジ CPU TDP:最大140Wまでサポート
チップセット	AMD® 790FX / SB750
システムバス	最大 5200 MT/s:HyperTransport™ 3.0 インターフェース (AM2+ CPUの場合) 2000 / 1600 MT/s (AM2 CPUの場合)
メモリ	デュアルチャンネルメモリアーキテクチャ - 240ピン メモリソケット× 4: unbuffered ECC/non-ECC DDR2 1066*/800/667 MHz メモリに対応 - 最大16 GB のシステムメモリ *DDR2 1066 は AM2+ CPU のみでのサポートとなります。 ** Windows® 32bit OS環境では、4GB以上のシステムメモリを取り付けでも、検出されるメモリは3GB未満となります。Windows 32bit OSをご使用の場合は、3 GB以下のシステムメモリ構成にすることをお勧めします。
拡張スロット	PCI Express 2.0 x16 スロット× 4: ATI CrossFireX™ 対応 (@デュアル x16,トリプル x16/x8/x8,クアッド x8 モード) PCI 2.2 スロット× 2
Multi-GPU サポート	ATI CrossFireX™をサポート:クアッドCrossFireX™ まで対応
記憶装置	サウスブリッジ - SATA 3.0 Gb/s コネクタ× 6: RAID 0、1、5、10 に対応 - Ultra DMA 133/100/66 × 1 Marvell® 88SE6111 SATA コントローラ - 外部 SATA 3.0 Gb/s × 1 (SATA-On-The-Go)
LAN	Marvell® 88E8056 Gigabit LAN コントローラ: AI NET 2 採用
オーディオ	ADI® AD2000B 8チャンネルHD オーディオコーデック - Jack-Detection、Multi-streaming、フロントパネル、Jack-Retasking をサポート - コアキシャル/光デジタル S/PDIF 出力ポート (バックパネル I/O) - ASUS AI Audio 2 - ASUS Noise Filtering
IEEE 1394	LSI® L-FW3227 コントローラ:IEEE 1394a ポート 2 基 サポート (ボード上に 1 基、バックパネルに 1 基)
USB	USB 2.0/1.1ポート×12 (ボード上に 6 基、バックパネルに 6 基)

(次項へ)

M3A79-T Deluxe 仕様一覧

ASUSの独自機能	<p>ASUS 静音サーマルソリューション</p> <ul style="list-style-type: none">- ASUS 8+2 Phase Power Design (8+2 フェーズ電源設計)- ASUS ファンレス設計: ヒートパイプソリューション- ASUS ファンレス設計: Stack Cool 2- ASUS Q-Fan 2 <p>ASUS Express Gate</p> <ul style="list-style-type: none">- OSを起動せずに、わずか 5 秒*でインターネットにアクセス- 分かりやすいGUI で操作も簡単 <p>*実際にかかる時間はシステム構成によって異なります。</p> <p>ASUS 節電ソリューション</p> <ul style="list-style-type: none">- ASUS AI Gear 2*- ASUS AI Nap <p>* ASUS AI Gear 2 を利用するにはAM2 CPUが必要です。</p> <p>ASUS Crystal Sound</p> <ul style="list-style-type: none">- ASUS AI Audio 2- ASUS Noise Filtering <p>ASUS EZ DIY</p> <ul style="list-style-type: none">- ASUS Q-Shield- ASUS Q-Connector- ASUS O.C. Profile- ASUS CrashFree BIOS 2- ASUS EZ Flash 2- ASUS オンボードスイッチ
その他の機能	ASUS MyLogo 2™
ASUS だけの オーバークロック機能	<p>インテリジェントオーバークロックツール</p> <ul style="list-style-type: none">- AI Overclocking (インテリジェントCPU周波数チューナー)- ASUS AI Booster ユーティリティ <p>Precision Tweaker 2</p> <ul style="list-style-type: none">- vCore: 0.0125V 刻みで CPU 電圧を調節- vDIMM: 36 ステップ DRAM 電圧コントロール- vChipset: 16ステップチップセット電圧コントロール <p>SFS (Stepless Frequency Selection)</p> <ul style="list-style-type: none">- FSB 調節 (1 MHz 刻みで 200 MHz ~ 600 MHz)- PCI Express 周波数の調節 (1 MHz 刻みで 100 MHz ~ 150 MHz) <p>Overclocking protection</p> <ul style="list-style-type: none">- ASUS C.P.R. (CPU Parameter Recall)

(次項へ)

M3A79-T Deluxe 仕様一覧

バックパネル I/O ポート	PS/2 キーボード/マウス コンボポート× 1 S/PDIF 出力(コアキシャル + 光デジタル) ポート× 1 外部 SATA ポート× 1 IEEE 1394a ポート× 1 LAN (RJ-45) ポート× 1 USB 2.0/1.1 ポート× 6 8 チャンネルオーディオ I/O ポート
内部 I/O コネクタ	USB コネクタ× 3 : 追加 USB ポート 6 基に対応 フロッピーディスクドライブコネクタ× 1 COM コネクタ× 1 IDE コネクタ× 1 SATA コネクタ× 6 CPU ファンコネクタ× 1 ケースファンコネクタ× 2 電源ファンコネクタ× 1 IEEE1394a コネクタ× 1 フロントパネルオーディオコネクタ S/PDIF 出力ヘッダー× 1 ケース開閉検出コネクタ CD オーディオ入力コネクタ 24ピン ATX 電源コネクタ システムパネルコネクタ (Q-Connector) 8 ピン ATX 12V 電源コネクタ× 1 電源スイッチコネクタ× 1 リセットスイッチコネクタ× 1
BIOS	8 Mb Flash ROM、AMI BIOS、PnP、DMI 2.0、SM BIOS 2.5、 ACPI 2.0a、ASUS EZ Flash 2、ASUS CrashFree BIOS 2
マネージメント機能	WOL by PME、WOR by PME、WOR by Ring、PXE、 ケース開閉検出機能
サポート DVD	各ドライバ ASUS Express Gate ASUS PC Probe II ASUS Update ASUS AI Suite AMD OverDrive (AOD) アンチウイルスユーティリティ (OEM 版)
フォームファクタ	ATX フォームファクタ: 30.5 cm x 24.4 cm (12 in x 9.6 in)

*仕様は予告なく変更することがあります。

マザーボードの機能とサポートする新機能についての説明

製品の概要

Chapter

1

1.1	ようこそ	1-1
1.2	パッケージの内容.....	1-1
1.3	独自機能	1-2

1.1 ようこそ

ASUS® M3A79-T Deluxe マザーボードをお買い上げいただき、ありがとうございます。

このマザーボードは多くの新機能と最新のテクノロジーを提供する ASUS の高品質マザーボードです。

マザーボードとハードウェアデバイスの取り付けを始める前に、パッケージの中にリストに掲載されている部品が揃っていることを確認してください。

1.2 パッケージの内容

マザーボードパッケージに以下のものが揃っていることを確認してください。

マザーボード	ASUS M3A79-T Deluxe
I/O モジュール	マルチファンクションモジュール× 1 (1 ポート IEEE 1394a モジュール と 2 ポート USB 2.0 モジュール)
ケーブル	ASUS CrossFire™ ブリッジケーブル× 2 Serial ATA 電源ケーブル× 1 : デバイス 2 台に対応 Serial ATA ケーブル× 6 Ultra DMA 133/100/66 ケーブル× 1
アクセサリ	ASUS Q-Shield ASUS Q-Connector Kit × 1 (USB、1394、システム/パネル)
DVD	ASUS マザーボードサポート DVD
ドキュメント	ユーザーマニュアル(本書)



- 付属品が足りないときや破損しているときは、販売店様にご連絡ください。
- フロッピーディスク用ケーブルは別売りとなっております。

1.3 独自機能

1.3.1 製品の特長

Green ASUS



このマザーボードとパッケージは、欧州連合(EU)のRoHS指令(電気電子機器の特定有害物質使用規制)の基準を充たしています。これは環境に優しくリサイクル可能な製品/パッケージを提供するASUSの企業理念と合致するものです。

AMD® Socket AM2+ Phenom™ FX / Phenom™ / Athlon™ CPU 対応



本マザーボードは独自の L3 キャッシュで AMD® Socket AM2+ マルチコアプロセッサをサポートし、より少ない電力消費でより高度なオーバークロックを可能にします。デュアルチャンネル DDR2 1066 メモリをサポートし、HyperTransport™ 3.0 をベースとしたシステムバスで最大 5200MT/s の転送速度を可能にします。(詳細: ページ 2-5 参照)



HyperTransport™ 3.0 対応

HyperTransport™ 3.0 テクノロジーにより、HyperTransport™ 1.0 の 2.6 倍の帯域幅が可能になりました。システム効率が改善され、よりスムーズで速いコンピューティング環境を実現します。

AMD® Socket AM2 Athlon™ / Sempron™ CPU サポート



本マザーボードはAMD® Socket AM2 Athlon™ / Sempron™ プロセッサをサポートしています。2000/1600 MT/s HyperTransport™をベースとするシステムバス、デュアルチャンネル un-buffered DDR2 800 メモリをサポートし、また、AMD® Cool 'n' Quiet™ テクノロジーに対応しています。(詳細: ページ 2-5 参照)



AMD 790FX チップセット

AMD 790FX チップセットは、最大 5200MT/s HyperTransport™ 3.0 (HT 3.0) インターフェーススピードとクアッド PCI Express™ 2.0 x16 グラフィックスに対応できるよう設計されています。AMD® の最新の AM2+ CPU、マルチコア CPU に対して最適化され、素晴らしいシステムパフォーマンスとオーバークロック能力を提供します。

ネイティブ DDR2 1066 サポート



本マザーボードはネイティブDDR2 1066 をサポートしています。このメモリサポートにより、より高速なデータ転送を可能にし、帯域を広げることでメモリの電算処理能力が上がるため、特に3D グラフィックスやより高いメモリ性能が要求されるアプリケーションでシステムパフォーマンスの向上が期待できます。(詳細: ページ 2-10 参照)



DDR2 1066 は特定の AM2+ CPU のみでのサポートになります。サポートしている CPU モデルに関してはASUS Web サイト (<http://www.asus.co.jp/>) をご参照ください。

ATI CrossFireX™ テクノロジ



ATI CrossFireX™は、画面の解像度を下げることなく、画質、レンダリングスピードを向上させます。CrossFireX™により、より高度なアンチエイリアス処理、異方性フィルタリング、シェーディング、テクスチャ設定が可能です。ディスプレイ設定を調節し、高度な 3D 設定をお試しください。効果は、ATI Catalyst™ Control Center で確認することができます。

PCIe 2.0



本マザーボードは最新の PCIe 2.0 デバイスを、従来の倍の速度と帯域でサポートし、大幅なパフォーマンスの向上に成功しました。(詳細: ページ 2-18 参照)

Multi-GPU サポート



本マザーボードはより高いフレームレートにより最高のグラフィック性能をもたらす先進的グラフィック規格、Quad-CrossFire™ に対応します。デュアルPCIex16 フルレーン構成またはトリプルグラフィックカードに対応します。(詳細: ページ 2-18 参照)

Serial ATA 3.0 Gb/s と SATA-On-The-Go



Serial ATA (SATA) 3.0 Gb/s ストレージ規格をベースとするハードドライブをサポートしていますので安定性が向上し、バスの帯域の倍増で高速データ転送を実現します。バックパネルの I/Oにある外部SATA ポート (SATA-On-The-Go) はホットプラグ機能に対応し、セットアップも簡単です。写真や動画等のメディアの保存にぜひご活用ください。(詳細: ページ 2-23、2-26 参照)

IEEE 1394a サポート



IEEE 1394a インターフェースを搭載することで、IEEE 1394a 規格と互換性のある周辺機器（ビデオカメラ、VCR、プリンタ、TV、デジタルカメラ等）との接続が柔軟かつ高速になりました。（詳細：ページ 2-22、2-28 参照）

S/PDIF デジタルサウンド対応



コアキシャル/光デジタル S/PDIF 出力ジャックを通じ、外付けのホームシアターオーディオシステムへ接続できます。デジタルオーディオをアナログフォーマットに変換しませんので、質の高いサウンドが楽しめます。（詳細：ページ 2-23、2-24 参照）

HD オーディオ



クリアな音質をお楽しみください！ オンボード 8 チャンネルHDオーディオ（High Definition Audio、コードネーム Azalia）CODEC は、ハイクオリティの 192KHz/24bit オーディオ出力対応。同時に複数のオーディオストリームを異なる方向に送信します。この技術により、マルチチャンネルのネットワークゲーム中にヘッドフォンで会話が楽しめます。（詳細：ページ 2-22、2-23 参照）

1.3.2 ASUSの独自機能

ASUS Express Gate



Windows を起動せずにわずか 5 秒でインターネットにアクセス! Express Gate は ASUS 独自のマザーボード内蔵型 OS で、Windows を起動しなくても、インスタントメッセージャー (MSN、Skype、Google talk、QQ、Yahoo) や、メールボックスの確認や、画像閲覧が可能です。とっさの時に役立つ便利な機能です。是非ご活用ください。



実際の起動時間は、システム構成に左右されます。

ASUS 節電ソリューション

ASUS の節電ソリューションはシステムの負荷に応じて電力消費を調節し、バランスの取れたコンピューティング環境を実現します。

AI Gear 2



AI Gear 2 には CPU 周波数と Vcore 電圧を調節可能なプロファイルが用意されており、ノイズと電力消費を抑えることができます。システム構成に応じ、最適なモードを選択してください。

AI Nap



コンピュータを使用していない時、システムを最も低い電圧とノイズで動作させることができます。システムをウェークし OS 環境に戻すには、マウスをクリックするか、キーを押すだけです。

ASUS 静音サーマルソリューション

ASUS 静音サーマルソリューションはシステムをより安定させ、オーバークロック能力を向上させます。

ASUS 8+2 Phase Power Design (8+2 フェーズ電源設計)



重要なコンポーネントへ独立した電源を供給する ASUS 8+2 Phase Power Design (8+2 フェーズ電源設計) により、重い負荷がかかる場合やオーバークロックモードでも、メモリパフォーマンスを向上させ、CPU のレスポンスと安定性を確実なものにします。

ファンレス設計-Stack Cool 2



ファンレスでゼロノイズの冷却機能です。コンポーネントから出る熱を大幅に下げます。本製品ではPCB (printed circuit board) 上で熱を拡散するために特殊な設計を採用しています。

ファンレス設計-ヒートパイプ



冷却ファンは一般的なサーマルソリューションですが、ノイズと故障の問題がありました。ASUS はファンレスコンセプトを押し進め、部品寿命を問題としない静かで効果的な冷却環境をご提供致します。さらに、サイドフローファン、またはパッシブクーラーを取り付けることも可能で、このヒートパイプデザインは最も確実なファンレスサーマルソリューションと言えます。



ヒートパイプを取り外さないでください。チューブの破損の原因となります。

Q-Fan 2



ASUS Q-Fan 2 テクノロジは、効果的に CPU ファンとケースファンのスピードをシステムの負荷に応じてコントロールし、静音低温環境を実現します。

ASUS Crystal Sound

Skype、オンラインゲーム、ビデオ会議などの、音声に関連するアプリケーションで、音質が向上します。

Noise Filtering



コンピュータのファンやエアコン等の個々の定常ノイズ (肉声ではない信号) を検出し、録音中はそれらの音をカットします。

AI Audio 2



AI Audio 2 は、ピケットフェンス効果を取り込むことなく、全体のサウンドフィールドを拡張しバーチャルセンターチャンネルを作り出します。マルチチャンネルからのダウンミックスでダイアログ (会話) またはソロパフォーマンスを維持するため、臨場感溢れるハイクオリティオーディオを実現します。

ASUS EZ DIY

ASUS EZ DIY 機能は、コンピュータのコンポーネントの取り付けや、BIOS 更新、設定データのバックアップに便利な機能が満載です。

ASUS Q-Shield



ASUS Q-Shield は従来の「爪」をなくした設計で、取り付けが非常に簡単です。より優れた電気伝導率により、静電気と電磁波妨害によるダメージから大切なマザーボードを守ります。

ASUS Q-Connector



ASUS Q-Connector を使用すれば、ケースフロントパネルケーブルの取り付け/取り外しが簡単にできます。

ASUS O.C. Profile



本マザーボードには、ASUS O.C. Profile 機能が搭載されており、複数の BIOS 設定を保存・ロードすることができます。各 BIOS 設定はCMOSまたはファイルに保存することができ、BIOS設定の利用と共有が簡単に行えます。

ASUS EZ Flash 2



OSをロードする前でも、予め設定したホットキーを押すだけでBIOSの更新が簡単に行えます。OSベースのユーティリティやブートディスクは不要です。

ASUS オンボードスイッチ



オンボードスイッチならオーバークロック時に押すだけで、パフォーマンスの微調整が可能です。従来のようなピンをショートする、ジャンパを移動するといった操作は不要です。

ASUS MyLogo 2™



この機能を使用すると、自分で選んだブートロゴを表示することができます。

1.3.3 ASUS インテリジェントオーバークロック機能

Precision Tweaker 2

ノースブリッジ電圧、サウスブリッジ電圧、DRAM 電圧を 0.02V 刻みで調節することができ、最高のオーバークロック設定をカスタマイズすることができます。

AI Booster

ASUS AI Booster は CPU スピードを Windows 環境でオーバークロックする機能です。BIOSを開く必要はありません。

C.P.R. (CPU Parameter Recall)

オーバークロック時にシステムがハングした場合、BIOSを初期設定値に自動再設定します。オーバークロックが原因でハングした場合は、シャットダウンし、再起動するだけです。ケースを開けてRTCデータをクリアする必要はありません。

システムの組み立てにおけるハードウェア
のセットアップ手順と、マザーボードのジャ
ンパやコネクタに関する説明

ハードウェア 2

2.1	始める前に	2-1
2.2	マザーボードの概要	2-2
2.3	CPU	2-5
2.4	システムメモリ	2-10
2.5	拡張スロット	2-16
2.6	ジャンパ	2-20
2.7	オンボードスイッチ	2-21
2.8	コネクタ	2-22
2.9	初めて起動する	2-35
2.10	コンピュータの電源をオフにする	2-36

2.1 始める前に

マザーボードのパーツの取り付けや設定変更の前は、次の事項に注意してください。



-
- 各パーツを取り扱う前に、コンセントから電源プラグを抜いてください。
 - 静電気による損傷を防ぐために、各パーツを取り扱う前に、静電気除去装置に触れるなど、静電気対策をしてください。
 - ICに触れないように、各パーツは両手で端を持つようにしてください。
 - 各パーツを取り外すときは、必ず静電気防止パッドの上に置るか、コンポーネントに付属する袋に入れてください。
 - パーツの取り付け、取り外しを行う前に、ATX電源ユニットのスイッチがOFFの位置にあるか、電源コードが電源から抜かれていることを確認してください。電力が供給された状態での作業は、感電、故障の原因となります。
-

2.2.2 レイアウトの内容

コネクタ/ジャンパ/スロット	ページ
1. USBコネクタ (10-1ピン USB78、USB910、USB1112)	2-27
2. ATX電源コネクタ (24ピン EATXPWR、8ピン EATX12V)	2-31
3. AM2/AM2+ CPU ソケット	2-5
4. CPU ファン、ケースファン、電源ファンコネクタ (4ピン CPU_FAN、3ピン CHA_FAN1-2、3ピン PWR_FAN)	2-29
5. DDR2 メモリスロット	2-10
6. ケース開閉検出コネクタ (4-1ピン CHASSIS)	2-30
7. IDE コネクタ (40-1ピン PRI_IDE)	2-25
8. AMD® SB750 Serial ATA コネクタ (7ピン SATA1-6)	2-26
9. Clear RTC RAM (3ピン CLRTC)	2-20
10. システムパネルコネクタ (20-8ピン PANEL)	2-33
11. リセットスイッチ	2-21
12. 電源スイッチ (Power on スイッチ)	2-21
13. Serial ポートコネクタ (10-1ピン COM1)	2-28
14. IEEE 1394a ポートコネクタ(10-1ピン IE1394_2)	2-28
15. フロッピーディスクドライブコネクタ (34-1ピン FLOPPY)	2-24
16. デジタルオーディオコネクタ (4-1ピン SPDIF_OUT)	2-24
17. フロントパネルオーディオコネクタ (10-1ピン AAFP)	2-32
18. 光学ドライブオーディオコネクタ (4ピン CD)	2-27

2.2.3 設置方向

マザーボードが正しい向きでケースに取り付けられているかを確認してください。下の図のように外部ポートをケースの背面部分に合わせます。

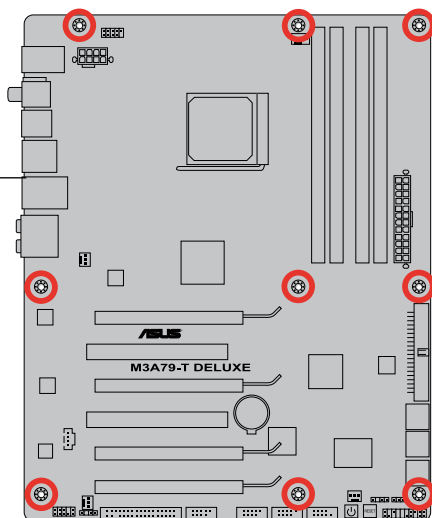
2.2.4 ネジ穴

ネジ穴は9カ所あります。ネジ穴の位置を追わせてマザーボードをケースに固定します。



ネジをきつく締めすぎないでください。マザーボードの破損の原因となります。

この面をケースの背面に
合わせます。



2.3 CPU

本製品には AMD® Socket AM2+ Phenom™ FX / Phenom / Athlon™ プロセッサ、または AMD® Socket AM2 Athlon / Sempron プロセッサ 用に設計された AM2+/AM2 ソケットが搭載されています。

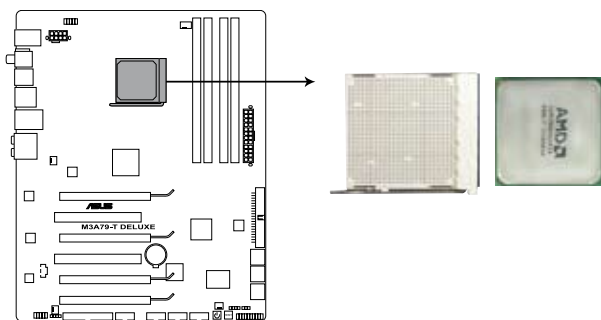


AM2+/AM2ソケットのピン配列は AMD Opteron™ プロセッサ用に設計された 940ピンソケットとは異なります。お使いの CPU が AM2+/AM2 ソケットに対応していることをご確認ください。また、このCPUは取り付けの向きが決まっています。また、無理にはめ込もうとしないでください。破損の原因となります。

2.3.1 CPUを取り付ける

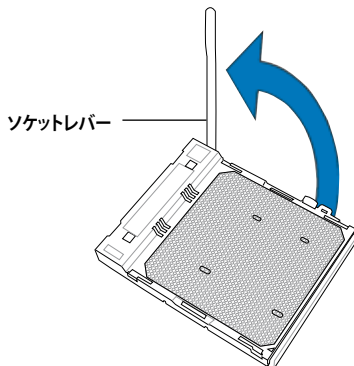
手順

1. マザーボードの CPU ソケットの位置を確認します。



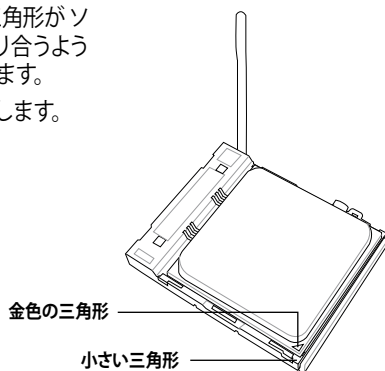
M3A79-T DELUXE CPU socket AM2+/AM2

2. 脇にあるレバーを押し、ソケットを解除します。次に、ソケットレバーを90°ほど持ち上げます。

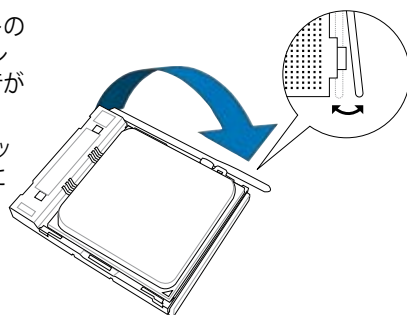


ソケットレバーを 90° ほど持ち上げないと、CPU を正しく取り付けることができません。ご注意ください。

3. CPU に書かれている金色の三角形がソケットの三角の部分とぴったり合うようにCPUをソケットの上に載せます。
4. CPU をソケットにしっかり押します。



5. CPU がしっかりはまったら、ソケットのレバーを押し、CPU を固定します。レバーがしっかりはまると、カチッと音がします。
6. CPU ヒートシンクとファンをそのパッケージ付属のマニュアル等の指示に沿って取り付けます。



2.3.2 CPUにヒートシンクとファンを取り付ける

AMD® Phenom™ FX / Phenom / Athlon™ / Sempron™ プロセッサには専用のヒートシンクとファンを使用してください。



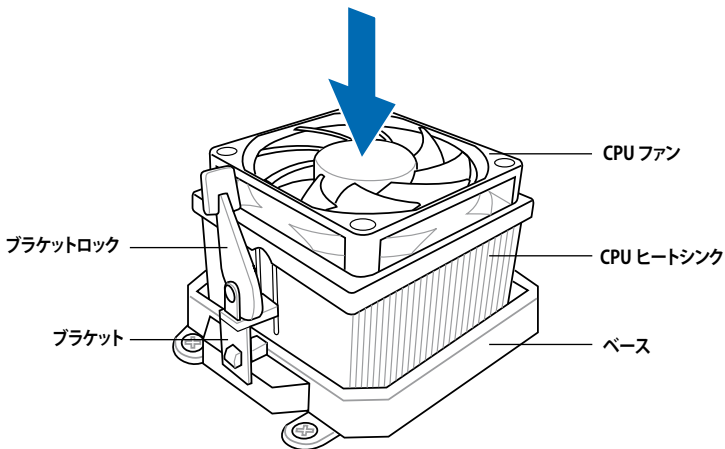
必ずAMD公認のヒートシンクとファンを使用してください。

ヒートシンクとファンの取り付け手順

1. ヒートシンクがベースの位置と合っていることを確認しながら、ヒートシンクをCPUの上に置きます。

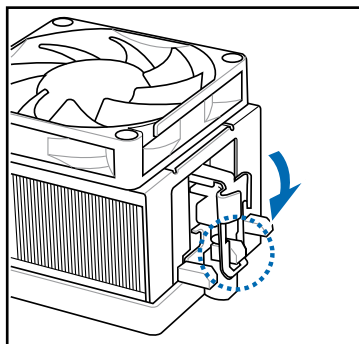


- ベースは既にマザーボードに取り付けられています。
- ベースを取り外す必要はありません。
- CPU ヒートシンクとファンを別々にご購入の場合は、サーマルグリスがCPU、ヒートシンク、ファンに塗布されているかを事前に必ず確認してください。



箱入りのCPUヒートシンクには取り付け方法を記載した説明書等が付属しています。本マニュアルと内容が異なる場合は、付属の説明書等の指示に従ってください。

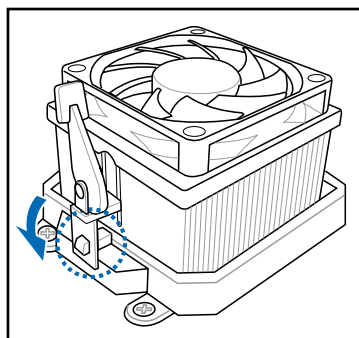
2. ブラケットの一方をベースにかぶせます。



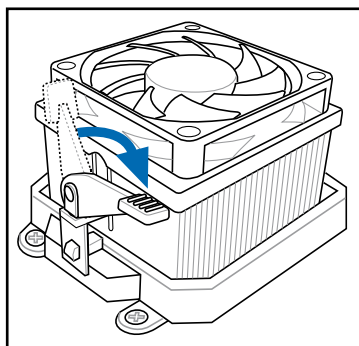
3. ブラケットのもう一方を(ブラケットロックに近い方)ベースにはめます。音がするまで、しっかりはめてください。



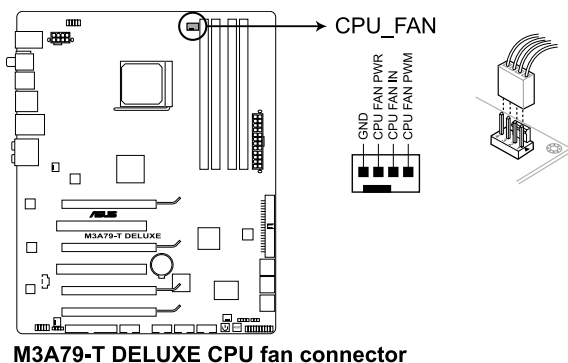
ヒートシンクとファンがベースにしっかりとまっていることを確認してください。はまっていないと、ブラケットが所定の位置に固定されません。



4. ブラケットロックを押し下げ、ヒートシンクとファンをベースに固定します。



5. CPUファンのケーブルをCPU_FANと表示されたマザーボード上のコネクタに接続します。



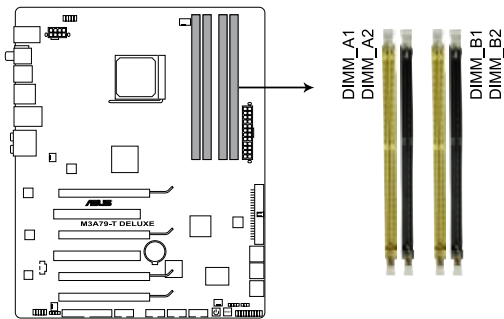
- CPUファンのケーブルを必ず接続してください。接続しないと、ハードウェアのモニタリングエラーが発生することがあります。
- このコネクタは旧型 3 ピン CPU ファンにも対応しています。

2.4 システムメモリ

2.4.1 概要

本マザーボードには 4 つのダブルデータレート 2 (DDR2) デュアルインラインメモリ スロットが搭載されています。

次の図は、スロットの場所を示しています。



M3A79-T DELUXE 240-pin DDR2 DIMM slots

チャンネル	スロット
Channel A	DIMM_A1 と DIMM_A2
Channel B	DIMM_B1 と DIMM_B2

2.4.2 メモリ構成

512 MB、1 GB、2 GB、4 GB unbuffered ECC / non-ECC DDR2 メモリをメモリスロットに取り付けることができます。



- サイズの異なるメモリを Channel A と Channel B に取り付けることができます。異なる容量のメモリをデュアルチャンネル構成で取り付けただけの場合、デュアルチャンネルアクセス領域はメモリ容量の合計値が小さい方のチャンネルに合わせて割り当てられ、サイズの大きなメモリの超過分に関してはシングルチャンネル用に割り当てられます。
- ハードウェアの制限により、DDR2 1066 MHz のサポートには AM2+ CPU が必要で、各チャンネルでサポート可能なメモリは 1 枚のみです。また、システム安定のため、メモリを 4 枚使用する場合は、メモリは全て初期設定値の DDR2 800 MHz で動作します。
- オーバークロックのパフォーマンスの観点から、スロットはイエローのスロットからご使用ください。
- 同じ CAS レイテンシを持つメモリを取り付けてください。またメモリは同じベンダーからお求めになることをお勧めします。
- Windows® 32bit OS 環境では、4GB 以上のシステムメモリを取り付けても、検出されるメモリは 3GB 未満となります。32bit OS では、合計 3GB 未満のシステムメモリを取り付けることをお勧めします。
- 本マザーボードは 128 Mbit のメモリチップを搭載したメモリモジュールは動作保証致しかねます。



- 本マザーボードは以下の OS では、本マザーボードがサポート可能なシステムメモリは 16GB までです。各スロットに取り付け可能なメモリは最大 4 GB です。

64-bit

Windows® XP Professional x64 Edition
Windows® Vista x64 Edition

- 初期設定のメモリ動作周波数はメモリの SPD に左右されます。初期設定では、特定のメモリはオーバークロックしてもメーカーが公表する値より低い値で動作する場合があります。

M3A79-T Deluxe マザーボード QVL (メモリ推奨ベンダーリスト) DDR2-1066 MHz

サイズ	ベンダー	チップ No.	CL	チップ ブランド	SS/DS	パーツ No.	メモリサポート (オプション)		
							A*	B*	C*
1024MB	A-DATA	Heat-Sink Package	5	N/A	SS	ADQYE1A08			V
2048MB	A-DATA	Heat-Sink Package	5	N/A	DS	ADQYE1B16	V	V	V
4096MB (Kit of 2)	Apacer	Heat-Sink Package	5-5-5-15	N/A	DS	Box P/N: CH. 04 G A F. F0 K K2 (78.AAGAL.9KF)	V	V	V
1024MB	CORSAIR	Heat-Sink Package	N/A	N/A	DS	Box P/N: TWIN2X2048-8500C5D (CM2X1024-8500C5D)(EPP)	V	V	
4096MB (Kit of 2)	CORSAIR	Heat-Sink Package	5-5-5-15	N/A	DS	Box P/N: TWIN2X4096-8500C5DF (CM2X2048-8500C5D)(EPP)	V	V	
1024MB	Crucial	Heat-Sink Package	N/A	N/A	DS	BL12864AA1065.16FD5(EPP)	V	V	V
2048MB (Kit of 2)	G.SKILL	Heat-Sink Package	5-5-5-15	N/A	DS	F2-8500CL5D-2GBPK	V	V	V
4096MB (Kit of 2)	G.SKILL	Heat-Sink Package	5-5-5-15	N/A	DS	F2-8500CL5D-4GBPK			V
1024MB	G.SKILL	Heat-Sink Package	5-5-5-15	N/A	DS	F2-8500CL5S-1GBPK	V	V	V
1024MB	GEIL	GL2L128M88BA25AB	5-5-5-15	GEIL	SS	GB22GB8500C5DC	V	V	V
2048MB (Kit of 2)	GEIL	Heat-Sink Package	5-5-5-15	N/A	SS	GE22GB1066C5DC	V	V	V
4096MB (Kit of 4)	GEIL	Heat-Sink Package	5-5-5-15	N/A	SS	GE24GB1066C5QC	V	V	V
4096MB (Kit of 2)	GEIL	GL2L128M88BA25AB	5-5-5-15	GEIL	DS	GB24GB8500C5DC			V
4096MB (Kit of 4)	GEIL	GL2L128M88BA25AB	5-5-5-15	GEIL	DS	GB24GB8500C5QC	V		V
4096MB (Kit of 2)	GEIL	Heat-Sink Package	5-5-5-15	N/A	DS	GX24GB8500C5UDC	V	V	V
512MB	Hynix	HY5PS12821FFP-G7	7	HYNIX	SS	HYPM564U64FP8-G7	V	V	V
1024MB	Hynix	HY5PS12821FFP-G7	7	HYNIX	DS	HYPM 512U64FP8-G7	V	V	V
512MB	KINGMAX	KK48FEIBF-HJK-18E	N/A	N/A	SS	KLEC28F-A8K15-EGAS	V		V
1024MB	KINGMAX	KK48FEIBF-HJK-18A	N/A	N/A	DS	KLED48F-A8K15-EPA			V
2048MB	KINGMAX	KKB8FFBXF-CFP-18A	N/A	KINGMAX	DS	KLEE88F-B8KB5			V
512MB	Kingston	Heat-Sink Package	N/A	N/A	SS	KHX8500D2/ 512	V	V	V
1024MB (Kit of 2)	Kingston	Heat-Sink Package	N/A	N/A	SS	KHX8500D2K2/1G	V	V	V
512MB	Kingston	E5108AJBG -1J-E	N/A	N/A	SS	KVR1066D2N7/ 512	V	V	V
1024MB	Kingston	Heat-Sink Package	N/A	N/A	DS	KHX8500D2/1G	V	V	V
2048MB (Kit of 2)	Kingston	Heat-Sink Package	N/A	N/A	DS	KHX8500D2K2/2G	V	V	V
2048MB (Kit of 2)	Kingston	Heat-Sink Package	N/A	N/A	DS	KHX8500D2K2/2GN(EPP)	V	V	V
1024MB	Kingston	E5108AJBG -1J-E	N/A	N/A	DS	KVR1066D2N7/1G	V	V	V
1024MB	MICRON	D9JKH	7	MICRON	SS	MT8HTF12864AY-1GAE1	V		
2048MB	MICRON	D9JKH	7	MICRON	DS	MT16HTF25664AY-1GAE1	V	V	V
2048MB (Kit of 2)	OCZ	Heat-Sink Package	N/A	N/A	DS	Box P/N: OCZ2N10662GK (OCZ2N10662GK)(EPP)			V
2048MB (Kit of 2)	OCZ	Heat-Sink Package	5	N/A	DS	OCZ2N1066SR2GK(EPP)	V	V	V
4096MB (Kit of 2)	OCZ	Heat-Sink Package	N/A	N/A	DS	OCZ2RPR10664GK	V	V	
512MB	Qimonda	HYB18T 512800CF19F	6	QIMONDA	SS	HYS64T64000EU-19F-C	V	V	V
1024MB	Qimonda	HYB18T 512800CF19	7	QIMONDA	DS	HYS64T128020EU-1.9-C			V
1024MB	Qimonda	HYB18T 512800CF19F	N/A	N/A	DS	HYS64T128020EU-19F-C	V	V	
2048MB (Kit of 2)	Transcend	Heat-Sink Package	5	N/A	SS	TX1066QLU-2GK	V	V	V

M3A79-T Deluxe マザーボード QVL (メモリ推奨ベンダーリスト) DDR2-800 MHz

サイズ	ベンダー	チップ No.	CL	チップ ブランド	SS/DS	パーツ No.	メモリサポート (オプション)		
							A*	B*	C*
1024MB	KINGMAX	KK48F8IBF-HJK-25A	N/A	KINGMAX	DS	KLDD48F-ABK15	V		V
2048MB	KINGMAX	KKB8FFBXF-CFA-25A	N/A	KINGMAX	DS	KLDE88F-B8KB5	V	V	V
512MB	KINGSTON	Heat-Sink Package	N/A	N/A	SS	KHX6400D2/ 512		V	V
1024MB (Kit of 2)	KINGSTON	Heat-Sink Package	4-4-4-12	N/A	SS	KHX6400D2LLK2/1GN (EPP)			V
1024MB (Kit of 2)	KINGSTON	Heat-Sink Package	N/A	N/A	SS	KHX6400D2ULK2/1G	V	V	
512MB	KINGSTON	E5108AJBG-8E-E	N/A	ELPIDA	SS	KVR800D2N5/ 512	V	V	V
512MB	KINGSTON	E5108AJBG-8E-E	1.8	ELPIDA	SS	KVR800D2N6/ 512	V	V	V
2048MB	KINGSTON	Heat-Sink Package	N/A	N/A	DS	KHX6400D2/2G	V	V	V
1024MB	KINGSTON	E5108AJBG-8E-E	N/A	ELPIDA	DS	KVR800D2N5/1G	V	V	
1024MB	KINGSTON	V59C1 512804QBF25	N/A	N/A	DS	KVR800D2N5/1G	V	V	
2048MB	KINGSTON	E1108ACBG-8E-E	N/A	ELPIDA	DS	KVR800D2N5/2G	V	V	
1024MB	KINGSTON	E5108AJBG-8E-E	1.8	ELPIDA	DS	KVR800D2N6/1G	V	V	
4096MB	KINGSTON	E2108ABSE-8G-E	N/A	ELPIDA	DS	KVR800D2N6/4G	V	V	V
512MB	NANYA	NT5TU64M8BE-25C	5	NANYA	SS	NT 512T64U880BY-25C	V	V	
1024MB	NANYA	NT5TU64M8BE-25C	5	NANYA	DS	NT1GT64U8HB0BY-25C			V
1024MB	NANYA	NT5TU64M8CE-25D	N/A	NANYA	DS	NT1GT64U8HCOBY-25D	V	V	V
2048MB	NANYA	NT5TU128M8CE-AC	5	NANYA	DS	NT2GT64U8HC0BY-AC	V	V	V
1024MB	OCZ	Heat-Sink Package	N/A	N/A	DS	OCZ2FX800C32GK	V	V	
1024MB	OCZ	Heat-Sink Package	5	N/A	DS	OCZ2G8001G	V	V	V
4096MB (Kit of 2)	OCZ	Heat-Sink Package	5-4-4	N/A	DS	OCZ2P8004GK	V	V	V
2048MB (Kit of 2)	OCZ	Heat-Sink Package	4	N/A	DS	OCZ2P800R22GK	V		
1024MB	OCZ	Heat-Sink Package	N/A	N/A	DS	OCZ2T8002GK		V	V
2048MB	Qimonda		6	QIMONDA	DS	HY564T256020EU-2.5-C2			V
512MB	SAMSUNG	K4T51083QG	6	SAMSUNG	SS	M378T6553GZ3-CF7			V
1024MB	SAMSUNG	K4T1G084QQ(ECC)	6	SAMSUNG	SS	M391T2863QZ3-CF7			V
4096MB	SAMSUNG	K4T2G084QA-HCF7	6	SAMSUNG	DS	M378T5263AZ3-CF7	V	V	

M3A79-T Deluxe マザーボード QVL (メモリ推奨ベンダーリスト) DDR2-667 MHz

サイズ	ベンダー	チップ No.	CL	チップ ブランド	SS/DS	パーツ No.	メモリサポート (オプション)		
							A*	B*	C*
1024MB	Apacer	AM4B5808CQJS7E	N/A	APACER	SS	78.01G90.9K5	V	V	V
512MB	Apacer	AM4B5708JQJS7E	N/A	APACER	SS	78.91G92.9K5		V	V
2048MB	Apacer	AM4B5808CQJS7E	N/A	APACER	DS	78.A1G90.9K4	V	V	V
512MB	CORSAIR	64M8CFEG	N/A	N/A	SS	VS 512MB667D2			V
1024MB	CORSAIR	64M8CFEG	N/A	N/A	DS	VS1GB667D2	V	V	V
512MB	crucial	Heat-Sink Package	3	N/A	SS	BL6464AA663.8FD		V	V
1024MB	crucial	Heat-Sink Package	3	N/A	DS	BL12864AA663.16FD2	V		
1024MB	crucial	Heat-Sink Package	3	N/A	DS	BL12864AA663.16FD	V		V
1024MB	crucial	Heat-Sink Package	3	N/A	DS	BL12864AL664.16FD	V	V	
512MB	ELPIDA	E5108AE-6E-E	5	ELPIDA	SS	EBE51UD8AEFA-6E-E	V	V	V
4096MB	SAMSUNG	K4T2G084QA-HCE6	5	SAMSUNG	DS	M378T5263AZ3-CE6	V	V	V



SS - シングルサイド / DS - ダブルサイド メモリサポート:

- **A*:** シングルチャンネルメモリ構成として、1 枚のモジュールを任意のスロットに取り付けることが可能。
- **B*:** 1 組のデュアルチャンネルメモリ構成として、2 枚 1 組のメモリをブルーのスロットまたはブラックのスロットに取り付けることが可能。
- **C*:** 2 組のデュアルチャンネルメモリ構成として、4 枚のメモリをブルーとブラックのスロット両方に取り付けることが可能。



最新の QVL は、ASUS の Web サイト (<http://www.asus.co.jp/>) をご覧ください。

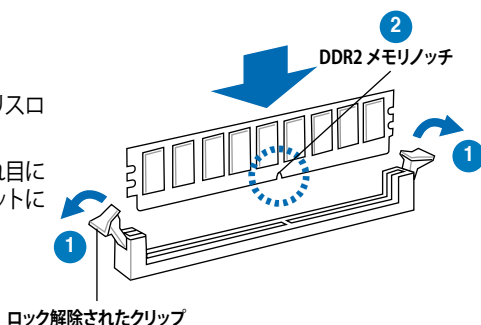
2.4.3 メモリを取り付ける



メモリや、その他のシステムコンポーネントを追加、または取り外す前に、コンピュータの電源プラグを抜いてください。プラグを差し込んだまま作業すると、マザーボードとコンポーネントが破損する原因となります。

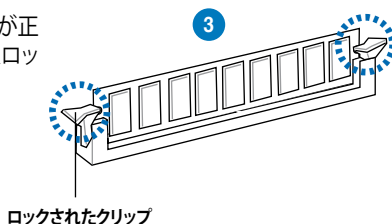
手順

1. クリップを外側に押して、メモリスロットのロックを解除します。
2. メモリのノッチがスロットの切れ目に一致するように、メモリをスロットに合わせます。



DDR2 メモリは取り付ける向きがあります。間違った向きでメモリを無理にスロットに差し込むと、メモリが損傷する原因となります。

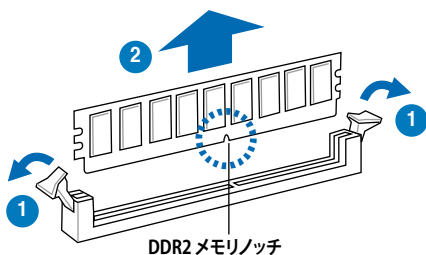
3. クリップが所定の場所に戻りメモリが正しく取り付けられるまで、メモリをスロットにしっかり押し込みます。



2.4.4 メモリを取り外す

手順

1. クリップを外側に同時に押してメモリのロックを解除します。



クリップを押しているとき、指でメモリを軽く引っ張ります。無理な力をかけてメモリを取り外すとメモリが破損する恐れがあります。

2. スロットからメモリを取り外します。

2.5 拡張スロット

拡張カードを取り付ける場合は、このページに記載の拡張スロットに関する説明をお読みください。



拡張カードを追加したり取り外したりする前に、電源コードを抜いていることを確認してください。電源コードを接続したまま作業をすると、負傷をしたり、マザーボードコンポーネントが損傷したりする恐れがあります。

2.5.1 拡張カードを取り付ける

手順

1. 拡張カードを取り付ける前に、拡張カードに付属するマニュアルを読み、カードに必要なハードウェアの設定を行ってください。
2. コンピュータのケースを開けます（マザーボードをケースに取り付けている場合）。
3. カードを取り付けるスロットのブラケットを取り外します。ネジは後で使用するので、大切に保管してください。
4. カードの端子部分をスロットに合わせ、カードがスロットに完全に固定されるまでしっかり押します。
5. カードをネジでケースに固定します。
6. ケースを元に戻します。

2.5.2 拡張カードを設定する

拡張カードを取り付けた後、ソフトウェアの設定を行い拡張カードを使用できるようにします。

1. システムの電源をオンにし、必要であれば BIOS の設定を変更します。BIOS の設定に関する詳細は、Chapter 3 をご参照ください。
2. IRQ (割り込み要求) 番号をカードに合わせます。次のページの表を参照してください。
3. 拡張カード用のソフトウェアドライバをインストールします。



PCI カードを共有スロットに挿入する際は、ドライバが IRQ の共有をサポートすること、または、カードが IRQ 割り当てを必要としないことを確認してください。IRQ を要求する 2 つの PCI グループが対立し、システムが不安定になりカードが動作しなくなることがあります。詳細は次項の表をご参照ください。

2.5.3 割り込み割り当て

標準の割り込み割り当て

IRQ	優先順位	標準機能
0	1	システムタイマー
1	2	キーボードコントローラ
2	–	IRQ#9 にリダイレクト
4	12	通信ポート (COM1)*
5	13	PCI ステアリング用 IRQ ホルダ*
6	14	フロッピーディスクコントローラ
7	15	不使用
8	3	システム CMOS/リアルタイムクロック
9	4	PCI ステアリング用 IRQ ホルダ*
10	5	PCI ステアリング用 IRQ ホルダ*
11	6	PCI ステアリング用 IRQ ホルダ*
12	7	不使用
13	8	数値データプロセッサ
14	9	プライマリ IDE チャンネル

* 上記のIRQはISA デバイスまたはPCI デバイスで使用されています。

本マザーボード用のIRQ割り当て

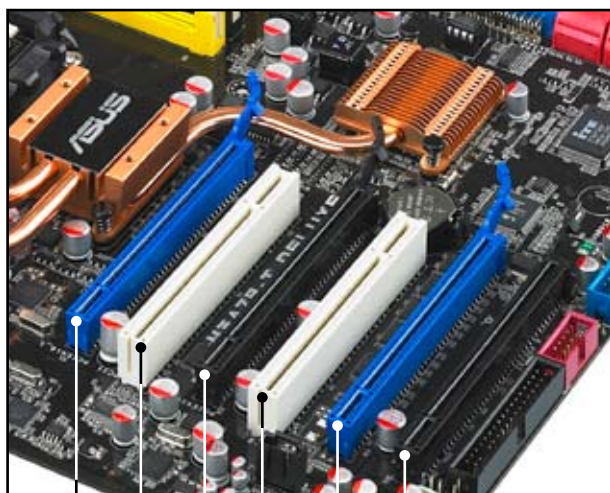
	A	B	C	D	E	F	G	H
PCIE x16_1	共有	共有	共有	共有	–	–	–	–
PCIE x16_2	共有	共有	共有	共有	–	–	–	–
PCIE x16_3	共有	共有	共有	共有	–	–	–	–
PCIE x16_4	共有	共有	共有	共有	–	–	–	–
USB 1.0 コントローラ 1	–	–	–	共有	–	–	–	–
USB 1.0 コントローラ 2	–	–	–	共有	–	–	–	–
USB 1.0 コントローラ 3	–	–	–	共有	–	–	–	–
USB 1.0 コントローラ 4	–	–	–	共有	–	–	–	–
USB 2.0 コントローラ	–	–	–	共有	–	–	–	–
HD オーディオ	共有	–	–	–	–	–	–	–
オンボード SATA	–	–	–	–		共有	–	–

2.5.4 PCI スロット

LAN カード、SCSI カード、USB カード等の PCI 規格準拠のカードをサポートしています。スロットの位置は下の写真を参考にしてください。

2.5.5 PCI Express x16 スロット

本マザーボードは、PCI Express 規格準拠の ATI CrossFireX™ PCI Express x16 ビデオカード 4 枚をサポート可能です。ビデオカードを 4 枚取り付けすることで、本マザーボードはクアッドディスプレイが可能になります。スロットの位置は下の写真を参考にしてください。



Primary PCI Express x16_1 スロット
(ブルー:最大 x16)

PCI スロット

PCI Express x16_4 スロット (ブラック:最大 x8)

Primary PCI Express x16_3 スロット (ブルー:最大 x16)
PCI スロット

PCI Express x16_2 スロット (ブラック:最大 x8)



PCI Express x16_4 スロットにビデオカードを取り付ける際は、カード取り付け前にその周辺のコネクタに使用するケーブルを接続する事をお勧めいたします。

プライマリ PCI Express x16 スロット

プライマリ PCI Express x16 スロットは、PCI Express 規格準拠の PCI Express x16 ビデオカードをサポートしています。

ユニバーサル PCI Express x16 スロット (最大 x8 モード)

本マザーボードはまた、最大速度 8 GB/s でユニバーサル PCI Express x16 スロットをサポートしています。取り付けた PCI Express カードのタイプにより本スロットの動作周波数は変わります。詳細は下の表をご覧ください。



複数のビデオカードを取り付ける場合、システムの温度上昇を防ぐため、リアケースファンケーブルをマザーボード側の CHA_FAN1/2 と表示のあるコネクタに接続することをお勧めします。コネクタの位置についてはページ 2-34 をご覧ください。

ビデオカード構成	PCI Express 動作モード			
	PClex16_1 (ブルー)	PClex16_2 (ブラック)	PClex16_3 (ブルー)	PClex16_4 (ブラック)
シングル PCIe ビデオカード	x16	x1	x16	x1
デュアル PCIe ビデオカード	x16	x1	x16	x1
トリプル PCIe ビデオカード	x16	x1	x8	x8
	x8	x8	x16	x1
クアッドビデオカード	x8	x8	x8	x8



- ビデオカード 1 枚と x4 の PCIe カード 1 枚を同時に使用する場合は、両方のカードをブルーのスロットに取り付けてください。
- ビデオカードを 2 枚使用する場合は、2 枚ともブルーのスロットに接続してください。
- ビデオカード 2 枚をブルーのスロットに取り付け、他のスロットにビデオカードではない PCIe カードを取り付けて使用する場合は、その他の PCIe カードは最適なビデオパフォーマンスのために x1 モードにダウングレードします。BIOS 設定画面で PCIe のモードを 再び割り当てることができます。詳細はページ 3-23 をご覧ください。

2.6 ジャンパ

RTC RAMのクリア (3ピンCLRTC)

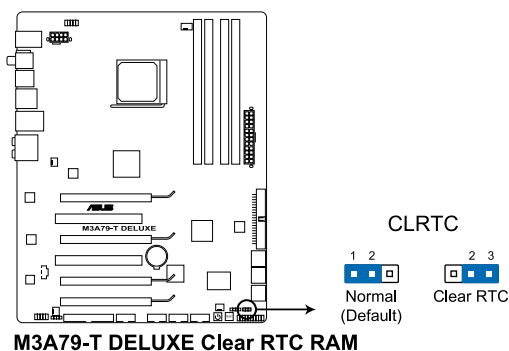
このジャンパは、CMOSのリアルタイムクロック(RTC) RAMをクリアするものです。CMOS RTC RAMのデータを消去することにより、日、時、およびシステム設定パラメータをクリアできます。システムパスワードなどのシステム情報を含むCMOS RAMデータの保存は、マザーボードのボタン電池により行われています。

RTC RAMをクリアする手順

1. コンピュータの電源をオフにし電源コードをコンセントから抜きます。
2. CLRTCのピン1-2 (初期設定) にあるジャンパキャップをピン2-3に移動させます。5~10秒間そのままにして、再びピン1-2にキャップを戻します。
3. 電源コードを差し込み、コンピュータの電源をオンにします。
4. 起動プロセスの間にキーを押し、BIOS設定に入ったらデータを再入力します。



RTC RAM をクリアしている場合を除き、CLRTCジャンパのキャップは取り外さないでください。システムの起動エラーの原因となります。



M3A79-T DELUXE Clear RTC RAM



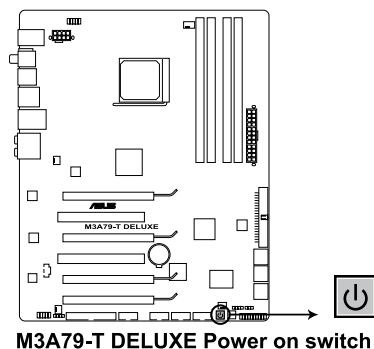
- オープークロックによりシステムがハングアップした場合は、C.P.R. (CPU Parameter Recall) 機能をご利用いただけます。システムを停止して再起動すると、BIOSは自動的にパラメータ設定を初期設定値にリセットします。
- チップセットの動作上、C.P.R. 機能を有効にするにはAC電源はオフの状態にする必要があります。システムを再起動する前に、電源を一度オフにしてからオンにするか、電源コードを抜いてから再度接続してください。

2.7 オンボードスイッチ

オンボードスイッチにより、ベアシステムまたはオープンケースシステムでの作業中に、パフォーマンスを微調整することができます。このスイッチはシステムパフォーマンスを頻繁に変更するオーバークロックユーザー、ゲーマーに理想的なソリューションです。

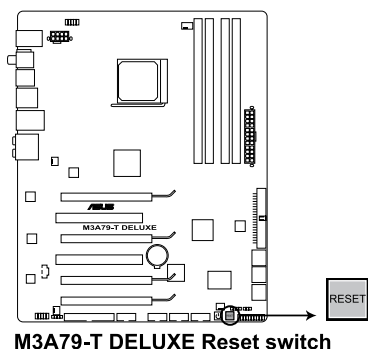
1. 電源スイッチ (Power on スイッチ)

このスイッチを押すとシステムの電源がオンになります。スリープ状態の場合はシステムはウェイクアップします。



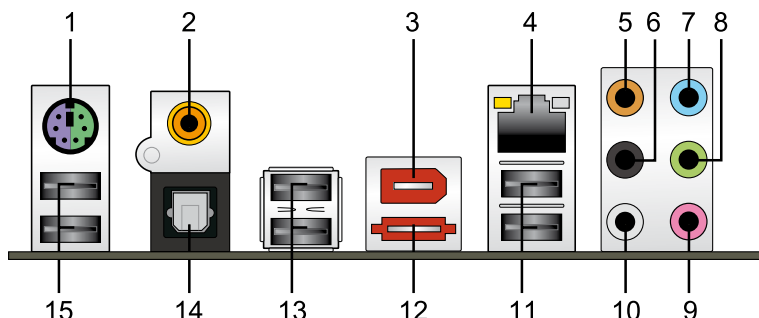
2. リセットスイッチ

このスイッチを押すと、システムが再起動します。



2.8 コネクタ

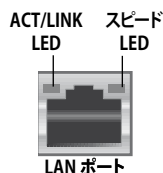
2.8.1 バックパネルコネクタ



1. **PS/2 キーボード/マウス コンボポート**: PS/2 キーボードまたは PS/2 マウスを接続します。
2. **コアキシャル S/PDIF 出力ポート**: コアキシャル S/PDIF ケーブルを使って外部オーディオ出力デバイスを接続することができます。
3. **IEEE 1394a ポート**: オーディオ/動画デバイス、記憶装置、PC、ポータブルデバイス等の高速接続を可能にします。
4. **LAN (RJ-45) ポート**: Marvell® Gigabit LAN コントローラによるサポートにより、ネットワークハブを通して、LAN での Gigabit 接続をサポートします。LAN ポート LED の表示については、下の表を参考にしてください。

LAN ポート LED

Activity/Link LED		スピード LED	
状態	説明	状態	説明
オフ	リンクなし	オフ	10 Mbps
オレンジ	リンク確立	オレンジ	100 Mbps
点滅	データ有効	グリーン	1 Gbps



5. **センター/サブウーファポート(オレンジ)**: センター/サブウーファスピーカーを接続します。
6. **リアスピーカー出力ポート(ブラック)**: このポートは4チャンネル、6チャンネル、8チャンネルのオーディオ構成で使用します。
7. **ライン入力ポート(ライトブルー)**: テープ、CD、DVD プレーヤー、またはその他のオーディオソースを接続します。
8. **ライン出力ポート(ライム)**: ヘッドフォンやスピーカーを接続します。4、6、8チャンネルの出力設定のときは、このポートはフロントスピーカー出力になります。

9. **マイクポート(ピンク):**マイクを接続します。
10. **サイドスピーカー出力ポート(グレー):**8チャンネルオーディオ構成でサイドスピーカーを接続します。



2、4、6、8チャンネル構成時のオーディオポートの機能については、以下のオーディオ構成表を参考にしてください。

オーディオ構成表

ポート	ヘッドセット 2チャンネル	4チャンネル	6チャンネル	8チャンネル
ライトブルー	ライン入力	ライン入力	ライン入力	ライン入力
ライム	ライン出力	フロントスピーカー 出力	フロントスピーカー 出力	フロントスピーカー 出力
ピンク	マイク入力	マイク入力	マイク入力	マイク入力
オレンジ	—	—	センター/サブウーファ	センター/サブウーファ
ブラック	—	リアスピーカー出力	リアスピーカー出力	リアスピーカー出力
グレー	—	—	—	サイドスピーカー出力

11. **USB 2.0ポート1と2:**USB 2.0デバイスを接続することができます。
12. **外部 SATA ポート:**外部 Serial ATA ハードディスクドライブを接続します。



外部 SATA ポートは外部 Serial ATA 3.0 Gb/s デバイスに対応しています。ケーブルは長いほど多くの電源が必要です(最長 2メートルまで)。ホットプラグ機能が利用できます。



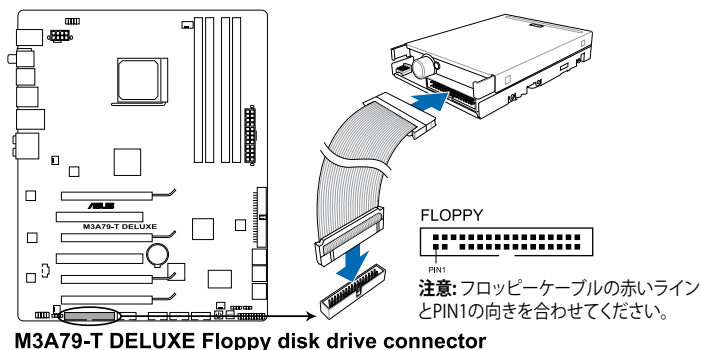
外部 SATA ポートには専用のコネクタのみを接続してください。

13. **USB 2.0 ポート 3と4:** USB 2.0デバイスを接続することができます。
14. **光デジタル S/PDIF 出力ポート:** 光デジタル S/PDIF ケーブルを使って外部オーディオ出力デバイスを接続することができます。
15. **USB 2.0 ポート 5と6:** USB 2.0デバイスを接続することができます。

2.7.2 内部コネクタ

1. フロッピーディスクドライブコネクタ (34-1 ピン FLOPPY)

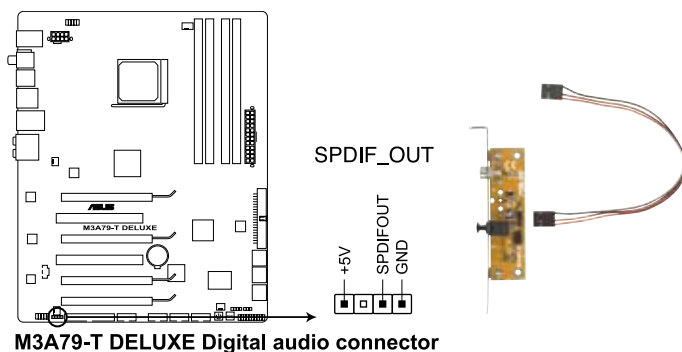
フロッピーディスクドライブ (FDD) ケーブル用コネクタです。ケーブルの一方をこのコネクタに挿入し、もう一方をフロッピーディスクドライブの背面に接続します。



- 誤ってケーブルを接続しないように、コネクタのピン5は取り外されています。
- フロッピーディスク用ケーブルは別売りとなっております。

2. デジタルオーディオコネクタ (4-1 ピン SPDIF_OUT)

このコネクタは追加のS/PDIFポート用で、S/PDIF 出力ケーブルをこのコネクタに接続します。



S/PDIF モジュールは別売りとなっております。

3. IDE コネクタ (40-1 ピン PRI_IDE)

Ultra DMA133/100/66 ケーブル用です。各 Ultra DMA 133/100/66 ケーブルにはブルー、ブラック、グレーの3つのコネクタがあります。マザーボードのIDEコネクタにはブルーを接続し、下からいずれかのモードを選択してください。

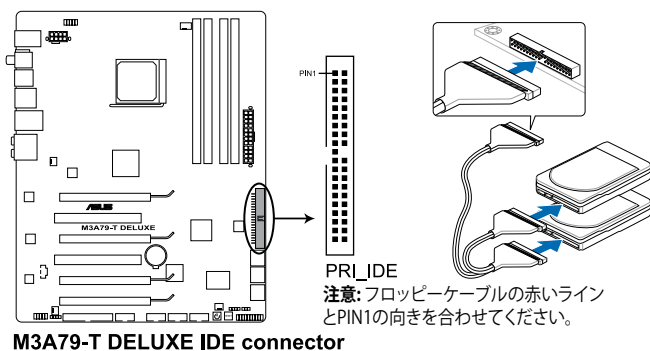
	ドライブジャンパ設定	デバイスのモード	ケーブルコネクタ
デバイス 1 台	Cable-Select/ マスター	-	ブラック
デバイス 2 台	Cable-Select	マスター	ブラック
		スレーブ	グレー
	マスター	マスター	ブラック/ グレー
		スレーブ	



- 誤ってケーブルを接続しないようにコネクタのピン20は取り外されています。
- Ultra DMA 100/66 IDE デバイスの場合は、80ピンタイプのIDEケーブルを使用します。



あるデバイスジャンパを「Cable-Select」に設定した場合は、他のデバイスジャンパも全て同じ設定にしてください。



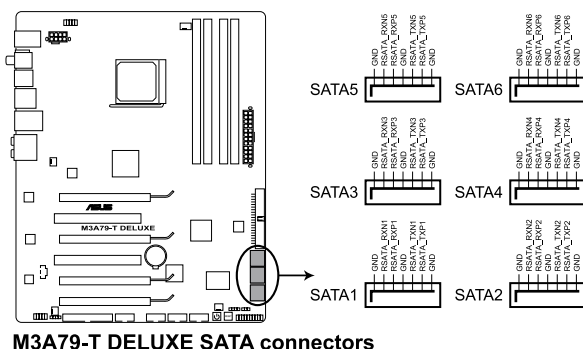
4. AMD® SB750 Southbridge Serial ATA コネクタ (7ピン SATA1-6)

これらのコネクタは Serial ATA ハードディスクと光学ディスクドライブに使用する Serial ATA ケーブルを接続します。

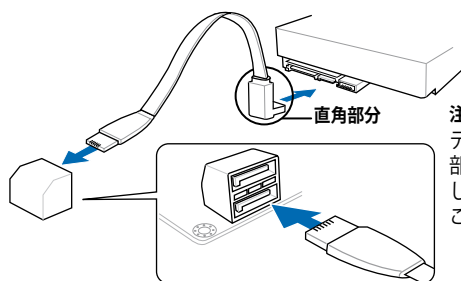
SATA HDD を SATA1/2/3/4 コネクタに取り付けた場合は、オンボード AMD® SB750 コントローラで RAID 0、RAID 1、RAID 5、RAID 10 設定を構築することができます。



これらのコネクタは初期設定で [IDE] に設定されています。これらのコネクタで Serial ATA RAID セットを構築する場合は、BIOS の「Onchip SATA Type」の項目を [RAID] に設定してください。



M3A79-T DELUXE SATA connectors



注：SATAケーブルの直角部分をSATAデバイスに接続します。または直角部分をオンボードSATAポートに接続し、ビデオカードとの衝突を避けることもできます。



Serial ATAに関する注記：

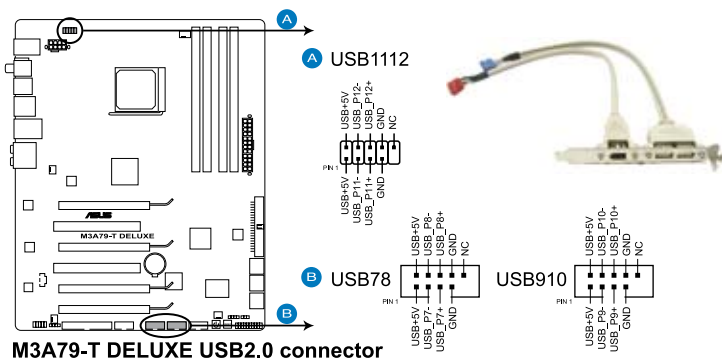
Serial ATAご利用の前に、Windows® XP Service Pack 1 のインストールが必要です。



- RAIDを構築する際は、マザーボードサポートDVDに収録されているマニュアルをご参照ください。
- これらコネクタでSerial ATA RAIDを構築する場合は、BIOS項目「OnChip SATA Type」を [RAID] に設定してください。

5. USB コネクタ (10-1 ピン USB 78; USB910; USB1112)

USB 2.0 ポート用のコネクタです。USBケーブルをこれらのコネクタに接続します。このコネクタは最大 480 Mbps の接続速度を持つ USB 2.0 規格に準拠しています。



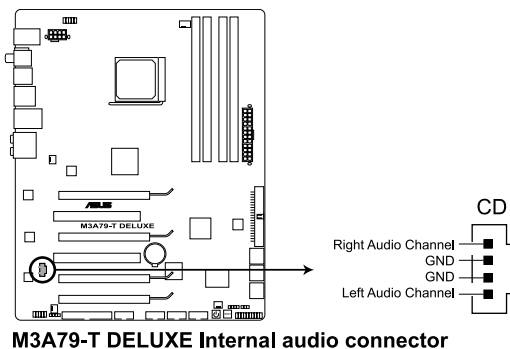
1394 ケーブルを USB コネクタに接続しないでください。マザーボードが破損する原因となります。



ご使用のケースがフロントパネル USB ポートをサポートしている場合、まずフロントパネル USB ケーブルをASUS Q-Connector (USB、ブルー)に接続し、Q-Connector (USB)をオンボードUSB コネクタに取り付けると接続が短時間でできます。

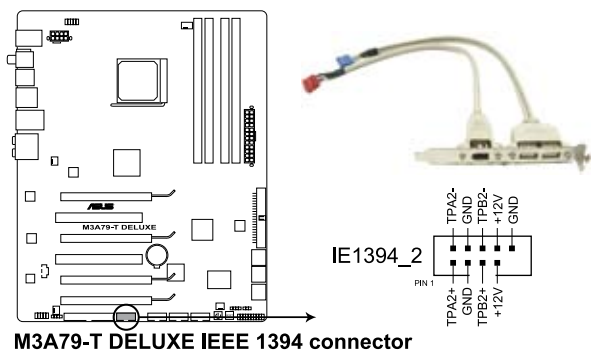
6. 光学ドライブオーディオコネクタ (4ピン CD)

CD-ROM、TV チューナー、MPEG カード等のサウンドソースからステレオオーディオ入力を受信します。



7. IEEE 1394a ポートコネクタ (10-1 ピン IE1394_2)

IEEE 1394a ポート用です。IEEE 1394a ケーブルをこのコネクタに接続します。



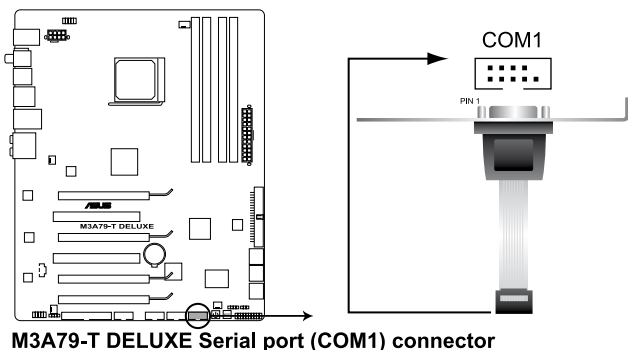
USBケーブルを IEEE 1394a コネクタに接続しないでください。マザーボードが破損する原因となります。



ご使用のケースがフロントパネル 1394 ポートをサポートしている場合、フロントパネル 1394 ケーブルを ASUS Q-Connector (1394, レッド) に接続し、Q-Connector (1394) をオンボード 1394 コネクタに取り付けると接続が短時間でできます。

8. Serial ポートコネクタ (10-1 ピン COM1)

シリアル (COM) ポート用です。シリアルポートケーブルをこのコネクタに接続します。



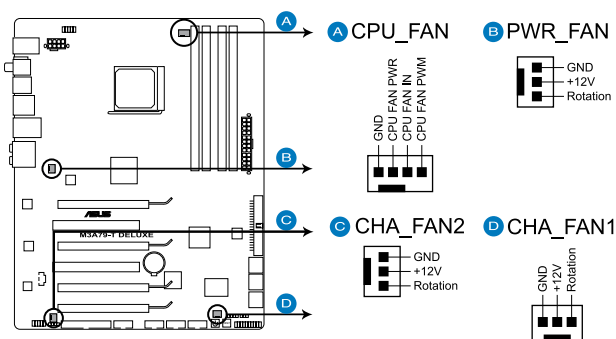
COM モジュールは別売りとなっております。

9. CPU ファンコネクタ、 ケースファンコネクタ、電源ファンコネクタ (4ピンCPU_FAN, 3ピンCHA_FAN1, 3ピンCHA_FAN2, 3ピンPWR_FAN)

各ファンコネクタは+12Vで、350 mA~2000 mA (最大 24 W) またはトータルで 1 A~7 A (最大 84 W) の冷却ファンをサポートします。ファンケーブルをマザーボードのファンコネクタに接続し、各ケーブルの黒いワイヤがコネクタのアースピンに接続されていることを確認します。



ケース内に十分な空気の流れがないと、マザーボードコンポーネントが破損する恐れがあります。組み立ての際にはシステムの冷却ファン(吸/排気ファン)を必ず搭載してください。また、吸/排気ファンの電源をマザーボードから取得することで、エアフローをマザーボード側で効果的にコントロールすることができます。また、これはジャンパピンではありません。ファンコネクタにジャンパキャップを取り付けしないでください。



M3A79-T DELUXE Fan connectors

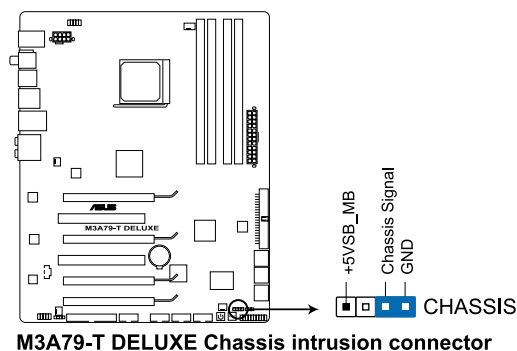


- CPU_FAN, CHA_FAN 1, CHA_FAN 2 コネクタのみが ASUS Q FAN2 機能に対応しています。
- ビデオカードを 2 枚取り付ける場合は、システムの温度上昇を防ぐため、リアケースファンケーブルをマザーボード側の CHA_FAN1 または CHA_FAN2 と表示のあるコネクタに接続することをお勧めします。

10. ケース開閉検出コネクタ (4-1 ピン CHASSIS)

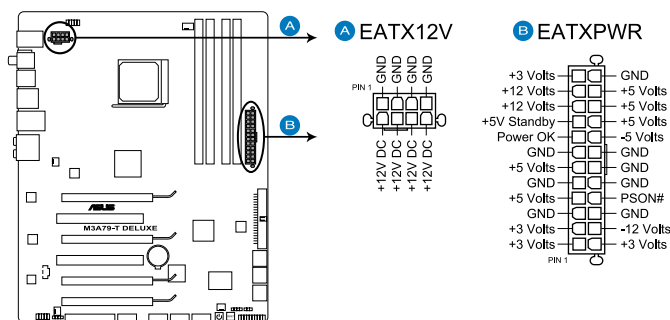
ケース開閉検出センサーまたはスイッチ用コネクタです。センサーまたはスイッチを接続してください。システムコンポーネントの取り外しや交換のときにケースを開けると、ケース開閉検出センサーまたはスイッチはこのコネクタに信号を送信します。信号はその後、ケース開閉検出イベントを発行します。

初期設定値では、「Chassis Signal」と「Ground」のピンの間はジャンパキャップにより、ショートされています。ケース開閉検出機能を使用する場合にのみ、ジャンパを取り外してケース開閉検出センサーを接続してください。



11. ATX 電源コネクタ (24ピン EATXPWR、8ピン EATX12V)

ATX電源プラグ用のコネクタです。電源プラグは正しい向きのみ、取り付けられるように設計されています。正しい向きでしっかりと挿し込んでください。



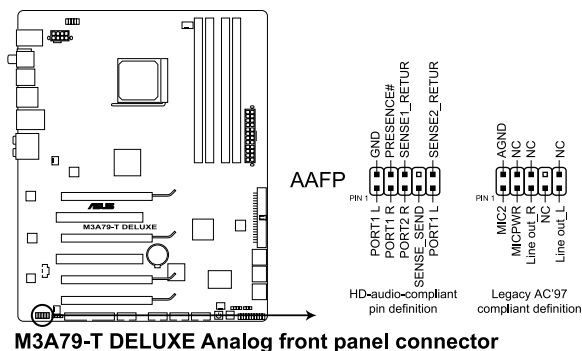
M3A79-T DELUXE ATX power connectors



- システムの快適なご利用のために、最低 600W ATX 12 V 仕様 2.0 (またはそれ以降) 対応電源ユニットを使用することをお勧めします。
- ハイエンド PCI Express x16 カードを複数枚使用する場合は、システム安定のため、1000W 以上供給できる電源装置をご使用ください。
- 8 ピン ATX +12 V 電源プラグを必ず接続してください。システムが起動しなくなります。
- 大量に電力を消費するデバイスを使用する場合は、高出力の電源ユニットの使用をお勧めします。電源ユニットの能力が不十分だと、システムが不安定になる、またはシステムが起動できなくなる等の問題が発生する場合があります。

12. フロントパネルオーディオコネクタ (10-1 ピン AAFP)

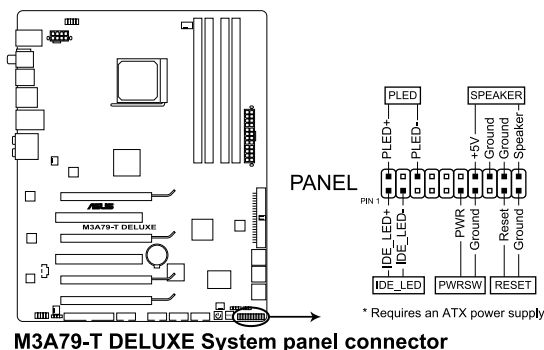
ケースのフロントパネルオーディオ I/O モジュール用コネクタで、HD オーディオ及び AC'97 オーディオをサポートしています。フロントパネルオーディオ I/O モジュールケーブルの一方をこのコネクタに接続します。



- HD オーディオ機能を最大限に活用するため、HD フロントパネルオーディオモジュールを接続することをお勧めします。
- HD フロントパネルオーディオモジュールを接続するには、BIOS で「**Front Panel Support Type**」の項目を [HD Audio] に設定します。AC'97 フロントパネルオーディオモジュールを接続するには、この項目を [AC97] に設定します。初期設定では、このコネクタは [HD Audio] に設定されています。

13. システムパネルコネクタ (20-8 ピン PANEL)

これらのコネクタはケースに付属する各機能に対応しています。



- **システム電源 LED (2 ピン PLED)**

システム電源LED用です。ケース電源LEDケーブルを接続してください。システムの電源LEDはシステムの電源をオンにすると点灯し、システムがスリープモードに入ると点滅します。

- **HDD アクティビティ LED (2ピン IDE_LED)**

HDDActivity LED用です。HDDActivity LEDケーブルを接続してください。IDE LEDは、データがHDDと読み書きを行っているときに点灯するか点滅します。

- **ビーブ(Beep)スピーカー (4 ピン SPEAKER)**

ケース取り付けのビーブスピーカー用です。スピーカーはその鳴り方でシステムの不具合を報告し、警告を発します。

- **ATX 電源ボタン/ソフトオフボタン (2 ピン PWRSW)**

システムの電源ボタン用です。電源ボタンを押すとシステムの電源がオンになります。また BIOSの設定によってはシステムをスリープモードまたはソフトオフモードにすることができます。システムがオンになっているときに電源スイッチを押すと、システムの電源はオフになります。

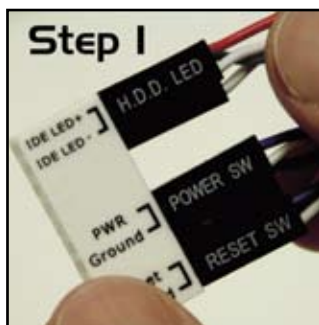
- **リセットボタン (2 ピン RESET)**

ケースに付属のリセットボタン用です。システムの電源をオフにせずにシステムを再起動します。

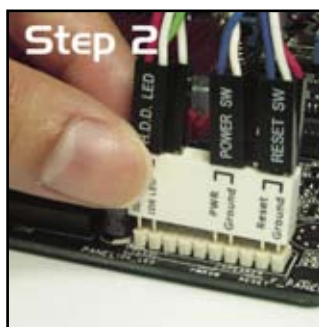
14. ASUS Q-Connector (システムパネル)

ASUS Q-Connector でケースフロントパネルケーブルの取り付け/取り外しが以下の手順で簡単に行えます。下は取り付け方法です。

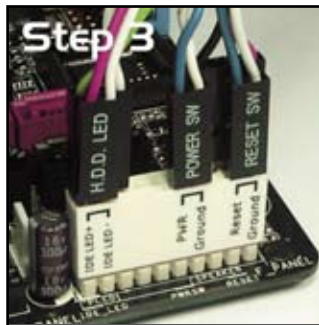
1. フロントパネルケーブルを
ASUS Q-Connector に接続します。
向きはQ-Connector 上にある表示を参考に
し、フロントパネルケーブルの表示と一致す
るように接続してください。



2. ASUS Q-Connector をシステムパネルコネク
タに取り付けます。マザーボードの表示と一
致するように取り付けてください。



3. フロントパネル機能が有効になりました。右
は Q-connector を取り付けた写真です。



2.9 初めて起動する

1. すべての接続が終了したら、システムケースのカバーを元に戻してください。
2. すべてのスイッチをオフにしてください。
3. 電源コードをケース背面の電源コネクタに接続します。
4. 電源コードをコンセントに接続します。
5. 以下の順番でデバイスの電源をオンにします。
 - a. モニター
 - b. 外部デバイス類(ディジーチェーンの最後のデバイスから)
 - c. 外部 Serial ATA デバイス
 - d. システム電源
6. システムの電源をオンにすると、システム前面パネルケースのシステム電源LEDが点灯します。ATX電源装置を搭載したシステムの場合、ATX電源ボタンを押すとシステムLEDが点灯します。モニターが「グリーン」規格に準拠している場合や、電源スタンバイ機能を搭載している場合、システムの電源をオンにすると、モニターのLEDが点灯もしくはオレンジからグリーンに切り替わります。

次にシステムは、起動時の自己診断テスト (POST) を実行します。テストを実行している間、BIOSがビーブ音を出すか、スクリーンにメッセージが表示されます。電源をオンにしてから30秒以内に何も表示されない場合は、電源オンテストの失敗です。ジャンパ設定と接続を確認してください。問題が解決されない場合は、販売店にお問い合わせください。

BIOS ビーブ	説明
ビーブ 1 回	VGA 検出 BIOS の「Quick Boot」設定が [Disabled] の時 キーボード未検出
長いビーブ 1 回+短いビーブ 2 回、 数秒後同じパターンで繰り返し	メモリ未検出時
長いビーブ 1 回+短いビーブ 3 回	VGA 未検出時
長いビーブ 1 回+短いビーブ 4 回	ハードウェアモニタリング エラー

7. 電源をオンにした直後に、<Delete>キーを押すとBIOS設定に入ります。詳細は Chapter 3 をご参照ください。

2.10 コンピュータの電源をオフにする

2.10.1 OSシャットダウン機能を使用する

Windows® Vista をご使用の場合：

1. 「スタート」ボタンをクリックし、「シャットダウン」を選択します。
2. Windows® がシャットダウンした後、電源装置もオフになります。

Windows® XPをご使用の場合

1. スタートボタンをクリックし、「シャットダウン」を選択します。
2. 「電源を切る」をクリックし、コンピュータの電源をオフにします。
3. Windows® がシャットダウンした後、電源装置がオフになります。

2.10.2 電源スイッチのデュアル機能を使用する

システムがオンになっている間、電源スイッチを押してから4秒以内に離すとシステムはBIOS設定によりスリープモードまたはソフトオフモードに入ります。電源スイッチを4秒以上押すと、BIOS設定には関わらず、システムはソフトオフモードに入ります。詳細は Chapter 3 の「3.5 Power Menu」をご参照ください。

BIOS セットアップメニューでのシステム設定の変更方法と BIOS パラメータの詳細

BIOS セットアップ



3.1	BIOS 管理更新	3-1
3.2	BIOS 設定プログラム.....	3-9
3.3	メインメニュー	3-12
3.4	拡張メニュー	3-16
3.5	電源メニュー	3-32
3.6	ブートメニュー	3-36
3.7	ツールメニュー.....	3-40
3.8	終了メニュー	3-43

3.1 BIOS 管理更新

次のユーティリティを使って、マザーボードのベーシックインプット/アウトプットシステム (BIOS) の管理更新を行います。

1. **ASUS Update** (Windows® 環境で BIOS を更新)
2. **ASUS EZ Flash 2** (DOS 環境で BIOS を更新。フロッピーディスク/USBフラッシュメモリを使用)
3. **ASUS AFUDOS** (ブートフロッピーディスクを使用して BIOS を更新)
4. **ASUS CrashFree BIOS 2** (BIOS がダメージを受けた場合、ブートフロッピーディスク/サポート DVD を使用して BIOS を更新)

ユーティリティの詳細については、このページ以降の各説明を参照してください。



BIOS を復旧できるように、オリジナルのマザーボード BIOS ファイルをブートフロッピーディスク/ USBフラッシュメモリにコピーしてください。BIOS のコピーには ASUS Update または AFUDOS を使用します。

3.1.1 ASUS Update

ASUS Update は、Windows® 環境でマザーボードの BIOS を管理、保存、更新するユーティリティです。以下の機能を実行することができます。

- ・ マザーボードの BIOS ファイルを保存する
- ・ インターネットから最新の BIOS ファイルをダウンロードする
- ・ 最新の BIOS ファイルに BIOS を更新する
- ・ インターネットから直接 BIOS を更新する
- ・ BIOS のバージョン情報を表示する

ユーティリティはマザーボードに付属しているサポート DVD からインストールします。



ASUS Update でインターネットを使用した機能を使用するためには、インターネット接続が必要です。

ASUS Update をインストールする

手順

1. 光学ドライブにサポート DVD をセットします。ドライブメニューが表示されます。
2. Utility タブをクリックし、「**Install ASUS Update**」をクリックします。
3. ASUS Update ユーティリティがシステムにインストールされます。

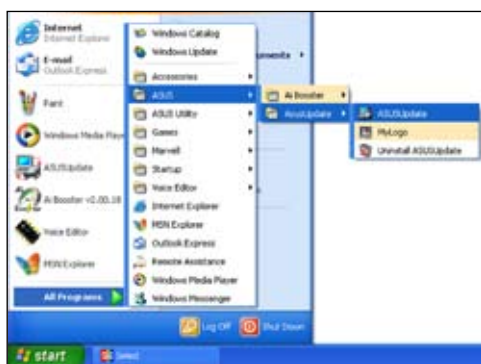


このユーティリティを使用してBIOSを更新する場合は、すべての Windows® アプリケーションを終了してください。

インターネットを通してBIOSを更新する

手順

1. **スタートメニュー → プログラム → ASUS → ASUS Update → ASUS Update** をクリックします。ASUS Update ユーティリティを起動すると、ASUS Update メインウィンドウが表示されます。



2. ドロップダウンメニューから、「**Update BIOS from the internet**」を選択し、「**Next**」をクリックします。
3. 最寄りの ASUS FTP サイトを選択するか、「**Auto Select**」をクリックし、「**Next**」をクリックします。

4. ダウンロードしたい BIOS バージョンを選択し、「**Next**」をクリックします。
5. 画面の指示に従って、更新プロセスを完了します。



ASUS Update ユーティリティはインターネットから最新版に更新することができます。すべての機能を利用できるように、常に最新版をご使用ください。



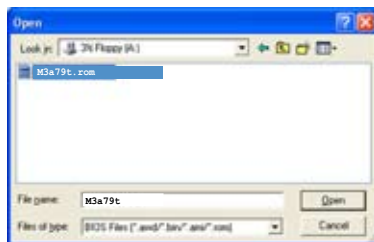
BIOSファイルからBIOSを更新する

手順

1. スタートメニュー → プログラム → **ASUS** → **ASUSUpdate** → **ASUSUpdate** をクリックして、ASUS Update ユーティリティを起動すると、ASUS Update メインウィンドウが表示されます。
2. ドロップダウンメニューから「**Update BIOS from a file**」を選択し、「**Next**」をクリックします。



3. OpenダイアログからBIOSファイルを探し、「**Open**」をクリックします。
4. 画面の指示に従い、更新プロセスを完了します。



3.1.2 ブートフロッピーディスクを作成する

1. 次のいずれかの方法で、ブートフロッピーディスクを作成します。


DOS 環境

- a. ドライブに1.44MBのフロッピーディスクを挿入します。
- b. DOSプロンプトで、**format A:/S**を入力し、<Enter>を押します。

Windows® XP 環境

- a. 1.44 MBのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。
- b. Windows® のデスクトップからスタートをクリックし、マイコンピュータを選択します。
- c. 3.5 インチフロッピーディスクドライブアイコンを選択します。
- d. マウスを右クリックし、コンテキストメニューからフォーマットを選択します。
3.5 インチフロッピーディスクのフォーマットウィンドウが表示されます。
- e. 「フォーマットのオプションリストから」**Create an MS-DOS startup disk**を選択し、**Start**をクリックします。

Windows® Vista 環境

- a. フォーマット済みのHD 1.44 MB フロッピーディスクをドライブに挿入します。
 - b. デスクトップから  アイコンをクリックし、「コンピュータ」を選択します。
 - c. **フロッピーディスクドライブ** を右クリックし、「フォーマット」をクリックして「フォーマット - 3.5 インチFD」のダイアログボックスを表示します。
 - d. 「**MS-DOS の起動ディスクを作成する**」のチェックボックスを選択します。
 - e. 「**開始**」をクリックします。
2. オリジナルまたは最新のマザーボードのBIOSファイルをブートフロッピーディスクにコピーします。

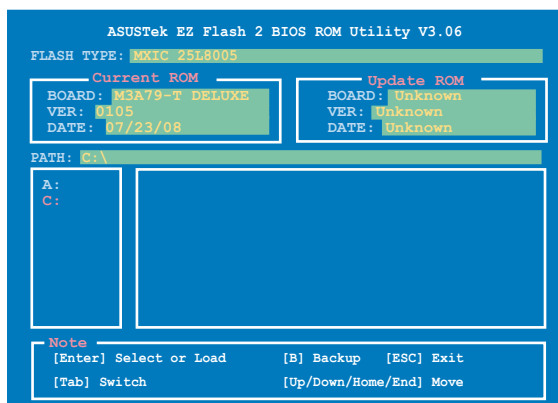
3.1.3 ASUS EZ Flash 2

ASUS EZ Flash 2 はブートフロッピーディスクや DOS ベースのユーティリティを使うことなく、BIOS を短時間で更新します。このユーティリティは内蔵の BIOS チップですので、システム起動時の自己診断テスト(POST)中に、<Alt> + <F2>を押すことで起動することができます。

EZ Flash 2 を使用して BIOS を更新する手順

1. ASUS Webサイト (www.asus.co.jp) にアクセスして、マザーボード用の最新の BIOS ファイルをダウンロードします。
2. BIOS ファイルをフロッピーディスクまたは USBフラッシュメモリに保存し、システムを再起動します。
3. EZ Flash 2 を 起動する方法には以下の2つがあります。
 - (1) BIOS ファイルを保存したフロッピーディスク / USBフラッシュメモリをフロッピーディスクドライブまたは USB ポートに挿入します。

POST 中に <Alt> + <F2> を押すと下の画面が表示されます。



- (2) BIOS セットアッププログラムで、Tools メニューに進み EZ Flash2 を選択して <Enter> を押します。
 <Tab> を使ってドライブを変更し<Enter> を押します。
4. BIOS ファイルが検出されると EZ Flash 2 が BIOS をアップデートし、システムが自動的に再起動されます。



- **FAT 32/16** フォーマットの USBフラッシュメモリ、フロッピーディスク等のデバイスのみをサポートします。
- BIOS を更新中にシステムのシャットダウンやリセットを行わないでください。システム起動エラーの原因となります。

3.1.4 AFUDOS

AFUDOS ユーティリティは、BIOS ファイルを保存したブートフロッピーディスクを使用して、DOS 環境で BIOS ファイルを更新します。また、このユーティリティで現在の BIOS ファイルをバックアップ用に保存しておくこともできます。

現在のBIOSをコピーする

AFUDOS ユーティリティを使用して現在の BIOS ファイルをコピーします。



- フロッピーディスクは書き込み可能なもので、ファイルを保存するために少なくとも 1024KB の空き容量が必要です。
- 説明で使用している BIOS の画面は一例です。実際の BIOS 画面とは、異なる場合があります。

1. マザーボードサポート DVD 内に収録された AFUDOS ユーティリティ (afudos.exe) をブートフロッピーディスクにコピーします。
2. ブートフロッピーディスクからシステムを起動し、プロンプトで以下のように入力します。

afudos /o[filename]

[filename]は自由に決めることができます。入力可能な名前は、8文字以下の英数字のファイル名と3文字の英数字の拡張子です。

```
A:\>afudos /oOLDBIOS1.rom
```

ファイル名 拡張子

3. <Enter>を押します。マザーボードの BIOS ファイルがフロッピーディスクにコピーされます。

```
A:\>afudos /oOLDBIOS1.rom
AMI Firmware Update Utility - Version 1.19(ASUS V2.07(03.11.24BB))
Copyright (C) 2002 American Megatrends, Inc. All rights reserved.
Reading flash ..... done
Write to file..... ok
A:\>
```

BIOS ファイルがコピーされると、DOS プロンプトに戻ります。

BIOSファイルを更新する

AFUDOS ユーティリティを使用して BIOS ファイルを更新する手順

1. ASUS Web サイト (www.asus.co.jp) にアクセスして、マザーボード用の最新の BIOS ファイルをダウンロードして、ブートフロッピーディスクに保存してください。



BIOSファイル名は紙などに書きとめてください。DOSプロンプトでBIOSファイル名を正確に入力する必要があります。

- マザーボードサポート DVD 内に収録されたAFUDOS ユーティリティ (afudos.exe) をブートフロッピーディスクにコピーします。
- ブートフロッピーディスクからシステムを起動し、プロンプトで以下のように入力します。

afudos /i [filename]

[filename] は、BIOS ファイル名です。

```
A:\>afudos /iM3A79-T.ROM
```

- ファイルが確認されると、BIOS の更新が開始されます。

```
A:\>afudos /iM3A79-T.ROM
AMI Firmware Update Utility - Version 1.19 (ASUS V2.07 (03.11.24BB))
Copyright (C) 2002 American Megatrends, Inc. All rights reserved.

WARNING!! Do not turn off power during flash BIOS
Reading file ..... done
Reading flash ..... done

Advance Check .....
Erasing flash ..... done
Writing flash ..... 0x0008CC00 (9%)
```



BIOS の更新中にシステムのシャットダウンやリセットを行わないでください。システムエラーの原因となります。

- BIOS の更新プロセスが完了すると、DOS プロンプトに戻ります。HDDからシステムを再起動してください。

```
A:\>afudos /iM3A79-T.ROM
AMI Firmware Update Utility - Version 1.19 (ASUS V2.07 (03.11.24BB))
Copyright (C) 2002 American Megatrends, Inc. All rights reserved.

WARNING!! Do not turn off power during flash BIOS
Reading file ..... done
Reading flash ..... done

Advance Check .....
Erasing flash ..... done
Writing flash ..... done
Verifying flash .... done

Please restart your computer

A:\>
```

3.1.5 ASUS CrashFree BIOS 2

ASUS CrashFree BIOS 2 は BIOS の自動復旧ツールで、BIOS 更新時に障害を起こした場合や破損した BIOS ファイルを復旧します。破損した BIOS ファイルはサポート DVD、または BIOS ファイルを保存したフロッピーディスクで更新することができます。



- このユーティリティを使用する前に、サポート CD または BIOS を保存したフロッピーディスクをお手元にご用意ください。
- フロッピーディスクに保存する、オリジナルまたは最新の BIOS ファイルの名前は「M3A79-T.ROM」にしてください。

サポート DVD から BIOS を復旧する

手順

1. システムの電源をオンにします。
2. サポート DVD を光学ドライブに挿入します。
3. 下のメッセージが表示され、DVD の BIOS ファイルが自動的にチェックされます。

```
Bad BIOS checksum. Starting BIOS recovery...  
Checking for floppy...
```

BIOS が検出されると、BIOS ファイルを自動的に読み込み、破損した BIOS ファイルを更新します。

```
Bad BIOS checksum. Starting BIOS recovery...  
Checking for floppy...  
Floppy found!  
Reading file "M3A79-T.ROM". Completed.  
Start flashing...
```

4. 更新作業が完了したらシステムを再起動してください。

フロッピーディスクから BIOS を復旧する

手順

1. BIOS ファイルを保存したフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットします。
2. システムをオンにします。
3. デバイスが検出されると自動的に BIOS ファイルを読み込み、BIOS の更新が開始されます。
4. 更新作業が完了したらシステムを再起動します。



BIOS を更新している間に、システムのシャットダウンやリセットを行わないでください。システムの起動エラーの原因となります。

3.2 BIOS 設定プログラム

本マザーボードはプログラム可能なファームウェアを搭載しており、「3.1 BIOS 管理更新」で説明した付属ユーティリティを使用してBIOSの更新をすることが可能です。

BIOS 設定プログラムは、マザーボードを取り付けた時や、システムの再構成をした時、または“Run Setup”を促された時に使用します。本項では、この機能を使用してコンピュータの設定をする方法を説明します。

BIOS 設定プログラムを使用するように指示されていない場合でも、コンピュータの設定を変更することができます。例えば、セキュリティパスワード機能を有効にする、または、電源管理設定を変更することができます。これらの設定を変更するためには、コンピュータがこれらの変更を認識し、ファームウェアのCMOS RAMに記録できるように、BIOS設定プログラムを使用してコンピュータの設定を変更する必要があります。

マザーボードのファームウェアにはBIOS設定プログラムが搭載されています。BIOS 設定プログラムはコンピュータを起動するときに実行することができます。起動時の自己診断テスト (POST) の間にキーを押すとBIOS 設定プログラムが起動します。

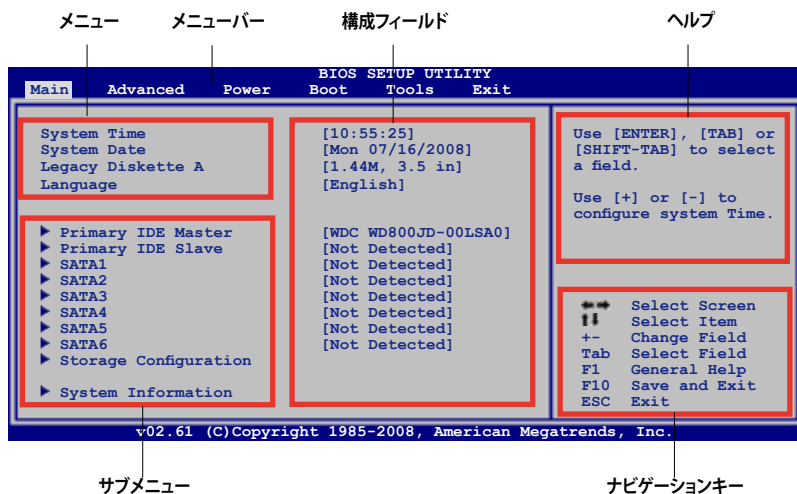
POST の終了後にBIOS 設定プログラムを実行したい場合は、<Ctrl+Alt+Delete>を押すか、ケースのリセットボタンを押してシステムを再起動します。システムをオフにし、それからまたオンにすることによって再起動することもできます。ただし、これは最初の2つの方法が失敗した場合の最後の手段として行ってください。

BIOS 設定プログラムは簡単に使用できるように設計されています。メニュー画面から、ナビゲーションキーを使用してさまざまなサブメニューをスクロールする、使用可能なオプションから設定を選択することができます。



- このマザーボードの BIOSの初期設定値はほとんどの環境で、最適なパフォーマンスを実現できるように設定されています。BIOS 設定を変更した後システムが不安定になったら、初期設定値をロードしてください。初期設定値に戻すには、終了メニューの下に「**Load Setup Defaults**」を選択します。(詳細は「**3.8 終了メニュー**」をご参照ください)
- 本書に掲載した BIOS の画面は一例であり、実際に表示される内容と異なる場合があります。
- 最新の BIOS はASUS Web サイト(www.asus.co.jp) からダウンロードしてください。

3.2.1 BIOSメニュー画面



3.2.2 メニューバー

スクリーン上部のメニューバーには、次の項目があります。

Main	基本システム設定の変更用
Advanced	拡張システム設定の変更用
Power	拡張電源管理 (APM/ACPI) 設定の変更用
Boot	システム起動設定の変更用
Tools	独自機能の設定オプション用
Exit	終了オプションと初期設定値のロード用

メニューバーの項目を選択するには、キーボードの右または左の矢印キーを使って、項目をハイライト表示させます。

3.2.3 ナビゲーションキー

BIOS メニュー画面の右下には、メニューの操作をするためのナビゲーションキーの説明が表示されています。ナビゲーションキーを使用してメニューの項目を選択し、設定を変更します。

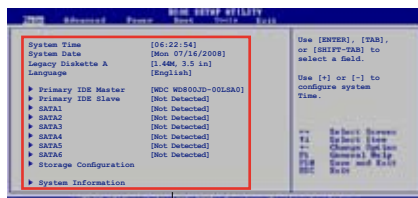


掲載した BIOS の画面は一例であり、実際に表示される内容と異なる場合があります。

3.2.4 メニュー

メニューバーをハイライト表示すると、そのメニューの設定項目が表示されます。例えば、メインを選択するとメインのメニューが表示されます。

メニューバーの他の項目 (Advanced、Power、Boot、Exit) には、それぞれのメニューがあります。



メインのメニュー

3.2.5 サブメニュー

サブメニューの項目の前には、黒い三角形が付いています。サブメニューを表示するためには、項目を選択し <Enter> を押します。

3.2.6 構成フィールド

構成フィールドには設定された値が表示されています。設定の変更が可能な項目は、フィールドの値を変更することができます。ユーザーによる変更が可能でない項目は、選択することができません。

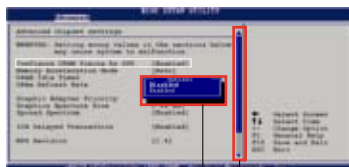
各値はカッコで囲まれており、選択するとハイライト表示されます。フィールドの値を変更するには、選択し <Enter> を押してオプションのリストを表示させます。詳細は「3.2.7 ポップアップウィンドウ」をご参照ください。

3.2.7 ポップアップウィンドウ

項目を選択し <Enter> を押すと、設定可能なオプションと共にポップアップウィンドウが表示されます。

3.2.8 スクロールバー

設定項目が画面に収まりきらない場合は、スクロールバーがメニュー画面の右側に表示されます。上/下矢印キー、または <Page Up>/<Page Down> キーで、スクロールすることができます。



ポップアップウィンドウ

スクロールバー

3.2.9 ヘルプ

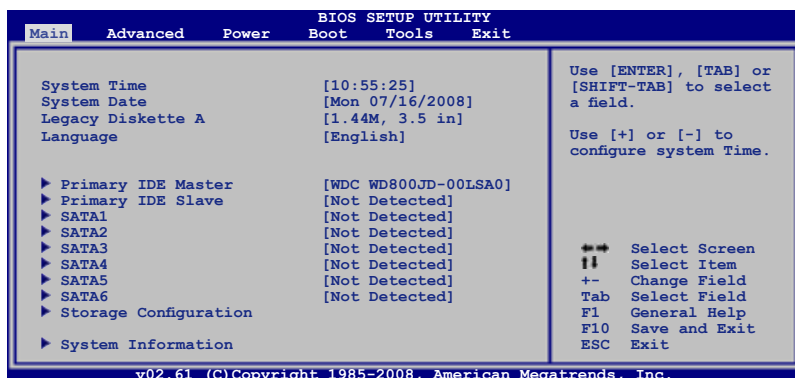
メニュー画面の右上には、選択した項目の簡単な説明が表示されます。

3.3 メインメニュー

BIOS 設定プログラムに入ると、メインメニューが表示され、システム情報の概要が表示されます。



メニュー画面の情報および操作方法については、「3.2.1 BIOS メニュー画面」をご参照ください。



3.3.1 System Time [xx:xx:xx]

システム時間を設定します。

3.3.2 System Date [Day xx/xx/xxxx]

システム日付を設定します。

3.3.3 Legacy Diskette A [1.44M, 3.5 in.]

フロッピーディスクドライブのタイプを設定します。

設定オプション: [Disabled] [720K, 3.5 in.] [1.44M, 3.5 in.]

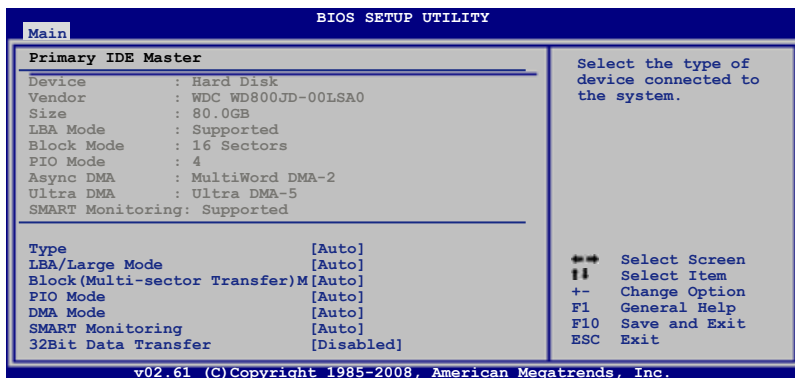
3.3.4 Language [English]

BIOS で表示する言語を選択することができます。

設定オプション: [Chinese(BIG5)] [Chinese(GB)] [Français] [English]

3.3.5 Primary IDE Master/Slave, SATA1-6

セットアップ中に BIOS は自動的に IDE デバイスを検出します。デバイスを選択し、<Enter>を押すと IDE デバイスの情報が表示されます。



BIOSは、Device、Vendor、Size、LBA Mode、Block Mode、PIO Mode、Async DMA、Ultra DMA、SMART Monitoring の各値を自動的に検出します。これらの項目の値は変更することはできません。また、システムに IDE デバイスが接続されていない場合は N/A と表示されます。

Type [Auto]

IDEデバイスのタイプを選択します。[Auto]に設定すると、適切な IDE デバイスタイプを自動的に選択します。光学ドライブを接続している場合は[CDROM]を選択します。デバイスがZIP、LS-120、MOドライブのどれかであれば、[ARMD] (ATAPI リムーバブルメディアデバイス)を選択します。

設定オプション: [Not Installed] [Auto] [CDROM] [ARMD]



この項目は **Primary IDE Master/Slave** のみで表示されます。

LBA/Large Mode [Auto]

LBAモードの設定。デバイスがこのモードをサポートしている場合、[Auto]に設定すると、LBA モードが有効になります。デバイスが LBA モードでフォーマットされていない場合は無効になります。

設定オプション: [Disabled] [Auto]

Block (Multi-sector Transfer) M [Auto]

マルチセクタ転送の設定。[Auto]に設定すると、デバイスがマルチセクタ転送機能をサポートしていれば、デバイス間のデータ転送をマルチセクタで行います。[Disabled]に設定すると、デバイス間のデータ転送は1セクタごとに行います。

設定オプション: [Disabled] [Auto]

PIO Mode [Auto]

PIOモードを選択します。

設定オプション： [Auto] [0] [1] [2] [3] [4]

DMA Mode [Auto]

DMA モードを設定します。

設定オプション： [Auto] [SWDMA0] [SWDMA1] [SWDMA2] [MWDMA0] [MWDMA1] [MWDMA2] [UDMA0] [UDMA1] [UDMA2] [UDMA3] [UDMA4] [UDMA5]

SMART Monitoring [Auto]

SMARTによる監視、分析、報告機能を設定します。

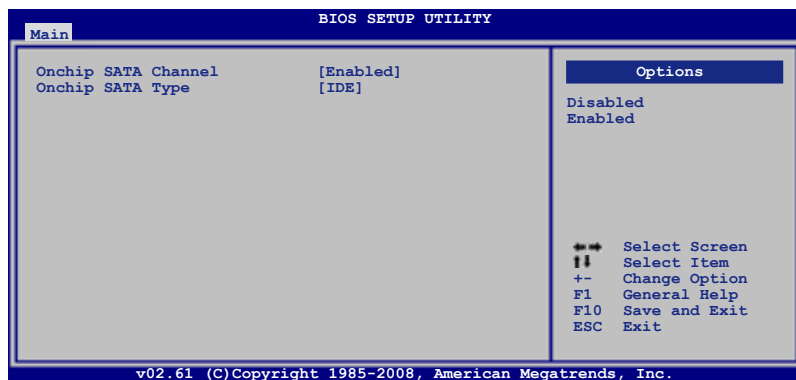
設定オプション： [Auto] [Disabled] [Enabled]

32Bit Data Transfer [Disabled]

32-bit データ転送を設定します。

設定オプション： [Disabled] [Enabled]

3.3.6 Storage Configuration



Onchip SATA Channel [Enabled]

オンチップ SATA チャンネルを設定します。

設定オプション：[Disabled] [Enabled]



次の項目は「OnChip SATA channel」の項目を [Enabled] に設定した場合のみ表示されます。

Onchip SATA Type [IDE]

サウスブリッジチップセットがサポートする Serial ATA コネクタの構成を設定することができます。設定オプション: [IDE] [RAID] [AHCI]

Serial ATA HDD で RAID 0、RAID1、RAID 5、RAID 10 構成を構築する場合は、この項目を [RAID] に設定します。

Serial ATA HDD を Parallel ATA 物理ストレージデバイスとして使用する場合は、初期設定 [IDE] のままにします。

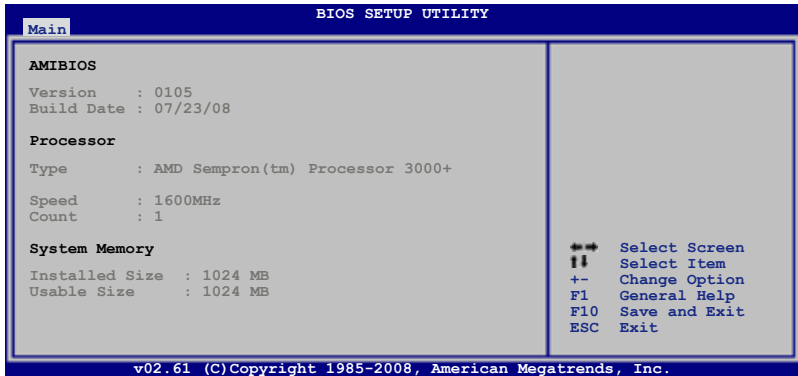
Serial ATA HDD で AHCI (Advanced Host Controller Interface) を使用する場合は、この項目を [AHCI] に設定します。AHCI により、オンボードのストレージドライバで Serial ATA の拡張機能が有効になります。これにより、ドライブ内部のコマンドの順序を最適化し、ランダムアクセス時のストレージパフォーマンスが向上します。



この項目を [AHCI] にした場合は、SATAコネクタ 1-4 のみが検出されます。OS環境でSATAコネクタ 1-6 をAHCI モードで使用するには、AHCI ドライバのインストールが必要です。

3.3.7 システム情報

システム仕様の概要です。BIOS はさまざまな情報を自動的に検出します。



AMI BIOS

自動検出された BIOS 情報を表示します。

Processor

自動検出された CPU の仕様を表示します。

System Memory

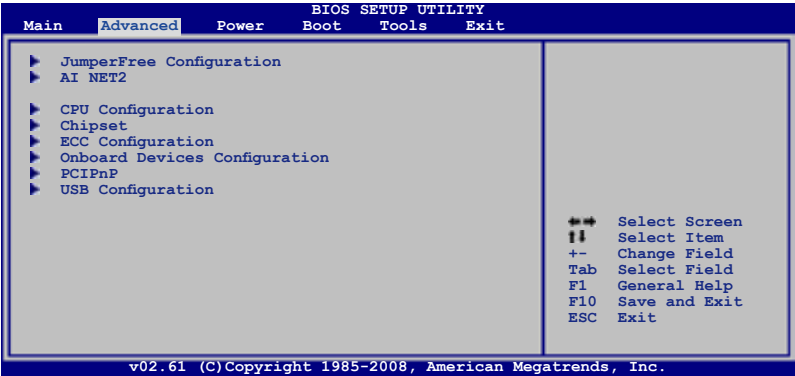
自動検出されたシステムメモリの容量を表示します。

3.4 拡張メニュー

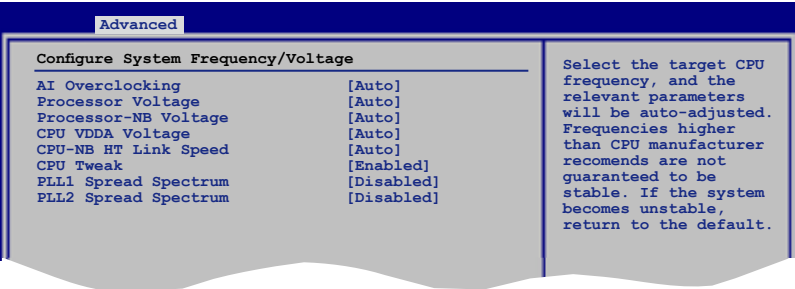
CPUとその他のシステムデバイスの設定を変更します。



拡張メニューの設定変更は、システムの誤動作の原因となることがあります。十分に注意してください。



3.4.1 Jumperfree Configuration



AI Overclocking [Auto]

CPUオーバークロックオプションを選択してCPU内部周波数を設定することができます。以下のプリセットされたオーバークロックオプションのいずれかを選択します。

Manual	オーバークロックの値を手動で設定します。
Auto	システムに対して最適な設定をロードします。
Standard	システムパフォーマンスの標準的な設定をロードします。
Overclock Profile	オーバークロック用に最適な設定をロードします。オーバークロック時でもシステムが安定するよう最適なパラメータが選択されます。



次の項目は「**Ai Overclocking**」を [Overclock Profile] にすると表示されます。

Overclock Options [Disabled]

オーバークロックオプションを設定します。

設定オプション: [Disabled] [Overclock 3%] [Overclock 5%] [Overclock 10%]
[Overclock 15%] [Overclock 20%] [Overclock 30%]



次の 2 項目は「**Ai Overclocking**」を [Manual] にすると表示されます。

FSB Frequency [XXX]

クロックジェネレータからシステムバスと PCI バスに送られる周波数を表示します。数値は <+> <-> キーで調節できます。数字キーで直接数値を入力することもできます。設定範囲は 200 ~ 600 です。

PCIE Frequency [XXX]

PCIE 周波数を設定します。数値は <+> <-> キーで調節できます。数字キーで直接数値を入力することもできます。設定範囲は 100 ~ 150 です。



次の項目は「**Ai Overclocking**」を [Manual]、[Standard]、[Overclock Profile] にすると表示されます。

Processor Frequency Multiplier [Auto]

プロセッサの動作周波数を設定します。

設定オプション: [Auto] [8.00x] [8.50x] [9.00x] [9.50x] [10.00x] [10.50x]

Processor-NB Frequency Multiplier [Auto]

ノースブリッジのプロセッサの動作周波数を設定します。

設定オプション: [Auto] [4.00x] [5.00x] [6.00x] [7.0x] [8.00x] [9.00x]



次の 2 項目の数値は <+> <-> キーで調節できます。数字キーで直接数値を入力することもできます。入力後は <Enter> キーを押してください。初期設定値に戻す場合は、キーボードで [auto] と入力し、<Enter> キーを押します。

Processor Voltage [Auto]

プロセッサの電圧を選択します。設定範囲は 0.0125V 刻みで 0.8000V ~ 1.6875V です。

Processor-NB Voltage [Auto]

プロセッサ-ノースブリッジ電圧を設定します。0. 設定範囲は 0.0125V 刻みで 0.8000V ~ 1.6875V です。

CPU VDDA Voltage [Auto]

CPU VDDA 電圧を設定します。

設定オプション: [Auto] [2.50V] [2.6V] [2.7V] [2.8V]

CPU-NB HT Link Speed [Auto]

CPU-Northbridge HyperTransport リンクスピードを設定します。

設定オプション: [Auto] [200 MHz] [400 MHz] [600 MHz] [800 MHz] [1 GHz]

[1.2 GHz] [1.4 GHz] [1.6 GHz] [1.8 GHz]



次の3項目は「**Ai Overclocking**」を [Manual]、[Standard]、[Overclock Profile] にすると表示されます。数値は <+> <-> キーで調節できます。数字キーで直接数値を入力することもできます。入力後は <Enter> キーを押してください。初期設定値に戻す場合は、キーボードで [auto] と入力し、<Enter> キーを押します。

DDR Voltage [Auto]

DDR2 リファレンス電圧を設定します。設定範囲は 0.02V 刻みで 1.80V ~ 2.50V です。

Northbridge Voltage [Auto]

ノースブリッジの電圧を設定します。次の3項目は「**Northbridge Voltage**」を [Manual] にすると表示されます。設定オプション: [Auto] [Manual]

HyperTransport Voltage [Auto]

HyperTransport 電圧の数値は数字キーで入力できます。設定範囲は 0.02V 刻みで 1.20V ~ 1.40V です。

Core/PCIe Voltage [Auto]

Core/PCIe 電圧の数値は数字キーで入力できます。設定範囲は 0.02V 刻みで 1.10V ~ 1.40V です。

NB PCIe PLL [Auto]

設定オプション: [Auto] [1.8V] [1.9V] [2.0V] [2.1V]

Southbridge Voltage [Auto]

直接数字を入力してサウスブリッジの電圧を設定します。設定できる値は 0.02V 刻みで 1.20V から 1.40V です。



- **Processor Voltage、DDR Voltage、Core/PCIe Voltage、Southbridge Voltage** の設定値が高すぎた場合、CPU、メモリモジュール、チップセットの故障の原因となります。ご注意ください。
- 上記の項目の値の中には、異なる色で表示され、危険なレベルの高電圧設定を知ることができるものがあります。詳細は下の表をご参照ください。
- 高電圧設定でもシステムを安定して動作させるには、より上位の冷却システムが必要となります。

	ブルー	イエロー	ピンク	レッド
プロセッサ電圧	0.8000V~ 1.6000V	該当なし	該当なし	1.6125V~ 1.6875V
DDR 電圧	1.80V~1.98V	2.00V~2.18V	2.20V~2.38V	2.40V~2.50V
コア/PCI Express 電圧	1.10V~1.28V	該当なし	該当なし	1.30V~1.40V
サウスブリッジ電圧	1.20V~1.28V	該当なし	該当なし	1.30V~1.40V

Auto Xpress [Auto]

AMD では、プラットフォームパフォーマンスを向上させるため、この項目を有効にすることを推奨しています。

設定オプション: [Auto] [Disabled] [Enabled]

CPU Tweak [Enabled]

CPU Tweak 機能を切り替えます。

設定オプション: [Enabled] [Disabled]

Memory Configuration

Advanced	
Memory Configuration	
Bank Interleaving	[Auto]
Channel Interleaving	[XOR of Address bit]
MemClk Tristate C3/ATLVID	[Disabled]
Memory Hole Remapping	[Enabled]
DRAM Ganged Mode	[Auto]
Power Down Enable	[Enabled]
Power Down Mode	[Channel]
Read Delay	[Auto]
DCQ Bypass Maximum	[Auto]
Enable Bank Memory Interleaving.	

Bank Interleaving [Auto]

設定オプション: [Disabled] [Auto]

Channel Interleaving [XOR of Address bit]

設定オプション: [Disabled] [Address bits 6] [Address bits 12]
[XOR of Address bits [20:16, 6]] [XOR of Address bits [20:16, 9]]

MemClk Tristate C3/ATLVID [Disabled]

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Memory Hole Remapping [Enabled]

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

DRAM Ganged Mode [Auto]

設定オプション: [Auto] [Enabled] [Disabled]

Power Down Enable [Enabled]

DDR パワーダウンモードを設定します。設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Power Down Mode [Channel]

DDR パワーダウンモードを設定します。この項目は「Power Down Enable」を有効にすると表示されます。設定オプション: [Channel] [Chip Select]

Read Delay [Auto]

設定オプション: [Auto] [0.5 Memory CLKs] [1.0 Memory CLKs]
[1.5 Memory CLKs] [2.0 Memory CLKs] [2.5 Memory CLKs] [3.0 Memory CLKs]
[3.5 Memory CLKs] [4.0 Memory CLKs]

DCQ Bypass Maximum [Auto]

設定オプション: [Auto] [0x] [1x] [2x]~[14x] [15x]

DRAM Timing Configuration

Advanced	
DRAM Timing Configuration	
Memory Clock Mode	[Auto]
2T Mode	[Auto]
DRAM Timing Mode	[Auto]

Options
Auto
Limit
Manual



次の項目の設定オプションはマザーボードに取り付けたメモリによって異なります。

Memory Clock Mode [Auto]

設定オプション: [Auto] [Limit] [Manual]

Memclock Value [200 MHz]

「Memory Clock Mode」を [Limit] または [Manual] にすると表示されます。

設定オプション: [400 MHz] [533 MHz] [667 MHz] [800 MHz] [1067 MHz]

2T Mode [Auto]

設定オプション: [Auto] [Disabled] [Enabled]

DRAM Timing Mode [Auto]

設定オプション: Auto] [Both]



次の各項目は「DRAM Timing Mode」を [Both] にすると表示されます。

CAS Latency (CL) [Auto]

設定オプション: [Auto] [3 CLK] [4 CLK] [5 CLK] [6 CLK] [7 CLK DH_Only]

TCWL [Auto]

設定オプション: [Auto] [5 CLK] [6 CLK] [7 CLK] [8 CLK]

TRCD [Auto]

設定オプション: [Auto] [3 CLK] [4 CLK] [5 CLK] [6 CLK]

TRP [Auto]

設定オプション: [Auto] [3 CLK] [4 CLK] [5 CLK] [6 CLK]

TRAS [Auto]

設定オプション: [Auto] [5 CLK] [6 CLK] [7 CLK] [8 CLK] [9 CLK] [10 CLK]
[11 CLK] [12 CLK] [13 CLK]

tWR [Auto]

設定オプション: [Auto]

tRFC0 [Auto]

設定オプション: [Auto]

tRFC1 [Auto]

設定オプション: [Auto]

tRFC2 [Auto]

設定オプション: [Auto]

tRFC3 [Auto]

設定オプション: [Auto]

TRC [Auto]

設定オプション: [Auto] [11 CLK] [12 CLK] [13 CLK] [14 CLK] [15 CLK]
[16 CLK] [17 CLK] [18 CLK] [19 CLK]

TRRD [Auto]

設定オプション: [Auto] [2 CLK] [3 CLK] [4 CLK] [5 CLK]

tWTR [Auto]

同一のDIMMスロットにアクセスする時の、書き込みから読み込みの遅延を設定します。

設定オプション: [Auto]

tRTP [Auto]

CAS読み込みからプリチャージするまでの時間を指定します。設定オプション: [Auto]

PLL1/2 Spread Spectrum [Disabled]

EMI コントロール用の PLL1/2 スペクトラム拡散を設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

AI Clock Skew for Channel A [Auto]

設定オプション: [Auto] [Advance 900ps] [Advance 750ps] [Advance 600ps] [Advance 450ps] [Advance 300ps] [Advance 150ps] [Normal] [Delay 150ps]
[Delay 300ps] [Delay 450ps] [Delay 600ps] [Delay 750ps] [Delay 900ps]

Current Clock Skew [Advance450ps]

チャンネル A の現在のクロックスキューを表示します。

AI Clock Skew for Channel B [Auto]

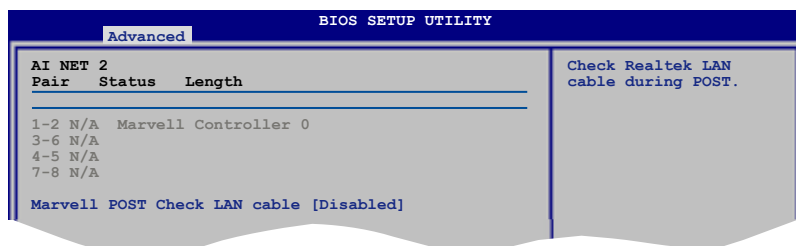
設定オプション: [Auto] [Advance 900ps] [Advance 750ps] [Advance 600ps] [Advance 450ps] [Advance 300ps] [Advance 150ps] [Normal] [Delay 150ps]
[Delay 300ps] [Delay 450ps] [Delay 600ps] [Delay 750ps] [Delay 900ps]

Current Clock Skew [Advance450ps]

チャンネル B の現在のクロックスキューを表示します。

3.4.2 AI NET 2

LAN (RJ-45) ポートに接続した LAN ケーブルの状態を表示します。



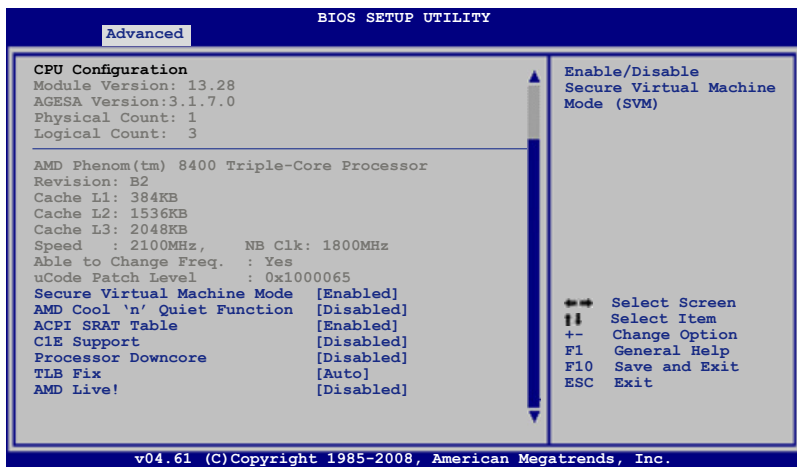
Marvell POST Check LAN cable [Disabled]

POSTの段階で LAN ケーブルのチェックを行うかを設定します。有効にすると、ケーブルのエラーや、ショート、エラー箇所を報告します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

3.4.3 CPU の設定

BIOS が自動的に検出するCPU 関連の情報です。



Secure Virtual Machine Mode [Enabled]

Secure Virtual Machine モードを設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

AMD Cool 'n' Quiet Function [Disabled]

AMD Cool 'n' Quiet テクノロジを設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

ACPI SRAT Table [Enabled]

ACPI SRAT テーブルの構築を設定します。設定オプション: [Disabled] [Enabled]

C1E Support [Disabled]

Enhanced Halt State のサポートを切り替えます。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Processor Downcore [Disabled]

選択したプロセッサのコアを無効にします。

設定オプション: [Disabled] [1] [2]

TLB Fix [Auto]

AMD Phenom プロセッサの TLB パッチを切り替えます。

設定オプション: [Auto] [Disabled] [Enabled]

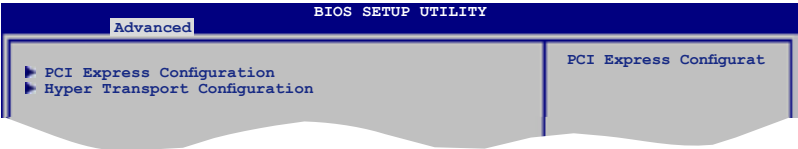
AMD Live! [Disabled]

AMD® Live! Technology を設定します。

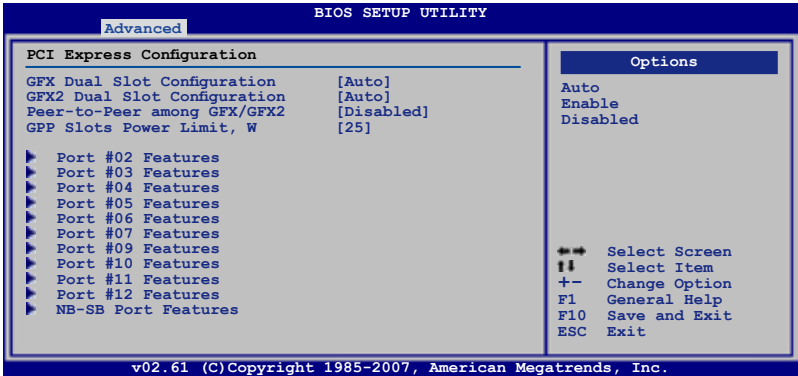
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

3.4.4 チップセット

チップセットの設定を変更します。項目を選択し、<Enter>を押すとサブメニューを表示させることができます。



PCI Express Configuration



GFX Dual Slot Configuration [Auto]

設定オプション: [Auto] [Enable] [Disabled]

GFX2 Dual Slot Configuration [Auto]

設定オプション: [Auto] [Enable] [Disabled]

Peer-to-Peer among GFX/GFX2 [Disabled]

設定オプション: [Enable] [Disabled]

GPP Slots Power Limit, W [25]

<+> と <-> キーを使用して、または直接数字を入力して値を調整してください。
設定できる値は 0 から 255 の範囲です。

Port #02/03/11/12 Features

Gen2 High Speed Mode [Disabled]

設定オプション: [Disabled] [Software Switch] [Autonomous Switch]

Link ASPM [Disabled]

設定オプション: [Disabled] [L0s] [L1] [L0s & L1]

Link Width [Auto]

設定オプション: [Auto] [x1 Mode] [x2] [x4] [x8 Mode] [x16]

Slot Power Limit, W [75]

<+> と <-> キーを使用して、または直接数字を入力して値を調整してください。設定できる値は 0 から 255 の範囲です。

Port #04/05/06/07/09/10 Features

Gen2 High Speed Mode [Disabled]

設定オプション: [Disabled] [Software Switch] [Autonomous Switch]

Link ASPM [Disabled]

設定オプション: [Disabled] [L0s] [L1] [L0s & L1]

NB-SB Port Features

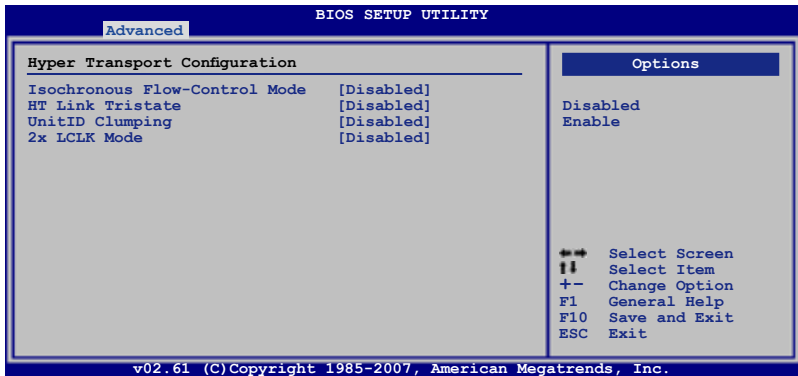
NB-SB link ASPM [Disabled]

設定オプション: [Disabled] [L1]

NP NB-SB VC1 Traffic Support [Disabled]

設定オプション: [Enabled] [Disabled]

Hyper Transport Configuration



Isochronous Flow-Control Mode [Disabled]

設定オプション: [Disabled] [Enable]

HT Link Tristate [Disabled]

設定オプション: [Disabled] [CAD/CTL] [CAD/CTL/CLK]

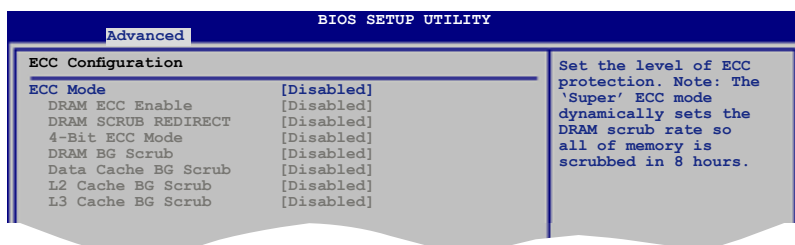
UnitID Clumping [Disabled]

設定オプション: [Disabled] [UnitID 2/3] [UnitID B/C] [UnitID 2/3&B/C]

2x LCLK Mode [Disabled]

設定オプション: [Disabled] [Enable]

3.4.5 ECC Configuration



ECC Mode [Disabled]

DRAM ECCモードの設定を行います。このモードはハードウェアにメモリのエラーの報告と、その修正をさせることができます。この項目を [Basic]、[Good] または [Max] にすると、ECCモードは自動調節となり、[Super] にすると **DRAM BG Scrub** のサブ項目が手動で調節できます。[User] にすると全てのサブ項目を調節することができます。

設定オプション: [Disabled] [Basic] [Good] [Super] [Max] [User]

DRAM ECC Enable [Disabled]

[Enabled] にすると、ハードウェアに自動的にメモリのエラーを報告させ、修正させることができます。結果、システムの整合性を維持することができます。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

DRAM SCRUB REDIRECT [Disabled]

DRAM SCRUB REDIRECT機能を切り替えます。この機能はDRAM ECCエラーが発生した場合、即座にシステムに修正させることができます。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

4-Bit ECC Mode [Disabled]

ECC チップキル機能を切り替えます。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

DRAM BG SCRUB [Disabled]

DRAM BG Scrub を設定します。

設定オプション: [Disabled] [40ns] [80ns] [160ns] [320ns] [640ns] [1.28us] [2.56us] [5.12us] [10.2us] [20.5us] [41.0us] [81.9us] [163.8us] [327.7us] [655.4us] [1.31ms] [4.62ms] [5.24ms] [10.49ms] [20.97ms] [42.00ms] [84.00ms]

Data Cache BG Scrub [Disabled]

Data Cache BG Scrub を設定します。L1 Data Cache RAMをアイドル時に修正します。

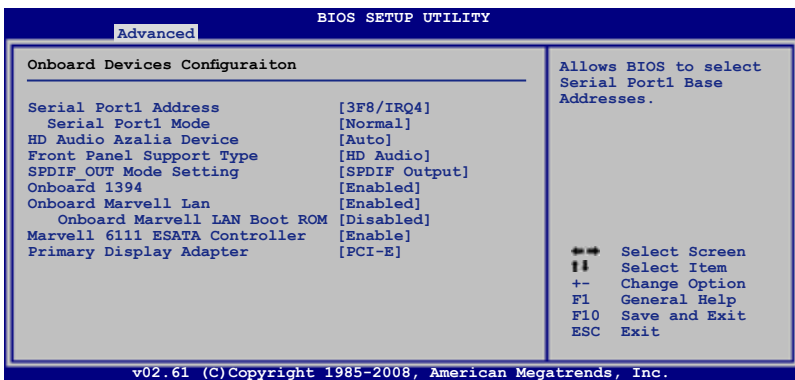
設定オプション: [Disabled] [40ns] [80ns] [160ns] [320ns] [640ns] [1.28us] [2.56us] [5.12us] [10.2us] [20.5us] [41.0us] [81.9us] [163.8us] [327.7us] [655.4us] [1.31ms] [4.62ms] [5.24ms] [10.49ms] [20.97ms] [42.00ms] [84.00ms]

L2/L3 Cache BG Scrub [Disabled]

L2/L3 Cache BG Scrub を設定します。L2/L3 Data Cache RAM をアイドルリング時に正しい値に修正します。

設定オプション: [Disabled] [40ns] [80ns] [160ns] [320ns] [640ns] [1.28us] [2.56us] [5.12us] [10.2us] [20.5us] [41.0us] [81.9us] [163.8us] [327.7us] [655.4us] [1.31ms] [4.62ms] [5.24ms] [10.49ms] [20.97ms] [42.00ms] [84.00ms]

3.4.6 オンボードデバイス設定構成



Serial Port1 Address [3F8/IRQ4]

Serial Port1 ベースアドレスを選択します。

設定オプション: [Disabled] [3F8/IRQ4] [2F8/IRQ3] [3E8/IRQ4] [2E8/IRQ3]

Serial Port1 Mode [Normal]

この項目は「**Serial Port1 Address**」を無効にした場合表示されません。

設定オプション: [Normal] [IrDA] [ASK IR]

HD Audio Azalia Device [Auto]

HD オーディオを設定します。下の項目は、この項目を [Auto] に設定した場合のみ表示されます。

設定オプション: [Auto] [Disabled]

Front Panel Support Type [HD Audio]

フロントパネルオーディオモジュールがサポートするオーディオ規格により、フロントパネルオーディオコネクタ (AAFP) モードを AC'97 または HD オーディオに設定することができます。

設定オプション: [AC97] [HD Audio]

SPDIF_OUT Mode Setting [SPDIF Output]

ビデオカードにHDMI出力が搭載され、SPDIF_Out ヘッダからのSPDIF信号を必要とする場合、HDMI オーディオ出力用に [HDMI Output] に設定する必要があります。

設定オプション:[SPDIF Output] [HDMI Output]

Onboard 1394 [Enabled]

オンボード1394デバイスのサポートを切り替えます。

設定オプション:[Disabled] [Enabled]

Onboard Marvell LAN [Enabled]

設定オプション:[Enable] [Disabled]

Onboard Marvell LAN Boot ROM [Disabled]

この項目は前の項目を有効にすると表示されます。

設定オプション:[Enable] [Disabled]

Marvell 6111 ESATA Controller [Enable]

設定オプション:[Enable] [Disabled]

Primary Display Adapter [PCI-E]

プライマリブートデバイスとして使用する グラフィックコントローラを選択します。

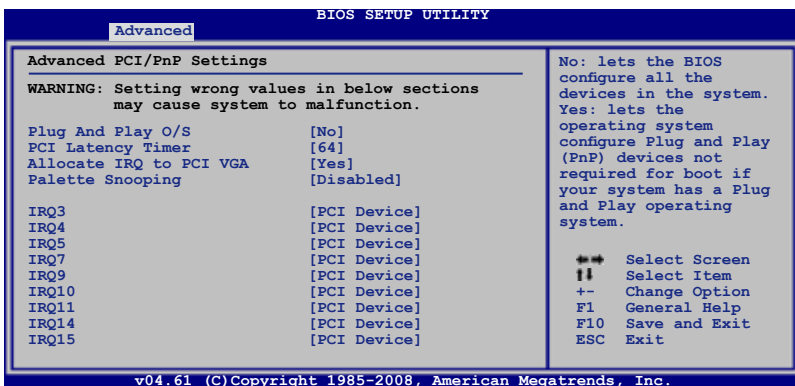
設定オプション:[PCI-E] [PCI]

3.4.7 PCI PnP

PCI/PnP デバイスの設定を変更します。メニューでは PCI/PnP デバイスまたはレガシー ISA デバイス用の IRQ と DMA チャンネルリソースの設定と、レガシー ISA デバイス用のメモリサイズブロックの設定が可能です。



PCI PnP メニューの各項目に誤った数値を選択すると、システムの誤作動の原因となります。設定変更の際はご注意ください。



Plug and Play O/S [No]

[No] にすると、システム内の全てのデバイスは BIOS により構成されます。[Yes] にし、Plug and Play OS をインストールしている場合は、起動に不要な Plug and Play デバイスは全て OS により構成されます。設定オプション: [No] [Yes]

PCI Latency Timer [64]

PCI デバイスの遅延タイマーの PCI のクロック単位を数値を設定します。
設定オプション: [32] [64] [96] [128] [160] [192] [224] [248]

Allocate IRQ to PCI VGA [Yes]

[Yes] にすると、BIOS は PCI ビデオカードから IRQ の要求が出た場合、IRQ をそのカードに割り当てます。[No] にすると、BIOS は IRQ の要求が出ても PCI ビデオカードに IRQ を割り当てません。設定オプション: [No] [Yes]

Palette Snooping [Disabled]

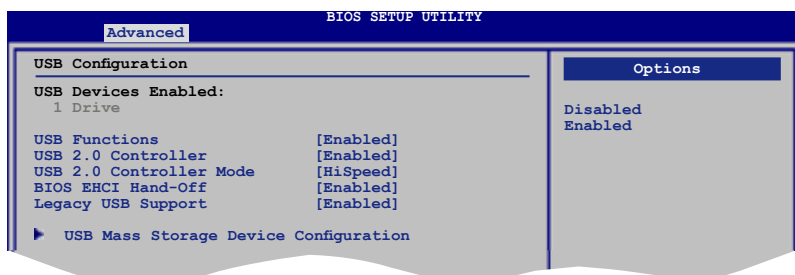
[Enabled] に設定すると、パレットスヌープ機能により ISA グラフィックスデバイスが正しく機能するように、このデバイスがシステムに取り付けられていることを PCI デバイスに通知します。設定オプション: [Disabled] [Enabled]

IRQ-xx assigned to [PCI Device]

[PCI Device] に設定すると、PCI/PnP デバイスが使用できるよう、特定の IRQ が未使用になります。[Reserved] にすると、IRQ がレガシー ISA デバイス用に予約されます。
設定オプション: [PCI Device] [Reserved]

3.4.8 USB 設定

USB関連の機能を変更することができます。項目を選択し<Enter>を押して設定オプションを表示させてください。



「USB Devices Enabled」の項目には自動検出した値が表示されます。USB デバイスが検出されない場合は「None」と表示されます。

USB Functions [Enabled]

USB の各機能を設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]



次の項目は「USB Functions」を [Enabled] に設定すると表示されます。

USB 2.0 Controller [Enabled]

USB 2.0 コントローラを設定します。

設定オプション: [Enabled] [Disabled]

USB 2.0 Controller Mode [HiSpeed]

USB 2.0 コントローラのモードを設定します。HiSpeed (480 Mbps) または FullSpeed (12 Mbps) から選択します。

設定オプション: [FullSpeed] [HiSpeed]

BIOS EHCI Hand-off [Enabled]

[Enabled]に設定することによって、EHCI ハンドオフ機能のない OS でも問題なく動作させることができます。

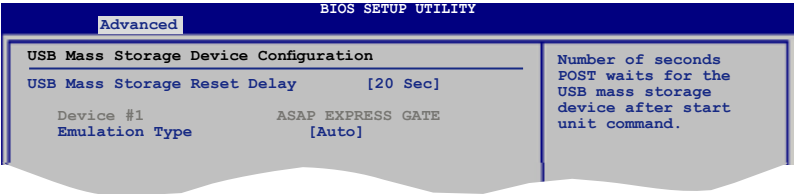
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Legacy USB Support [Enabled]

レガシーUSB デバイスの設定です。[Auto] に設定すると、起動時に USB デバイスを検出します。USB デバイスが検出されると、USBコントローラのレガシーモードが有効になり、検出されないとレガシー USB のサポートは無効になります。

設定オプション: [Disabled] [Enabled] [Auto]

USB Mass Storage Device Configuration



USB Mass Storage Reset Delay [20 Sec]

設定オプション:: [10 Sec] [20 Sec] [30 Sec] [40 Sec]

Emulation Type [Auto]

設定オプション:: [Auto] [Floppy] [Forced FDD] [Hard Disk] [CDROM]

3.5 電源メニュー

ACPI と APM 機能の設定の変更を行います。項目を選択し、<Enter>を押すと設定オプションが表示されます。



3.5.1 Suspend Mode [Auto]

システムのサスペンドに使用される、ACPI の状態を選択します。
設定オプション:[S1 (POS) Only] [S3 Only] [Auto]

3.5.2 Repost Video on S3 Resume [No]

S3/STR レジュームでVGA BIOS POSTを呼び出します。
設定オプション:[No] [Yes]

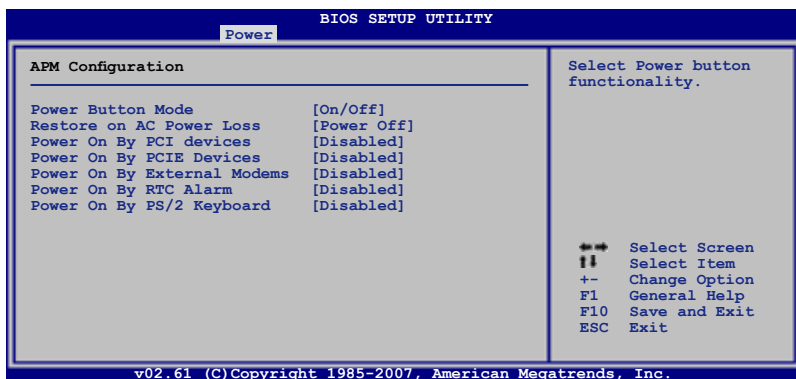
3.5.3 ACPI 2.0 Support [Disabled]

ACPI v2.0 基準に適合させるために、ACPI テーブルのリストを拡張します。
設定オプション:[Disabled] [Enabled]

3.5.4 ACPI APIC Support [Enabled]

APIC が、ACPI をサポートするかどうかを設定します。[Enabled] に設定すると、ACPI 設定内のRSDT ポインタリストにAPIC テーブルのポインタが追加されます。
設定オプション:[Disabled] [Enabled]

3.5.5 APM の設定



Power Button Mode [On/Off]

電源ボタンの機能を設定します。

設定オプション: [On/Off] [Suspend]

Restore On AC Power Loss [Power Off]

[Power Off]に設定すると、停電などで電力が遮断された場合に再通電時に電源をオフにします。また、[Power On]に設定すると、再通電時に電源をオンにします。

[Last State]に設定すると、再通電時に、直前の電源状態に戻ります。

設定オプション: [Power Off] [Power On] [Last State]

Power On By PCI Devices [Disabled]

PCI デバイスを使用して S5 状態から PME ウェイクアップ する機能を設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Power On By PCIE Devices [Disabled]

PCI Express デバイスを使用してウェイクアップする機能を設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Power On By External Modems [Disabled]

コンピュータがソフトオフモードになっているときに、外部モデムが受信した場合に、コンピュータの電源をオンにするかどうかを設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]



コンピュータとアプリケーションが完全に実行するまで、データの送受信はできません。従って、最初の試行では接続を行えません。コンピュータがオフになっている間に外部モデムをオフにしてから再びオンにすると、初期ストリングがシステム電源をオンにします。

Power On By RTC Alarm [Disabled]

ウェイクアップイベントを形成する RTC の設定をします。この項目を [Enabled] に設定すると、アラームの日時が設定可能になります。

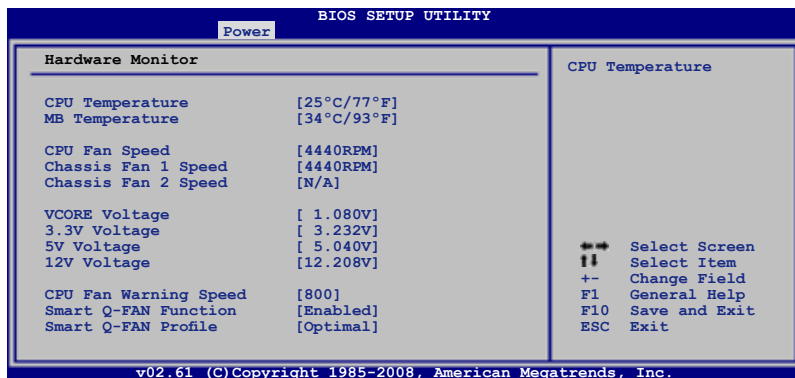
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Power On By PS/2 Keyboard [Disabled]

キーボードの特定のキーを使用してシステムの電源をオンにします。この機能は、+5V SB リード線で最低1A を供給する ATX 電源を必要とします。

設定オプション: [Disabled] [Space Bar] [Power Key] [Ctrl-Esc]

3.5.6 ハードウェアモニタ



CPU Temperature [xxx°C/xxx°F]

MB Temperature [xxx°C/xxx°F]

オンボードハードウェアモニタはマザーボード、CPUの温度を自動的に検出して表示します。[Ignored] にすると表示されなくなります。

CPU Fan/ Chassis Fan 1 and 2 Speed [xxxxRPM] or [Ignored] / [N/A]

ファンスピードを自動的に検出して回転数/分 (RPM) の単位で表示します。マザーボードにファンが取り付けられていない場合、このフィールドには[N/A] と表示されます。

Vcore Voltage, 3.3V Voltage, 5V Voltage, 12V Voltage

オンボード電圧レギュレータを通じ、自動的に電圧出力を検出して表示します。表示しない場合は [Ignored] を選択します。

CPU Fan Warning Speed [800]

CPU ファンの警告スピードを設定します。
設定オプション: [Disabled] [800] [1200] [1600]

Smart Q-FAN Function [Disabled]

Smart Q-Fan 機能を設定します。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]



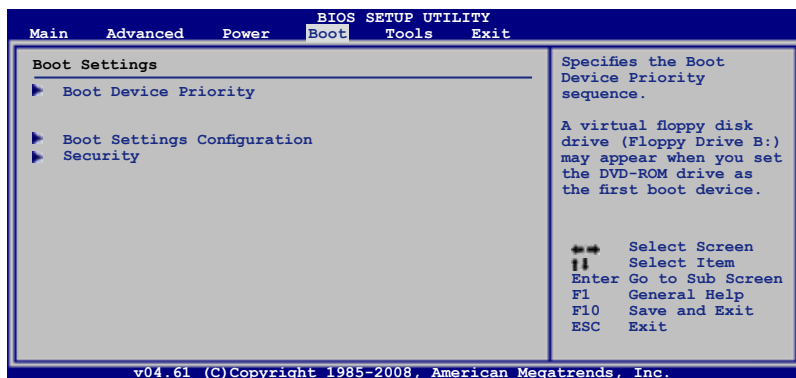
次の「**Smart Q-Fan Profile**」の項目は「**Smart Q-FAN Function**」を [Enabled] に設定すると表示されます。

Smart Q-Fan Profile [Optimal]

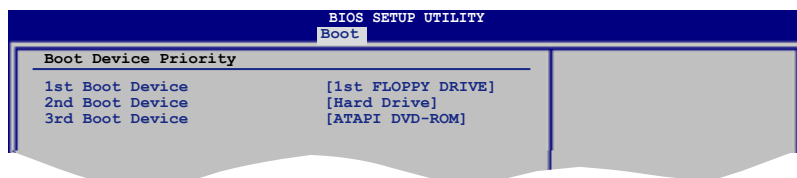
CPU Q-Fan のパフォーマンスを設定します。[Optimal] に設定すると、CPU ファンを CPU 温度に合わせて自動的に調節します。[Silent] に設定すると、ファン速度を最低限に抑え、静音環境を実現します。[Performance] に設定すると、CPU ファン速度は最大になります。
設定オプション: [Performance] [Optimal] [Silent]

3.6 ブートメニュー

システムをブートする際のオプションを変更します。<Enter>を押してサブメニューを表示します。



3.6.1 ブートデバイスの優先順位

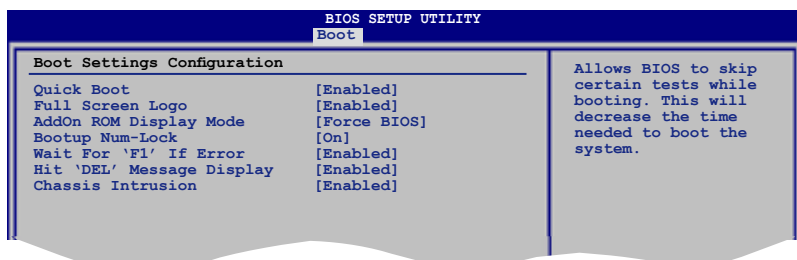


1st ~ xxth Boot Device [1st FLOPPY DRIVE]

ブートさせるデバイスの優先順位を指定します。画面に表示されるデバイスの数は、ブート可能なデバイスの数です。

設定オプション: [1st FLOPPY DRIVE] [Hard Drive] [ATAPI CD-ROM] [Disabled]

3.6.2 起動設定



Quick Boot [Enabled]

起動中にいくつかの自己診断テスト(POST)をスキップして、システムの起動をスピードアップさせます。[Disabled] に設定しているときは、BIOS はすべての POST 項目を実行します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Full Screen Logo [Enabled]

フルスクリーンロゴの表示/非表示を切り替えます。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]



ASUS MyLogo2™ 機能をご利用になる場合は「Full Screen LOGO」の項目を [Enabled] に設定してください。

AddOn ROM Display Mode [Force BIOS]

オプション ROM に対するディスプレイのモードを設定します。

設定オプション: [Force BIOS] [Keep Current]

Bootup Num-Lock [On]

電源をオンにしたときの、NumLock の状態を選択します。

設定オプション: [Off] [On]

Wait for 'F1' If Error [Enabled]

[Enabled] に設定するとシステムはエラー発生時に<F1> キーを押すまで待機します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Hit 'DEL' Message Display [Enabled]

[Enabled] に設定すると、POST 中に「Press DEL to run Setup (Delete キーでBIOSメニューを表示)」というメッセージが表示されます。

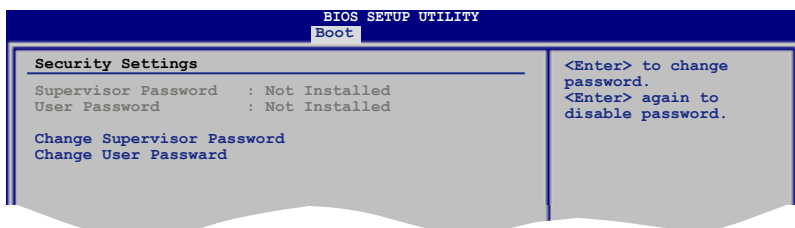
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Chassis Intrusion [Enabled]

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

3.6.3 セキュリティ

システムセキュリティ設定を変更します。項目を選択し、<Enter> を押すと設定オプションが表示されます。



Change Supervisor Password

管理者パスワードの設定または変更を行います。画面上部に表示されている「Supervisor Password」は、初期設定値は「Not Installed」になっています。パスワードを設定すると、「Installed」に変更されます。

管理者パスワードの設定手順

1. 「Change Supervisor Password」を選択し、<Enter>を押します。
2. 「password box」で、6 文字以上の英数字からなるパスワードを入力し、<Enter>を押します。
3. パスワードの確認を要求されたら、もう一度パスワードを入力します。

パスワードの設定が完了すると、「Password Installed」というメッセージが表示されます。

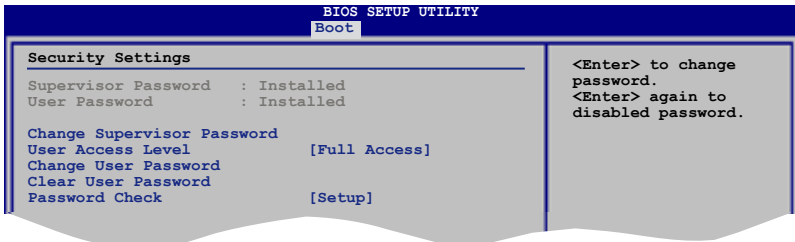
管理者パスワードを変更する場合は、設定と同じ手順に従います。

管理者パスワードの消去は、「Change Supervisor Password」を選択し、<Enter> を押します。消去すると「Password Uninstalled」というメッセージが表示されます。



管理者パスワードを忘れた場合、CMOS リアルタイムクロック(RTC) RAM を消去してパスワードをクリアすることができます。RTC RAM を消去する方法については、「[2.6 ジャンプ](#)」をご参照ください。

管理者パスワードを設定すると、他のセキュリティ設定を変更するための項目が表示されます。



User Access Level [Full Access]

BIOSメニューへのアクセス制限の選択。

設定オプション: [No Access] [View Only] [Limited] [Full Access]

[No Access]、BIOSメニューへのユーザーのアクセスを拒否します。

[View Only]、アクセスは許可しますが設定の変更はできません。

[Limited]、日時など、限られた設定のみを変更することができます。

[Full Access]、すべての項目を表示、変更することができます。

Change User Password

ユーザーパスワードの設定または変更をします。画面上部に表示されている「User Password」は初期設定値では「Not Installed」になっています。パスワードを設定すると、「Installed」に変更されます。

ユーザーパスワードの設定手順

1. 「Change User Password」を選択し、<Enter>を押します。
2. 「password box」で、6文字以上の英数字からなるパスワードを入力し、<Enter>を押します。
3. パスワードの確認を要求されたら、もう一度パスワードを入力します。

パスワードの設定が完了すると、「Password Installed」というメッセージが表示されます。

ユーザーパスワードを変更する場合は、設定と同じ手順で行います。

Clear User Password

ユーザーパスワードをクリアします。

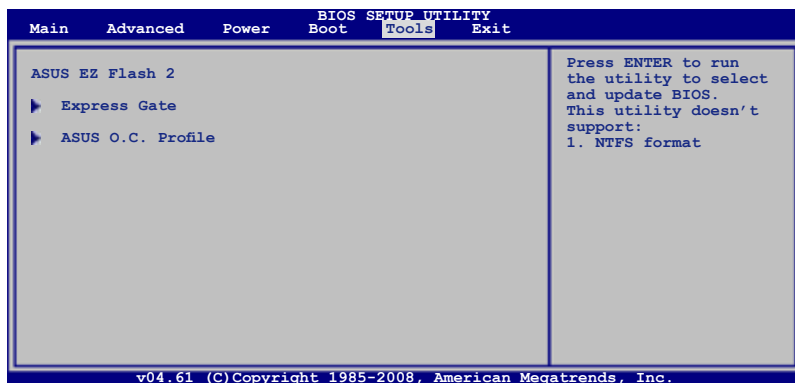
Password Check [Setup]

この項目を[Setup]に設定すると、BIOSはBIOSメニューへのアクセス時に、ユーザーパスワードの入力を要求します。[Always]に設定すると、BIOSはBIOSメニューへのアクセス時と、システムの起動時に、ユーザーパスワードの入力を要求します。

設定オプション: [Setup] [Always]

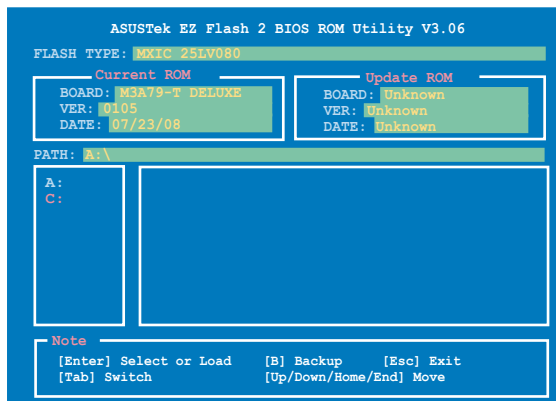
3.7 ツールメニュー

独自機能のオプション設定をします。項目を選択し<Enter>を押してサブメニューを表示させます。

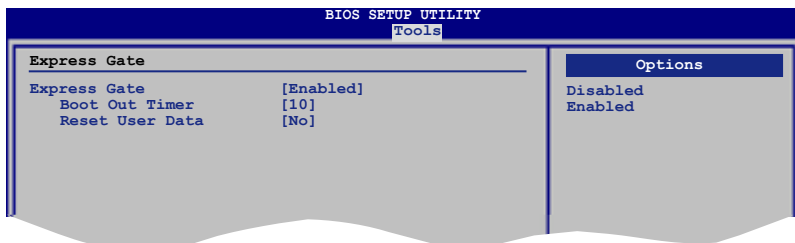


3.7.1 ASUS EZ Flash 2

ASUS EZ Flash 2 を起動します。<Enter>を押すと、確認メッセージが表示されます。左右矢印キーを使って [Yes] または [No] を選択し<Ok>を押して選択を決定します。



3.7.2 Express Gate



この機能を利用するには、ASUS Express Gate アプリケーションをサポートDVDからインストールする必要があります。詳細はページ 3-5 をご参照ください。

Express Gate [Enabled]

ASUS Express Gate 機能を設定します。この機能はASUS独自の機能で、ブラウザや Skype 等のアプリケーションに瞬時にアクセスできる機能です。

設定オプション: [Enabled] [Disabled]

Boot Out Timer [10]

Express Gate のトップ画面での待機時間を設定します。この時間が経過すると、Windows OS（または他のOS）が起動します。[Prompt User] を選択すると、ユーザーがアクションを起こすまで無制限に待機します。

設定オプション: [Disabled] [1 second] ~ [30 seconds]



数字キーで数値を入力し、<Enter> キーを押して確定します。

Reset User Data [No]

Express Gate のユーザーデータを消去します。

設定オプション: [No] [Reset]

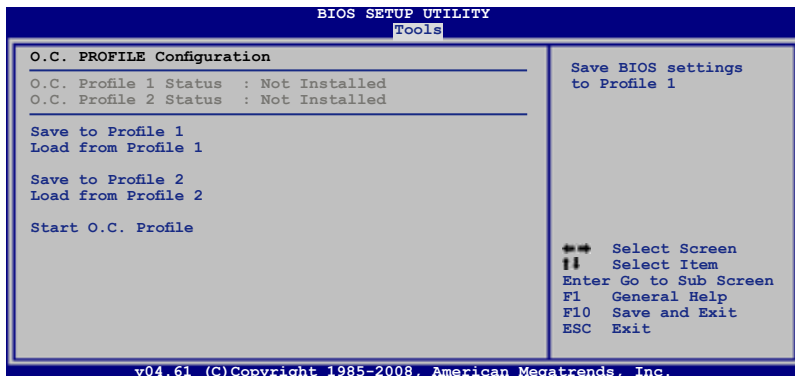
この項目を **[Reset]** に設定する場合は、設定をBIOSに保存し、次回に Express Gate を起動した場合にユーザーデータが消去されるようにしてください。ユーザーデータには、Express Gate の設定、Web ブラウザで保存された個人情報（ブックマーク、Cookie、ブラウザ履歴等）が含まれます。これは、設定したデータが破損し、Express Gate が正しく起動できない場合に役立ちます。



設定を削除した後、Express Gate 環境に入るとウィザードが起動します。

3.7.3 ASUS O.C. Profile

複数の BIOS 設定を保存/ロードすることができます。



Save to Profile 1/2

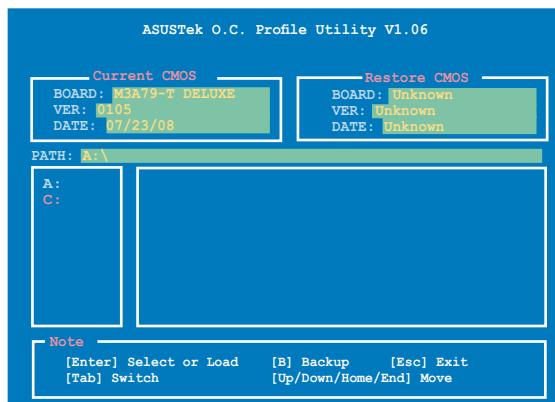
BIOS ファイルを BIOS Flash に保存します。<Enter> を押してファイルを保存します。

Load from Profile 1/2

BIOS Flash に保存した BIOS 設定をロードすることができます。<Enter> を押してファイルをロードしてください。

Start O.C. Profile

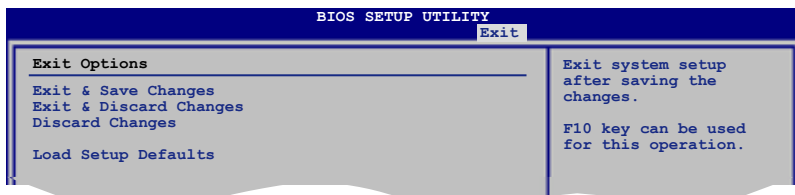
ユーティリティを起動して CMOS を保存、ロードします。<Enter> を押してユーティリティを起動します。



- USBフラッシュメモリやフロッピーディスクなどのデバイスを FAT 32/16 フォーマットでのみサポートします。
- BIOS の更新中はシステムのシャットダウンやリセットを行わないでください。システム起動エラーの原因となります。

3.8 終了メニュー

BIOS 設定の保存や取り消しのほか、初期設定値の読み込みを行います。



<Esc> を押してもこのメニューは終了しません。終了メニューからいずれかの項目を選択するか、<F10> を押して終了します。

Exit & Save Changes

BIOSの設定が終了したら、「Exit menu」からこのオプションを選択し、設定をCMOS RAM に保存して終了します。オンボード用のバックアップで搭載されているバッテリーは、コンピュータの電源がオフになっているときでもBIOSの設定内容を保存します。この項目を選択すると、確認ウィンドウが表示されます。「**Ok**」を選択すると、変更を保存して終了します。



設定を保存せずに<ESC>でBIOSメニューを終了しようとすると、終了する前に変更を保存しますかと尋ねるメッセージが表示されます。その場合は<Enter> 押して変更を保存します。

Exit & Discard Changes

BIOSメニューで行った設定を保存したくないときに、この項目を選択します。ただし、システムの日付、システム時間、パスワード以外の設定を変更した場合は、終了する前に確認のメッセージが表示されます。

Discard Changes

BIOSメニューで設定した変更を破棄し、以前保存したときの値を復旧します。このオプションを選択した後は、確認のメッセージが表示されます。確認のメッセージの表示で「**Ok**」を選択すると変更を取り消し、以前保存したときの値がロードされます。

Load Setup Defaults

セットアップメニューのそれぞれの値に、初期設定値をロードします。このオプションを選択するか、<F5> を押すと確認画面が表示されます。「**Ok**」を選択して初期設定値をロードします。Exit & Save Changes を選択するか、他の変更を行ってから設定を保存します。

This image shows a full page of blank, lined paper. It features approximately 20 evenly spaced horizontal grey lines across its entire width, providing a guide for handwriting or typing. The paper itself is a clean, off-white color.

サポート DVD のコンテンツ

4 ソフトウェア

4.1	OSをインストールする.....	4-1
4.2	サポート DVD 情報.....	4-1
4.3	ソフトウェア情報.....	4-9
4.4	RAID	4-46
4.5	RAID ドライブディスクを作成する.....	4-53

4.1 OSをインストールする

このマザーボードは Windows® XP/64-bit XP/Vista/64-bit Vista OSをサポートしています。ハードウェアの機能を最大限に活用するために、OS を定期的にアップデートしてください。



- ここで説明するセットアップ手順は一例です。詳細については、OSのマニュアルをご参照ください。
- 互換性とシステムの安定性のために、ドライバをインストールする前に、Windows® 2000 は Service Pack 4、Windows® XPは Service Pack 2 以降のサービスパック適用済みのOS であることをご確認ください。

4.2 サポート DVD 情報

マザーボードに付属のサポート DVD には、マザーボードを利用するために必要なドライバ、アプリケーション、ユーティリティが収録されています。



サポート DVD の内容は、予告なしに変更する場合があります。最新のものは、ASUS Webサイト (www.asus.co.jp)でご確認ください。

4.2.1 サポート DVD を実行する

サポート DVD を光学ドライブに入れます。OSの Autorun 機能が有効になっていれば、ドライバメニューが自動的に表示されます。



サポート DVD とマザーボードの情報を表示できます。

インストールする項目を選択



Autorun が有効になっていない場合は、サポート DVD の BIN フォルダから ASSETUP.EXE を探してください。ASSETUP.EXE をダブルクリックすれば、ドライバメニューが表示されます。

4.2.2 ドライバメニュー

Drivers メニューには、インストールが可能なドライバが表示されます。必要なドライバを上から順番にインストールしてご利用ください。



ASUS InstAll - Drivers Installation Wizard

ASUS InstAll でドライバをインストールします。

AMD Cool 'n' Quiet Driver

AMD Cool 'n' Quiet™ テクノロジドライバをインストールします。

AMD Chipset Program Driver

AMD 790FX チップセット用 AMD® チップセットドライバをインストールします。

SoundMAX ADI Audio Driver

SoundMAX® ADI オーディオドライバ・アプリケーションをインストールします。

Marvell Yukon Gigabit Ethernet Driver

Marvell® Yukon Gigabit Ethernet ドライバをインストールします。

Marvell 61xx SATA RAID Controller Driver

Marvell® Serial ATA RAID Controller ドライバをインストールします。インストールすると、PM (Port Multiplier) 機能で外部SATAデバイスが利用できます。

USB 2.0 Driver

USB 2.0 ドライバをインストールします。

4.2.3 ユーティリティメニュー

マザーボードで利用できるアプリケーションやユーティリティをインストールします。



クリックすると次の画面へ



クリックすると前の画面へ

ASUS InstAll - Installation Wizard for Utilities

ASUS InstAll でユーティリティをインストールします。

AMD OverDrive Utility (AOD)

AMD® OverDrive™ ユーティリティをインストールします。

ASUS Cool 'n' Quiet Utility

ASUS Cool 'n' Quiet™ ソフトウェアをインストールします。

ASUS Update

ASUS Web サイトから最新バージョンの BIOS をダウンロードするツールです。このユーティリティを使用するにはインターネット接続が必要です。



ASUS Update を使用する際は ASUS Web サイトに接続しますので、インターネット接続のセットアップが必要です。

ASUS PC Probe II

ファン速度、CPU 温度、システム電圧をモニタし、何か問題がある場合に警告します。このユーティリティを使えば、コンピュータをいつでも正常な状態に維持できます。

ASUS AI Suite

ASUS AI Suite をインストールします。

Marvell Yukon VCT Application

Marvell® Yukon Virtual Cable Tester™ (VCT) アプリケーションをインストールします。このアプリケーションは TDR テクノロジーにより LAN ケーブルのエラーやショートを検出/報告するツールです。

Adobe Acrobat Reader 8

PDF (Portable Document Format) ファイルの閲覧、プリントができる Adobe® Acrobat® Reader をインストールします。

Microsoft DirectX 9.0c

Microsoft® DirectX 9.0c ドライバをインストールします。Microsoft DirectX® 9.0c は、コンピュータのグラフィックスとサウンドを拡張するマルチメディアテクノロジーです。DirectX® はコンピュータのマルチメディア機能を向上させるので、TV や映画、ビデオキャプチャ、ゲームをよりお楽しみいただけます。アップデートは Microsoft Web サイト (www.microsoft.co.jp) で。

Ulead Burn.Now

オーディオ DVD、CD、データディスクの作成に便利な Ulead Burn.Now アプリケーションをインストールします。

Corel MediaOne Starter

マルチメディアデータの編集、共有、保護等の管理を行う、Corel MediaOne Starter アプリケーションをインストールします。

Winzip 11

ファイルの圧縮/保護に便利な Winzip ユーティリティをインストールします。

Ulead PhotoImpact 12 SE

PhotoImpact 画像編集ソフトウェアをインストールします。

CyberLink PowerBackup

データのバックアップや復旧に便利なCyberLink PowerBackup ユーティリティをインストールします。

ASUS Express Gate Installer

ASUS Express Gate アプリケーションをインストールします。

Anti-Virus Utility

コンピュータウイルスからパソコンを守ります。詳細はオンラインヘルプをご参照ください。

Anti-Virus Utility Download

お使いのアンチウイルスユーティリティのバージョンを更新する際に使用します。

4.2.4 Make Disk メニュー

ATI® force™ RAID/AHCI ドライバディスクを作成します。



ATI RAID/AHCI 32/64bit WinXP/Vista Driver

32/64bit Windows® XP/Vista 用のATI RAID/AHCI ドライバディスクを作成します。

4.2.5 マニュアルメニュー

サードパーティ製のコンポーネント、または各アプリケーションのユーザーマニュアルを見ることができます。

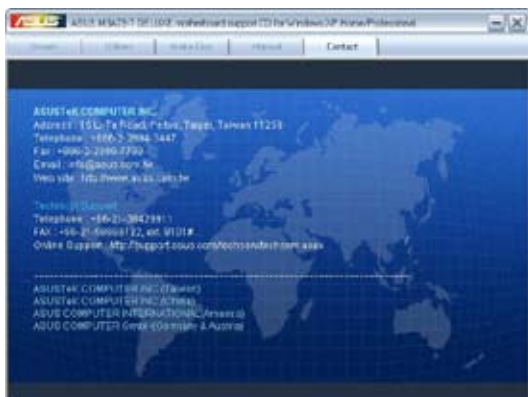


ほとんどのマニュアルファイルは PDF になっています。PDFファイルを見るには、UtilitiesタブのAdobe® Acrobat® Reader V7.0をインストールしてください。



4.2.6 コンタクトインフォメーション

ASUS コンタクトインフォメーション。また、このマニュアルの表紙裏にも記載してあります。

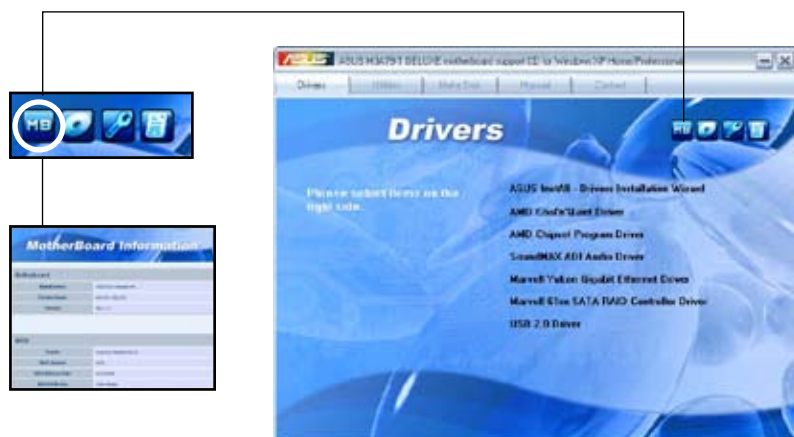


4.2.7 その他の情報

画面右上のアイコン。マザーボード、サポート DVD の内容に関する追加情報です。

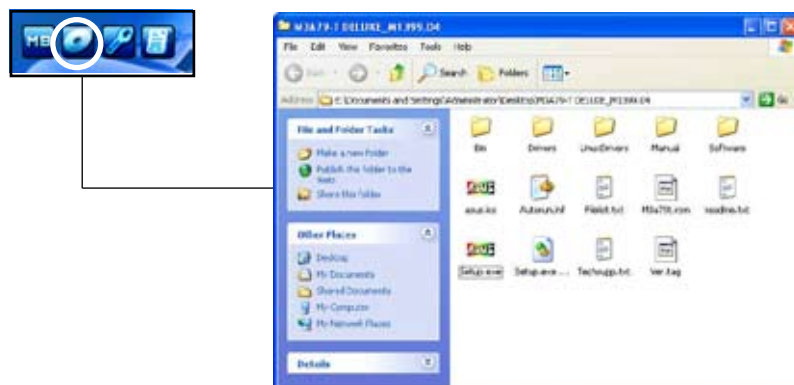
マザーボード情報

マザーボードの全般仕様を表示。

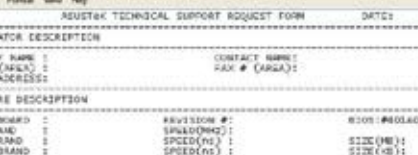


DVD をブラウズする

サポート DVD のコンテンツを表示。(グラフィカル形式)



Technical Support Request Form を表示。テクニカルサポートをご依頼の際に記入してください。



Acustek TECHNICAL SUPPORT REQUEST FORM DATE:

ORGANIZATION DESCRIPTION

COMPANY NAME: CONTACT NAME:

PHONE (AREA): FAX # (AREA):

EMAIL ADDRESS: FAX # (LOCAL):

HARDWARE DESCRIPTION

REVISION #: SERIAL #:

CPU BRAND: DRAM BRAND:

CACHE BRAND: HARD DISK:

CD-ROM BRAND: MOUSE BRAND:

OTHER STORAGE: PCI ISA SLOTT 1-4:

PCI-E SLOTT 1-4: PCI SLOTT 1-4:

ADD-IN CARD DESCRIPTION (MODEL NAME/VENDOR)

PCI ISA SLOTT 1-4:

PCI-E SLOTT 1-4:

PCI SLOTT 1-4:

サポート DVD のコンテンツを表示します。(テキスト形式)

[illegible]

4.3 ソフトウェア情報

サポート DVD のほとんどのアプリケーションはウィザードを使って簡単にインストールすることができます。詳細はオンラインヘルプまたはアプリケーションのReadme ファイルをご参照ください。

4.3.1 ASUS MyLogo2™

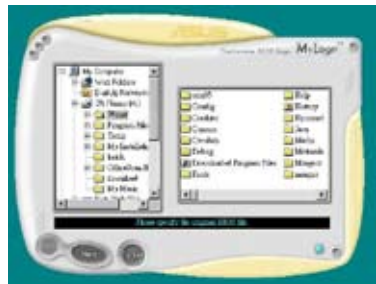
ASUS MyLogo2™ で起動ロゴを設定することができます。起動ロゴとは起動時の自己診断テスト (POST) の間に、表示される画像のことです。サポート DVD からASUS Update ユーティリティをインストールすると自動的に ASUS MyLogo2™ もインストールされます。(詳細 4.2.3「ユーティリティメニュー」参照)



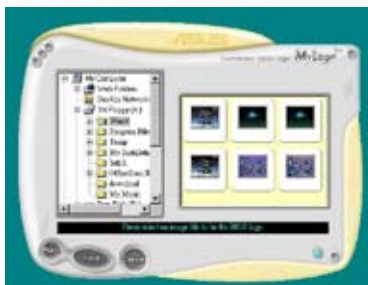
- ASUS MyLogo2™をご利用になる前に、AFUDOS ユーティリティを使ってオリジナルBIOSファイルのコピーを作成するか、ASUS Webサイトから最新バージョンのBIOSを入手してください。(詳細 3.1.4「AFUDOS」参照)
- ASUS MyLogo2™をご利用になる場合は、BIOSの「Full Screen Logo」の項目を [Enabled] にしてください。(詳細 3.6.2「起動設定」参照)
- オリジナルのブートロゴは GIF フォーマットで作成することができます。
- ファイルサイズは150 K 未満です。

ASUS MyLogo2™ を起動する

1. ASUS Update ユーティリティを起動します。(詳細 3.1.1「ASUS Update」)
2. ドロップダウンメニューから「Options」を選択し、「Next」をクリックします。
3. BIOSを更新する前に起動ロゴを置き換えるために、「Launch MyLogo」をチェックして「Next」をクリックします。
4. ドロップダウンメニューから「Update BIOS」を選択し、「Next」をクリックします。
5. 指示に従って新しいBIOS ファイルを検索し「Next」をクリックすると、ASUS MyLogo 2 のウィンドウが表示されます。
6. 左ウィンドウ枠から、起動ロゴとして使用する、画像を含むフォルダを選択します。



7. ログ画像が右ウィンドウ枠に表示されたら、画像を選択してクリックし、拡大します。



8. Ratio box の値を選択し、画像のサイズを調整します。



9. 画面がASUS Update ユーティリティに戻ったら、オリジナルのBIOSをフラッシュして新しい起動ロゴをロードします。
10. BIOSを更新した後、コンピュータを再起動すると、POST中に新しい起動ロゴが表示されます。

4.3.2 AI NET2

AI NET2 は Marvell® Virtual Cable Tester™ (VCT)を採用しており、VCT はケーブル診断ユーティリティで、TDRテクノロジーを使用して、LANケーブル障害とショートを報告します。VCTは、外れたケーブル、ショートしているケーブル、インピーダンス不一致、ペア交換、ペア極性問題、ペアスキュー問題を瞬時に 1 メートルの精度で検出し報告します。

VCT 機能は、きわめて管理が簡単で制御されたネットワークシステムを通じて、ネットワークとサポートコストを抑えています。このユーティリティはネットワークシステムソフトウェアに組み込まれ、開発診断だけでなく理想的なフィールドサポートも実現しています。

Virtual Cable Tester™を使う

手順

1. Windows® デスクトップから、「スタート」→「すべてのプログラム」→「Marvell」→「Virtual Cable Tester」の順にクリックしてVCT を起動します。
2. メニューの「Virtual Cable Tester」をクリックして、下の画面を表示させます。



3. 「Run」ボタンをクリックして、ケーブルテストを実行します。



- VCT ユーティリティが利用できるのは、Windows® XP、Windows® Vista™ のみです。
- VCTユーティリティでテストできるのは、Gigabit LANポートに接続したイーサネットケーブルだけです。
- LAN ケーブルに問題が検出されない場合は、Virtual Cable Tester™メインウィンドウの「Run」ボタンは無効になります。
- OSに入る前に、システムでLANケーブルの状態をチェックしたい場合は、BIOSの「Post Check LAN Cable」の項目を[Enabled]にします。

4.3.3 Cool 'n' Quiet!™ Technology

本製品は、CPU 速度、電圧、電力をCPU のパフォーマンスに合わせて調節する AMD Cool 'n' Quiet!™ Technology を搭載しています。

Cool 'n' Quiet!™ Technology を使う

手順

1. システムを起動し POST中にを押して BIOS に入ります。
2. 「**Advanced**」→「**CPU Configuration**」→「**AMD Cool 'n'Quiet function**」の順に進み、「**AMD Cool 'n'Quiet function**」を[Enabled]に設定します。
(詳細「3.4 拡張メニュー」参照)
3. 変更を保存しBIOSから退出します。
4. コンピュータを再起動し、電源オプションの設定を行ってください。

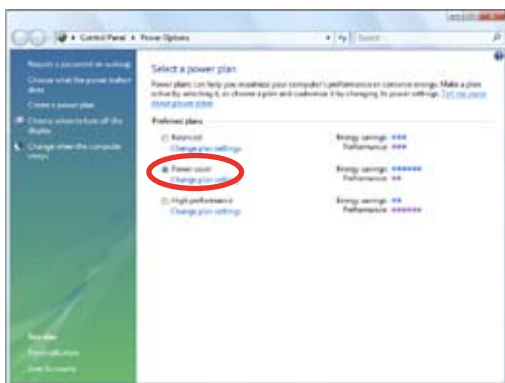
Windows® XP

1. 「**Start (スタート)**」→「**Settings (設定)**」→「**Control Panel (コントロールパネル)**」の順にクリックします。
2. コントロールパネルはクラシック表示にしてください。
3. 「**Display (画面)**」アイコンをダブルクリックし、「**Screen Saver (スクリーンセーバ)**」タブを選択します。
4. 「**Power (電源)**」をクリックすると、次のダイアログボックスが表示されます。
5. 「**Power schemes (電源設定)**」のリストボックスから「**Minimal Power management (最小の電源管理)**」を選択します。
6. 「**OK**」をクリックして設定は完了です。



Windows® Vista™

1. 「**Start (スタート)**」→「**Control Panel (コントロールパネル)**」の順にクリックします。
2. コントロールパネルはクラシック表示にしてください。
3. 「**Personalization (個人設定)**」アイコンをダブルクリックし、「**Screen Saver (スクリーンセーバー)**」をクリックします。
4. 「**Change power settings... (電源設定の変更)**」をクリックします。クリックするとダイアログボックスが表示されます。
5. 「Preferred plans (お気に入りのプラン)」から「**Power saver (省電力)**」を選択します。
6. 全てのウインドウを閉じます。



- Windows® XP OSでこの機能をご使用になる前に、AMD Cool 'n' Quiet!™ ドライバとアプリケーションをインストールしてください。
- AMD Cool 'n' Quiet!™ 機能を利用するには、モニターチップ搭載の AMD ヒートシンクとファンが必要です。
- ヒートシンクとファンを別々に購入した場合は、ASUS Q-Fan 機能をご利用ください。システムの負荷に応じ、CPU ファンスピードを自動的に調節することができます。

Cool 'n' Quiet!™ ソフトウェアを起動する

リアルタイムで CPU 周波数や電圧を確認することができる Cool 'n' Quiet!™ は、サポート DVD からご利用になれます。



サポート DVD から、Cool 'n' Quiet!™ をインストールしてください。
(詳細 4.2.3 「ユーティリティメニュー」参照)

Cool 'n' Quiet!™ を起動する

1. Windows® XP をご利用の場合は「スタートボタン」→「すべてのプログラム」→「ASUS」→「Cool & Quiet」→「Cool & Quiet」の順にクリックしてください。
2. Windows® Vista をご利用の場合は「スタートボタン」→「すべてのプログラム」→「ASUS」→「Cool & Quiet」→「Cool & Quiet」の順にクリックしてください。
3. Cool 'n' Quiet!™ 画面に現在の CPU 周波数と CPU 電圧が表示されます。



4.3.4 AI Audio 2 (SoundMAX® HD オーディオユーティリティ)

ADI AD2000B High Definition Audio CODEC は、AudioESP™ ソフトウェア採用の SoundMAX® オーディオを通して 8 チャンネルオーディオを提供し、PCで最高のオーディオをお楽しみいただけます。このソフトウェアは、高品質なオーディオ合成/レンダリング、3D サウンドポジショニング、拡張音声入力技術を採用しています。

インストールウィザードに従って、サポートDVDから ADI AD1988 Audio Driver をインストールし、SoundMAX® をご利用ください。



セットアップには4チャンネル、または6チャンネル、8チャンネルスピーカーが必要です。

SoundMAX® をインストールするとタスクバーに SoundMAX®/ SoundMAX® BlackHawk アイコンが表示されます。



A. SoundMAX BlackHawk (AI Audio 2)

Windows® Vista OS をご使用の場合は、タスクバーから SoundMAX® BlackHawk アイコンをダブルクリックします。ダブルクリックすると SoundMAX® コントロールパネルが表示されます。



Enabling AI Audio 2

電源ボタン  をクリックし、デジタル信号処理を有効にします。

AI Audio 2 は、Sonic Focus 社の新型 SoundMAX® BlackHawk で、マルチメディアの幅がより広がります。

Fidelity Compensation

電源ボタンをクリックするとユーティリティが起動します。圧縮されたオーディオストリームを圧縮前のオリジナルに近い状態に再現する際、圧縮処理の過程で失われた本来のサウンドをオーディオ出力としてリアルに再現します。

Sound Field Expansion

AI Audio 2 はリアルなフロント/リアサウンド環境により、ステレオサウンドの領域をマルチメディアチャンネルの領域まで拡張します。

Surround Virtualization

ステレオスピーカーまたはヘッドフォンでの使用を想定しクリアなボーカル機能を追加しました。これによりサラウンドサウンドの仮想化を図ります。



SoundMAX BlackHawk (AI Audio2) は Windows® Vista™ OS でのみ利用可能です。

Playback Settings

再生の際の各種設定を行うには、コントロールパネル上の **Playback** ボタンをクリックします。**Speakers** や **SPDIF Interface** の音量調節やオーディオのミュートが可能です。

Preset settings

ドロップダウンメニューを展開し、DSP (Digital Signal Processing) 設定を選択します。スライダーを移動すれば、**Voice Clarity**、**Dynamics**、**Brilliance**、**Deep Bass** の各値を変更することができます。設定を保存するには、**Save** をクリックします。設定を保存しない場合は **Reset** をクリックします。



Surround settings

ステレオスピーカーの設定を変更することができます。スライダーを移動して、視聴位置や、センターチャンネルボリュームを変更することができます。**Test Speakers** ボタンを押すと、スピーカーテストを実行することができます。



Port settings

このタブをクリックすると、スピーカー用にはリアパネルポート構成が、SPDIF インターフェース用にはリアパネルデジタルポート構成が表示されます。



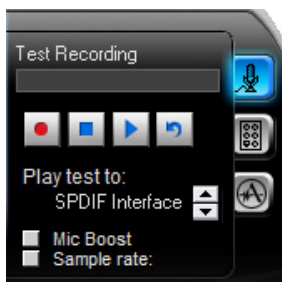
Recording Settings

録音設定を変更するには、コントロールパネル上の **Recording** ボタンをクリックします。スライダーを左右に移動させることで、**Microphone** や **Line In** のスピーカーの遅延を調節することができます。

Record testing



このタブをクリックすると、テスト録音が行われ、サンプルをスピーカーまたは SPDIF インターフェイスで再生することができます。



Port settings



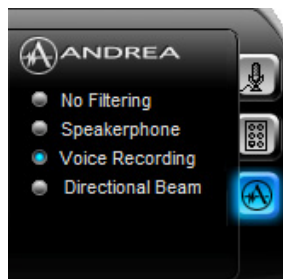
このタブをクリックすると、マイクまたはライン入力用のリアパネルポートが表示されます。



ANDREA settings



No Filtering、Speakerphone、Voice Recording、Directional Beam 等のエンハンスマイク入力機能を選択することができます。



More Settings

詳細設定をするには、 をクリックします。

Equalizer

DSP プリセット周波数を全てカスタマイズ設定することができます。



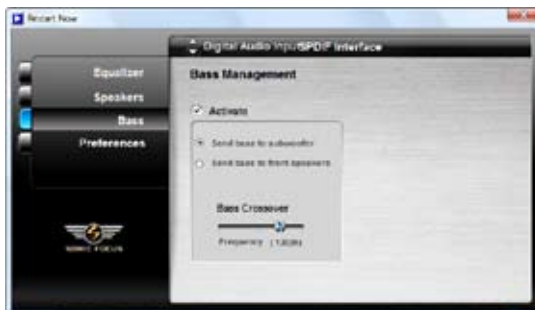
Speakers

Speaker Trim と **Speaker Delay** を調節します。



Bass

Bass management を調節します。



Preferences

ユーティリティのオプション、バージョン情報、AudioESP 等を表示します。



B. SoundMAX

Windows® XP OS をご使用の場合は、タスクバーから SoundMAX® アイコンをダブルクリックします。ダブルクリックすると SoundMAX® コントロールパネルが表示されます。



Audio Setup Wizard

SoundMAX® コントロールパネルの  アイコンをクリックすると、簡単にオーディオ設定が行えます。画面の指示に従ってHDオーディオをお楽しみください。



Jack configuration

コンピュータのオーディオポートを設定します。画面は設定したオーディオデバイスによって異なります。



Adjust speaker volume

スピーカースの音量調整をします。Test ボタンをクリックし、実際に音を聞いて確認します。



Adjust microphone volume

マイクのボリュームを調節します。文を読むように指示が出ます。声に合わせて AudioWizard がボリュームを調節します。



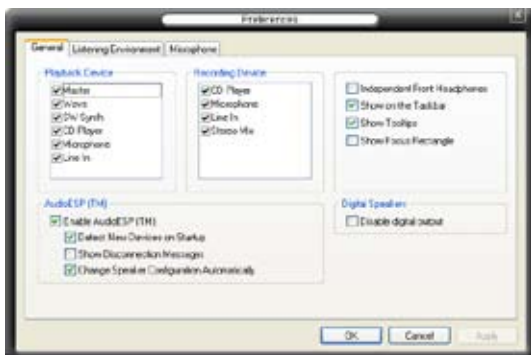
Audio preferences



アイコンをクリックすると Preferences 画面へ移動します。この画面では様々なオーディオ設定の変更が可能です。

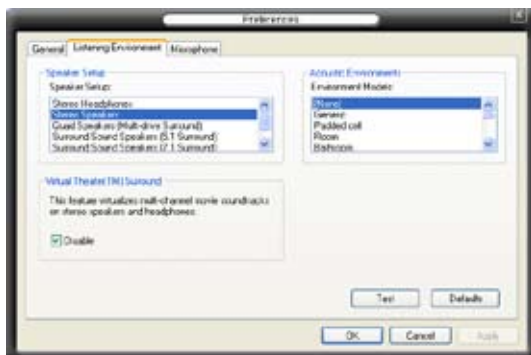
General options

タブをクリックして、プレイバック/レコーディングデバイスを選択し、AudioESP™ 機能、デジタル出力の設定を切り替えます。



Listening Environment options

Listening Environment タブをクリックし、スピーカーや音響の設定、Virtual Theater Surround 機能の切り替えが可能です。



Microphone options

Microphone タブをクリックし、マイク入力設定を最適化します。



Enhanced Microphone Features

Voice recording

Noise Filter 機能を有効にします。コンピュータのファンやエアコン等の個々の定常ノイズ (肉声ではない信号) を検出し、録音中はそれらの音をカットします。

4.3.5 ASUS PC Probe II

PC Probe II は、重要なコンピュータのコンポーネントを監視し、問題が検出されると警告するユーティリティです。ファン回転数、CPU温度、システム電圧を中心に監視します。PC Probe II はソフトウェアベースなので、コンピュータに電源を入れた時から監視を開始します。このユーティリティで、コンピュータをいつでも正常に動作させることができます。

PC Probe II をインストールする

手順

1. サポート DVD を光学ドライブに入れます。OS の Autorun 機能が有効になっていれば、ドライバインストールタブが自動的に表示されます。



Autorun が有効になっていない場合は、サポート DVD ASUS PC Probe II フォルダから setup.exe を探してください。setup.exe をダブルクリックすれば、インストールが開始されます。

2. 「Utilities」タブ→「ASUS PC Probe II」の順にクリックします。
3. 画面の指示に従ってインストールを終了させます。

PC Probe II を起動する

インストール終了後、または Windows® デスクトップからいつでも PC Probe II を起動することができます。

PC Probe II を Windows® デスクトップから起動させる：「スタート」→「すべてのプログラム」→「ASUS」→「PC Probe II」→「PC Probe II v1.xx.xx」の順にクリックすると、PC Probe II のメイン画面が表示されます。

アプリケーションを起動すると、PC Probe II アイコンが Windows® タスクバーに表示されます。アイコンをクリックすることで、アプリケーションを起動・終了できます。










PC Probe II を使う

メインウィンドウ

PC Probe II メインウィンドウでは、システムの現状を確認し、設定を変更することができます。初期設定値では Preference が表示されます。ウィンドウ右の三角をクリックすることで、Preference を閉じることができます。



三角をクリックして
Preference を閉じる

000	00
	設定画面を開く
	レポート画面を開く
	Desktop Management Interface 画面を開く
	Peripheral Component Interconnect 画面を開く
	Windows Management Instrumentation 画面を開く
	HDD、メモリ、CPU 使用率画面を開く
	Preference 画面を表示/非表示
	アプリケーションを最小化
	アプリケーションを閉じる

警告センサ

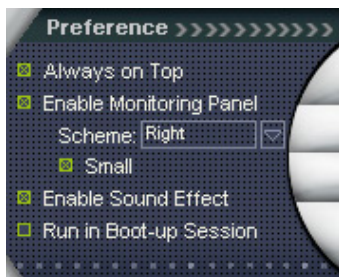
システムセンサーが問題を検出すると、下の絵のようにメイン画面の右側が赤色になります。



センサー用のモニターパネルも赤色になります。「ハードウェアモニターパネル」参照。

Preference

メイン画面の Preference で使用中のアプリケーションをカスタマイズすることができます。ボックスをクリックして設定を切り替えます。



ハードウェアモニターパネル

ファン回転数、CPU 温度、電圧などのシステムセンサーの現在値を表示します。

ハードウェアモニターパネルには2種類ディスプレイモードがあります：6 角形 (大)と長方形 (小)です。Preference で「Enable Monitoring Panel」の項目にチェックした場合は、モニターパネルがデスクトップに表示されます。



6 角形 (大)



長方形 (小)

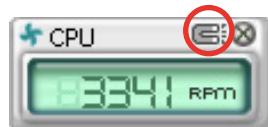
モニターパネルの位置を変える

モニターパネルのデスクトップ上の位置を変更する場合は、Scheme のボタンをクリックして、リストボックスからポジションを選択します。選択したら「OK」をクリックします。



モニターパネルを分解する

モニターパネルは、磁気効果のため全て一緒に動きます。分解する場合は、U字型のマグネットアイコンをクリックします。



センサーの基準値を調節する

ボタンをクリックしてセンサーの基準値を調節します。また、Config画面でも設定可能です。

長方形 (小) のモニターパネルでは基準値を調節することはできません。

値を増やす

値を減らす



警告センサーモニター

コンポーネントの値が基準値以外になると赤色になります。



六角形 (大)



長方形 (小)

WMI ブラウザ

WMI をクリックして、WMI (Windows Management Instrumentation) ブラウザを表示します。様々な Windows® 管理情報を表示します。左側のパネルの項目をクリックし、右側のパネルに表示させます。WMI Information の (+) をクリックして情報を表示させます。



右下の角をドラッグして画面の大きさを調節することができます。

DMI ブラウザ

DMI をクリックして、DMI (Desktop Management Interface) ブラウザを表示します。様々なデスクトップ/システム情報を表示します。DMI Information の (+) をクリックして情報を表示させます。



PCI ブラウザ

PCI をクリックして、PCI (Peripheral Component Interconnect) ブラウザを表示します。システム上のPCI デバイス情報を表示します。PCI Information の (+) をクリックして情報を表示させます。



Usage

CPU、HDD空き容量、メモリ使用率をリアルタイムで表示します。**USAGE** をクリックしてUsageを開きます。

CPU

リアルタイムのCPU使用率が線グラフで表示されます。CPUのHyper-Threading機能が有効に設定されている場合は、2つの論理プロセッサ用に2つの線グラフが表示されます。



Hard Disk

HDDの使用率を表示します。パネルの左側には論理ドライブが表示されます。クリックすると右側に情報が表示されます。円グラフのブルーの部分は使用領域、ピンクの部分は空き領域です。



Memory usage

物理メモリの使用率を表示します。円グラフのブルーの部分は使用領域、ピンクの部分は空き領域です。



PC Probe II 設定

CONFIG をクリックしてセンサーの基準値を確認・調節します。

Config には 2 つのタブがあります: Sensor/Threshold と Preference です。Sensor/Threshold タブでは、センサーを有効にし、基準値を調節します。Preference タブでは警告センサーをカスタマイズし温度を変更します。



4.3.6 ASUS AI Suite

ASUS AI Suite では、AI Gear 2、AI Booster、AI Nap、Q-Fan 2 の各ユーティリティを簡単に起動することができます。

AI Suite をインストールする

手順

1. Autorun 機能が有効に設定されている場合は、サポートDVD を光学ドライブにセットすると Drivers インストールタブが表示されます。
2. **Utilities** タブ→ **AI Suite** の順にクリックします。
3. 画面の指示に従ってインストールを完了させます。

AI Suite を起動する

AI Suite をインストールしたらいつでも起動可能です。

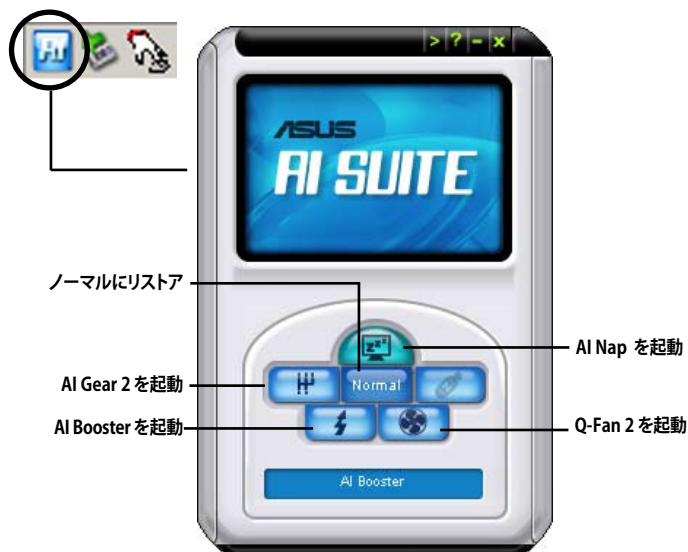
Windows® デスクトップから AI Suite を起動する方法。

「スタート」→「すべてのプログラム」→「ASUS」→「AI Suite → AI Suite v1.xx.xx」の順にクリックすると AI Suite のメインウィンドウが表示されます。


アプリケーションを起動したら、AI Suite アイコンが Windows® タスクバーに表示されます。このアイコンをクリックしてアプリケーションの終了やリストアを行います。

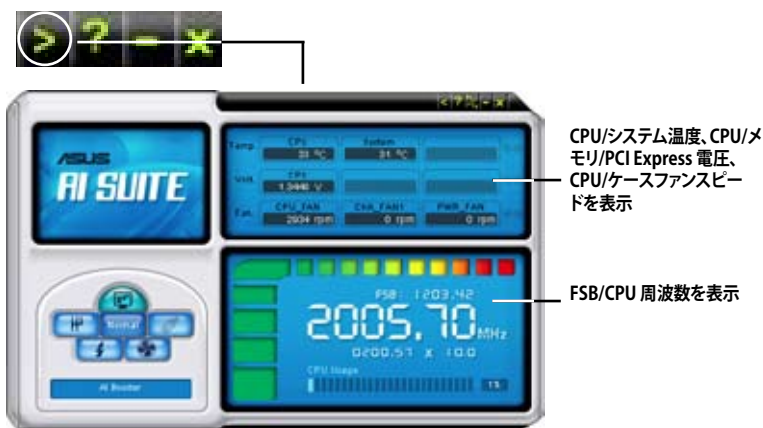
AI Suite を使用する


起動するユーティリティのアイコンをクリックします。なお、Normal アイコンをクリックすると、システムは通常の状態にリセットされます。



その他のボタン

メインウィンドウの右端にある  をクリックしてモニターウィンドウを開きます。



右上の  をクリックして摂氏と華氏を切り換えます。

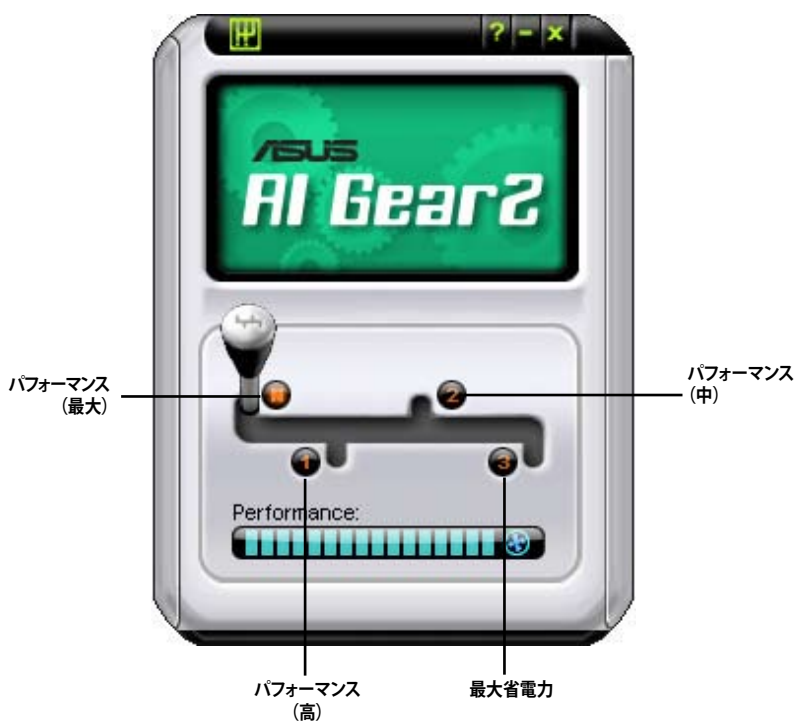


4.3.7 ASUS AI Gear 2

システムの要求に応じて、ASUS AI Gear 2 の 4 つのオプションからパフォーマンス設定を選択することができます。このユーティリティでは、プロセッサ周波数、VCore 電圧を調整し、システムノイズや電源消費を最小限に抑えることができます。

付属のサポートDVDからAI Gearをインストールすれば、Windows OSのタスクバーにあるAI Gearアイコンをダブルクリックするだけで起動することができます。

ギアを入れてパフォーマンス設定を選択します。



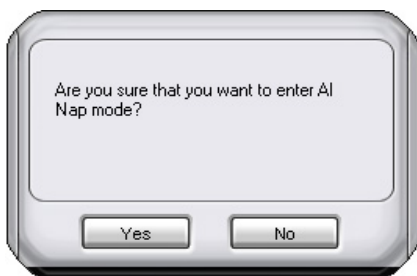
ASUS AI Gear 2 を利用するにはAM2 CPUが必要です。

4.3.8 ASUS AI Nap

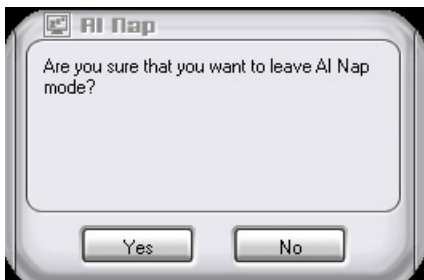
コンピュータを使用していない時の電源消費を最小限に抑えます。

このユーティリティを起動するには、付属のサポートDVD から AI Suite をインストール後、Windows OS のタスクバーの「AI Suite アイコン」→「AI Nap ボタン」の順にクリックしてください。

確認画面で「Yes」をクリックしてください。



システム電源またはマウスボタンを押し、確認画面で「Yes」をクリックして AI Nap モードから退出します。



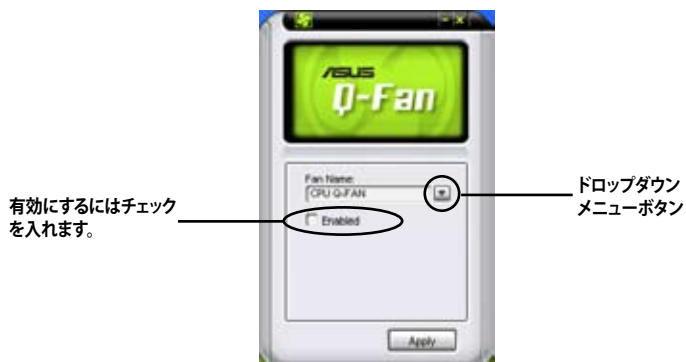
電源ボタンの機能を「AI Nap」からシャットダウンに切り替えるには、タスクバー上の「AI Suite」アイコンを右クリックし、「AI Nap」を選択した後「Use power button」をクリックしてください。

4.3.9 ASUS Q-Fan 2

ASUS Q-Fan 2 機能では、CPU ファンとケースファンのパフォーマンスを適切なレベルに設定することができます。この機能を有効にすると各ファンは温度に応じて自動的に減速・加速します。

付属のサポート DVD から AI Suite をインストールした後、Windows® OS のタスクバーにある AI Suite のアイコンをダブルクリックし、メイン画面にある Q-Fan 2 ボタンをクリックして起動します。

ドロップダウンメニューボタンをクリックし、**CPU Q-Fan 2** または **CHASSIS Q-Fan 2** を選択してください。Enabled にチェックを入れるとこの機能が有効になります。

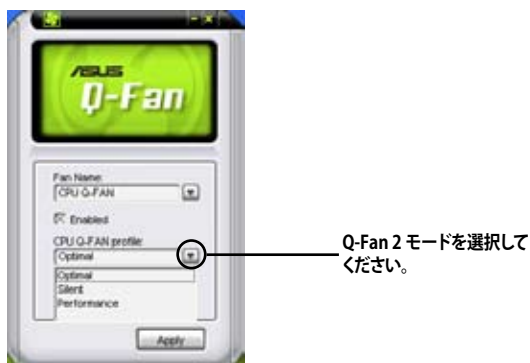


Profile リストが表示されますので、ドロップダウンメニューボタンをクリックし、選択肢からモードを1つ選択します。

「Optimal」モードは温度に応じてファンスピードを調節します。

「Silent」モードはファンスピードを下げ動作音を抑えます。

「Performance」モードではファンスピードは最速になります。

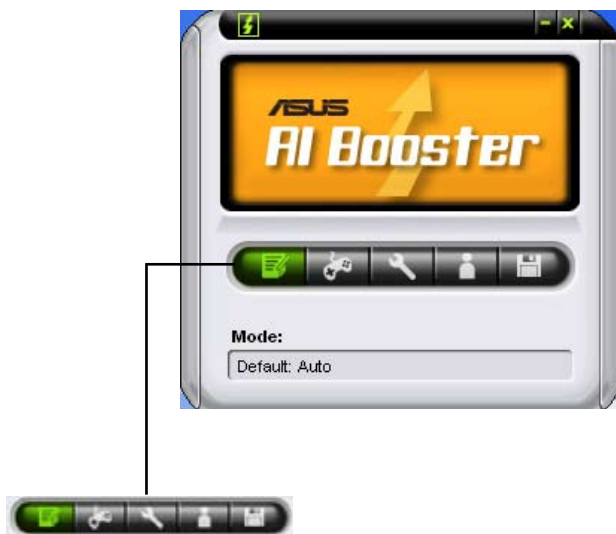


「Apply」ボタンをクリックし設定を保存します。

4.3.10 ASUS AI Booster

ASUS AI Booster は CPU 速度を Windows® 環境でオーバークロックします。

付属のサポートDVD から AI Suite をインストールしたら、Windows OS タスクバーの AI Suite アイコンをダブルクリックし、メイン画面で AI Booster ボタンをクリックし起動します。



タスクバーのオプションで初期設定値の適用や、CPU/メモリ/PCI-E 周波数の手動調節、またオーバークロック設定の作成と適用が可能です。

4.3.11 ASUS Express Gate

ASUS Express Gate はASUS独自の機能で、ブラウザや Skype 等のアプリケーションに瞬時にアクセスできる機能です。コンピュータの電源を入れてからわずか数秒で、Express Gate メニューが開き、ブラウザや Skype 等の Express Gate アプリケーションを起動することができます。

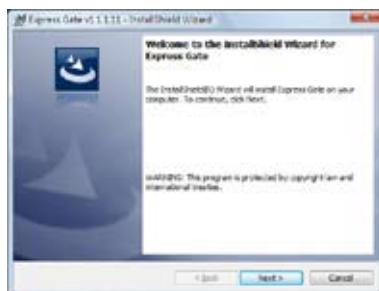
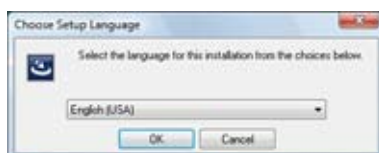
ASUS Express Gate をインストールする



- ASUS Express Gate がサポートするのは、**IDEモード**のSATA HDDだけです。
- ASUS Express Gate がサポートするHDDは、**マザーボードのチップセットが制御するオンボードSATAポート**に接続したHDDのみです。オンボード拡張SATAポートと外部SATAポートは全てサポート対象外です。オンボードSATAポートの位置はChapter 2 をご参照ください。
- ASUS Express Gate はUSB HDDとフラッシュメモリにインストールできますが、SATA HDDにインストールした場合に比べ、ソフトウェアの動作は遅くなることがあります。

Express Gate をコンピュータにインストールする

- サポートDVDを光学ドライブに入れます。コンピュータでオートラン機能が有効になっていれば、「**Drivers**」インストールタブが表示されます。
- 「**Utilities**」タブをクリックし、続いて「**ASUS Express Gate Installer**」をクリックします。
- インストール用の言語を選択し、「**OK**」をクリックします。
- Express Gate 用のInstallShield Wizard が表示されますので、「**Next**」をクリックします。



-

ASUS

Express Gate

Icons: Wi-Fi, On-Screen Display, Power, Sleep, S (Secure), and three smaller icons (Green, Blue, Red) representing different Express Gate features.

powered by 华硕省电管理引擎

ASUS MyASUS

ASUS No 1 in Quality and Service

System BIOS Memory Hard Disk Optical Drive Sound Network Keyboard Mouse Other

Driver BIOS Memory Hard Disk Optical Drive Sound Network Keyboard Mouse Other

ASUS MyASUS

Express Gate 環境に入ったら、画面下の LaunchBar のアイコンをクリックし、アプリケーションの起動と切り替えを行います。ウィンドウはサイズ変更と移動が可能です。ウィンドウを画面の前面に移動するには、ウィンドウをクリックするか、関連アプリケーションのアイコンをクリックします。ウィンドウのサイズ変更は、コーナーをドラッグして調節します。ウィンドウを移動するには、タイトルバーをドラッグします。

LaunchBar 以外にも、<Alt + Tab> キーでソフトウェアの切り替えが可能です。また、デスクトップ上を右クリックするとソフトウェアメニューを表示させることができます。

LaunchBar 内のソフトウェアアイコンの赤い三角は、ソフトウェアが既に起動していることを示し、即座にそのソフトウェアに切り替えることができます。なお、万一ソフトウェアが応答しない場合は、アイコンを右クリックして強制終了してください。

Express Gate のホットキー

操作に便利なホットキーを是非ご使用ください。

トップ画面

キー	機能
PAUSE/BREAK	電源オフ
ESC	OSを起動
DEL	BIOS Setup を起動
F8	起動デバイスの選択ウィンドウをポップアップ

Express Gate 環境

キー	機能
<Alt> + <Tab>	ソフトウェアの切り替え
<Ctrl> + <Alt> + 	Power-Off ダイアログボックスを表示
<Ctrl> + <Alt> + <Print Screen>	スクリーンキャプチャを画像に保存

Configuration Panel (設定パネル)

この画面では各種設定ができます。



アイコンをクリックして、ツールを開きます。ツールは以下の4種類です。

- **Date and Time:** タイムゾーンを含む時間設定を行います。
- **Input Method:** 入力言語と入力方式の設定を行います。
- **Language and Keyboard:** 言語とキーボードの設定を行います。
- **LaunchBar Setting:** LaunchBar のカスタマイズ設定を行います (ドックする位置や、非表示設定など)。
- **Network Configuration**
インターネットへの接続方法を設定します。使用するネットワークポートを全て有効にします。LAN はコンピュータ上のRJ-45 ネットワークポートを指します。



- LAN ポート数はマザーボードのモデルによって異なります。
- LAN ケーブルをいずれかのポートに接続すると、Express Gate は自動的にそのポートを使用します。

各ポートで使用する IP の種類を DHCP IP (一般的) または静的 IP から選択することができます。PPPoE と無線 (オプション) には、ユーザーネーム、パスワード、SSID などのログイン情報を設定してください。

- **Environment Settings:** この機能は Express Gate の設定およびブラウザ上に保存した個人データ (ブックマーク、クッキー、履歴など) を削除します。削除すると、ユーザーデータは初期設定値に戻ります。

設定を削除する場合は、「**Restore System**」をクリックします。クリックすると確認メッセージが表示されますので、「**Yes**」をクリックします。続いてシステムは再起動され、Express Gate が再び起動します。なお、万一設定データが破損した場合、この機能を使用して設定を初期設定値に戻すこともできます。



設定を削除した後、Express Gate 環境に入るとウィザードが起動します。

- **Screen Settings:** 最適な画面解像度を選択します。
- **Volume Control:** スピーカー出力やマイク入力などの音量を調節します。

LaunchBar

LaunchBar には複数のシステムアイコンがあり、各種システム状態の表示と個人設定を行うことができます。なお、アプリケーション使用中に画面スペースを確保するため、LaunchBar を自動非表示にすることも可能です。また、ドックの表示位置を設定することもできます。



Web ブラウザを起動します。



Online Games のWebページを開きます。



画像編集ソフトウェア「**Photo Manager**」を起動します。



インスタントメッセージツール「**Chat**」を起動します。



「**Skype**」を起動します。このソフトウェアは、他のSkype ユーザーに無料で通話ができ、また、高品質な音声コミュニケーションを提供するツールです。



Configuration Panelを開きます。ここではネットワーク設定等の変更ができます。

上記のアプリケーションから応答がなくなった場合は、そのアプリケーションのアイコンを右クリックし、「**Close**」を選択して強制終了してください。

LaunchBar 右側に表示される小さなアイコンについて：



USBデバイスにアクセスしファイル管理を行うには、このアイコンをクリックして**File Manager** ウィンドウを開きます。デバイスが検出されると、アイコンの中に緑の矢印が表示されます。



ASUS Express Gate がサポートするファイルの移動は、SATA HDD、光学ドライブ、USBドライブからのアップロードと、USBドライブへのダウンロードだけです。



ネットワークの状態が表示されます。ネットワークの設定も可能です。



ミュートの状態を示します。音量を変更するにはこのアイコンをクリックします。



入力言語と入力方式、キーボードのショートカットキーを選択します。
(初期設定値は< Ctrl + Space >キー)



クリックして LaunchBar オプションを変更します。
(自動非表示、ドックする位置など)



「ASUS Utility」パネルを開きます。



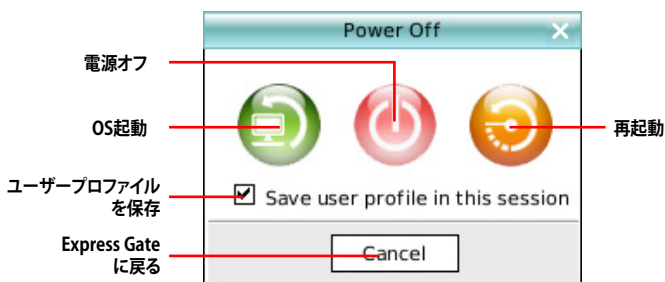
「About Express Gate」を表示します。



Help を表示します。



OS 起動、再起動、シャットダウンするための電源オプションを表示します。
このオプションは <Ctrl + Alt + Del> キーを押しても表示されます。



インターネットに接続する

インターネットに接続できない場合は以下の点を確認します。

1. 「Configuration Panel」を開きます。



Configuration Panelを開く

2. 「Network」を開きます。



3. ネットワーク設定を行います。

ダイアログボックスでネットワーク設定を行います。ネットワークインターフェースを選択すると、そのインターフェースは即座に有効になります。



- ホームルータに接続したネットワークケーブルを使用する際は（このケーブルはDSL/ケーブルモデム等にも接続）、全てのLANポートを有効にしてください。Express Gate では接続したポートが自動的に使用されます。



- LAN ポート数はマザーボードによって異なります。
- Express Gate の動作中にネットワークケーブルを異なるポートに接続した場合（ケーブルを LAN1 から LAN2 に変更する等）、「Refresh」ボタンを押し変更を適用する必要があります。

- 最も一般的なのは、コンピュータに自動的にネットワーク設定（例：DHCP）を取得させる方法です。この場合、「**Setup**」をクリックして LAN の設定を行う必要はありません。自動取得させない場合は、「**Setup**」をクリックして静的 IP 設定を手動で行います。
- 無線ネットワークが使用できる場合は、「**Setup**」をクリックして、WiFi オプションを設定します。「**Advanced Network Settings**」ボックスの **WiFi** タブの「**SSID**」に SSID（無線アクセスポイントの名前）を入力します。ユーザーの無線アクセスポイントにセキュリティ設定がされている場合は、「**Encryption Type**」フィールドのリストからセキュリティアルゴリズムを選択し（例：WEP/AUTO）、パスワードを入力します。

「**OK**」をクリックし、WiFi を有効にし無線接続を構築します。

- ルータを経由せずにネットワークケーブルを直接 DSL/ケーブルモデムに接続する場合は、「**Setup**」をクリックし「**xDSL/cable dial-up**」の設定を行います。この方式は PPPoE とも呼ばれます。DSL/ケーブルモデムをコンピュータの LAN ポートに接続するかを選択します。続いて、ダイヤルアップアカウント用のユーザーネームとパスワードを入力します。

「**OK**」をクリックし、「**xDSL/cable dial-up**」を有効にし、PPPoE 接続を行います。PPPoE が有効になると、使用するポートは自動的にチェックが外され、選択できなくなります。

オンラインゲームを楽しむ

Express Gate ではポータルサイトとして「**Splashtop Gaming**」を紹介しています。このサイトでは、各カテゴリから多種多様なオンラインゲームが取り上げられており、その内容は日々アップデートされています。Express Gate で最新のオンラインゲームを是非体感してください！

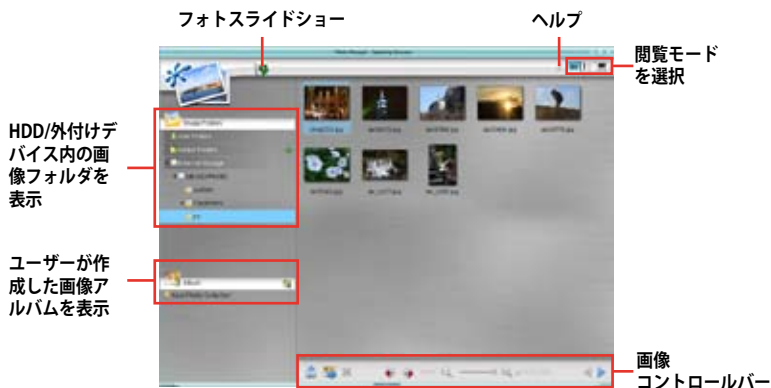


オンラインゲームを楽しむには、ネットワーク接続を有効にする必要があります。



Photo Manager

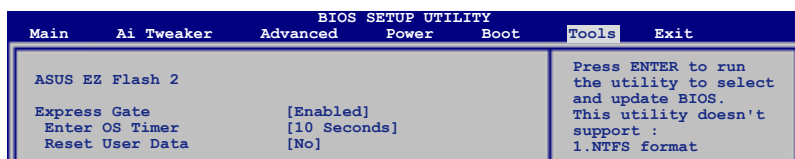
Photo Manager は画像閲覧用のアプリケーションで、ハードディスクまたは外付けストレージデバイス (USB ドングル、カードリーダー、光学ディスク) 内の画像ファイルの閲覧とアルバム編集ができます。ズームや回転、BGM付きスライドショーの作成、サムネイル表示、詳細リスト、全画面表示など、機能満載です。なお、サポートしているファイル形式はJPEG、GIF、BMP、PNGです。詳細はオンラインヘルプをご参照ください。



ASUS Express Gate がサポートするHDDは、マザーボードのチップセットが制御する**オンボードSATAポート**に接続したHDDのみです。オンボード拡張SATAポートと外部SATAポートは全てサポート対象外です。オンボードSATAポートの位置はChapter 2をご参照ください。

Express Gate を BIOS Setup で設定する

電源をオンにした後 キーを押す、または Express Gate トップ画面の BIOS Setup アイコンをクリックして BIOS セットアップを開きます。ツールメニューを開くと Express Gate 設定が表示されます。(詳細: ページ 3-41 参照)

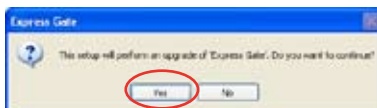


Express Gate をアップデートする

Express Gate はバージョン更新が可能です。新しいバージョンはASUSのWeb サイトで定期的にリリースされ、修正や新しいアプリケーションが追加されます。なお、オリジナルバージョンはサポートDVDに収録されています。

手順

1. サポートDVDに収録のExpress Gate セットアップファイル (実行ファイル) をダブルクリックし、ソフトウェアの更新を始めます。
2. アップデートを確認するダイアログが表示されますので、「Yes」をクリックします。
3. 続いてInstallShield Wizardが表示されますので、「Next」をクリックします。
4. 表示される画面の指示に従って、インストールを完了します。

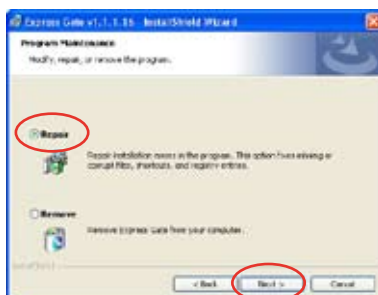


Express Gate を修復する

万一、Express Gate が正常に起動しなくなった場合、Express Gate を再インストールする、または修復用のユーティリティを使用することで、正常な状態に修復することができます。

手順

- 「Start (スタート)」→「All Programs (すべてのプログラム)」→「Express Gate」→「Express Gate Installer」→「Repair this software」の順にクリックします。
- または、Express Gate セットアップファイルをダブルクリックし、「Repair」を選択後、「Next」をクリックします。



4.3.12 AMD OverDrive (AOD)

AMD® OverDrive™ ユーティリティにより、Windows 環境でシステム設定、オーバークロック設定が行えます。なお、これらの設定はシステムを再起動するとBIOSには保存されません。



特定の詳細設定は、特定のAMD Black Edition CPUでのサポートのみとなります（Phenom 9600 Black Edition、Phenom 9850 Black Edition、Phenom 9950 Black Edition等）。サポートするCPUの詳細は、AMDの公認サイトでご確認ください。（www.amd.com）

4.4 RAID

本マザーボードには AMD SB750 チップセットが搭載されており、Serial ATA ハードディスクドライブでRAID 0、RAID 1、RAID 5、RAID 10を構築することができます。

4.4.1 RAIDの定義

RAID 0 (データストライピング) :

ハードディスクドライブに対しパラレル方式でデータを読み/書きします。それぞれのハードディスクの役割はシングルドライブと同じですが、転送率はアレイに参加している台数倍に上り、データへのアクセス速度を向上させます。セットアップには、最低2台のハードディスクドライブ（同じモデル、同容量）が必要です。

RAID 1 (データミラーリング) :

1台目のドライブから、2台目のドライブに、同じデータイメージをコピーし保存します。ドライブが1台破損しても、ディスクアレイマネジメントソフトウェアが、アプリケーションを正常なドライブに移動することによって、完全なコピーとして残ります。システム全体のデータプロテクションとフォールト・トレランスを向上させます。セットアップには、最低2台の新しいハードディスクドライブ、または、既存のドライブと新しいドライブが必要です。既存のドライブを使う場合、新しいドライブは既存のものと同じサイズかそれ以上である必要があります。

RAID 5 :

3台以上のハードディスクドライブ間のデータとパリティ情報をストライピングします。利点は、ハードディスクドライブのパフォーマンスの向上、フォールト・トレランス、記憶容量の増加です。データのやり取り、相関的なデータベースのアプリケーション、企業内のリソース作成など、ビジネスにおけるシステムの構築に最適です。セットアップには最低3台の同じハードディスクドライブが必要です。

RAID 10 (RAID 0+1) :

データストライピングとデータミラーリングをパリティ（冗長データ）なしで結合したものです。RAID 0とRAID 1構成の全ての利点が得られます。セットアップには、最低4台のハードディスクドライブが必要です。



Windows XP環境では、RAID 構成がされているハードディスクドライブからシステムをブートする場合、OSをインストール時にドライバを組み込む必要があります。サポートDVDからフロッピーディスクに、RAIDドライバをコピーしてご利用ください。（詳細 4.5 「RAID ドライバディスクを作成する」参照）

4.4.2 Serial ATA ハードディスクを取り付ける

本製品は Serial ATA ハードディスクドライブをサポートします。最適なパフォーマンスのため、ディスクアレイを作成する場合は、モデル、容量が同じハードディスクドライブをご使用ください。

RAID 用にSATA ハードディスクを取り付ける手順

1. SATA ハードディスクをドライブベイに取り付けます。
2. SATA 信号ケーブルを接続します。
3. SATA 電源ケーブルを各ドライブの電源コネクタに接続します。

4.4.3 AMD® RAID

本製品は AMD SB750 チップにより、SerialATA/ハードディスクドライブでRAID 0、RAID 1、RAID 5、RAID10 を構築することができます。

BIOSでRAIDを設定する

RAIDを作成する前に、BIOSのセットアップで、RAID を設定してください。

1. Serial ATA HDD を **SATA_1/2/3/4/5/6**と表示された SATA コネクタに接続します。
2. システムを起動し、POST で を押してBIOSに入ります。
3. 「Main Menu」で「**Storage Configuration**」を開き、「**OnChip SATA Type**」を [RAID]に設定します。
4. <F10> を押し、設定の変更を保存し、終了します。

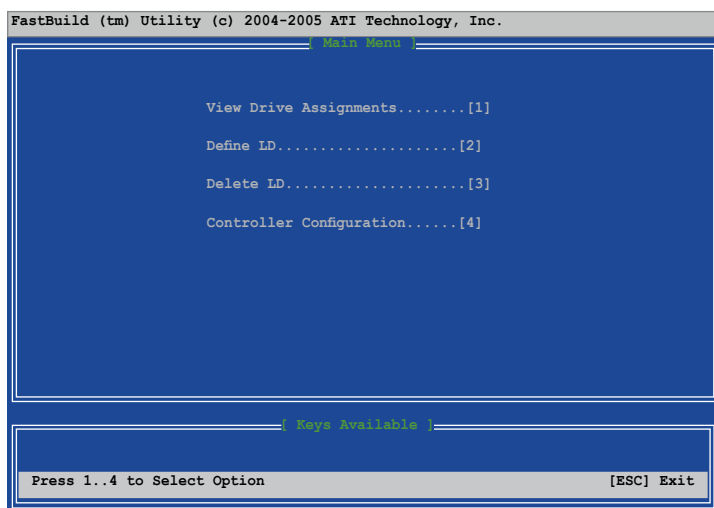


このセクションのRAID BIOS セットアップ画面は一例です。実際の画面とは異なる場合があります。

AMD® FastBuild™ユーティリティを開く

手順

1. コンピュータを起動します。
2. POSTで <Ctrl+F> を押し、ユーティリティのメインメニューを開きます。



メインメニューでは、実行するオペレーションを選択することができます。メインメニューのオプションには以下のものが含まれます。

View Drive Assignments - HDD の状態を表示

Define LD - RAID 0、RAID 1、RAID 0+1 を作成

Delete LD - 選択した RAID セットとパーティションを削除

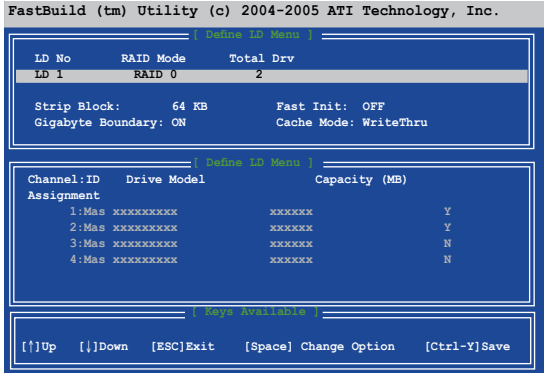
Controller Configuration - システムリソースの構成を表示

オプションに入るには <1>、<2>、<3>、<4> のいずれかを押します。<ESC> を押してユーティリティを終了します。

RAID 0(ストライピング)

設定方法

- 1. メインメニューで <2> を押し、「Define LD」メニューに入ります。
- 2. <Enter>を押すと次の画面が表示されます。



- 3. LD1 の項目をハイライト表示させ、<Space> を押してRAID 0 を選択します。
- 4. 下矢印キーで Assignment の項目に移動し、任意の2つのドライブに Y を設定します。
- 5. <Ctrl+Y> を押して設定を保存します。次のメッセージが表示されます。

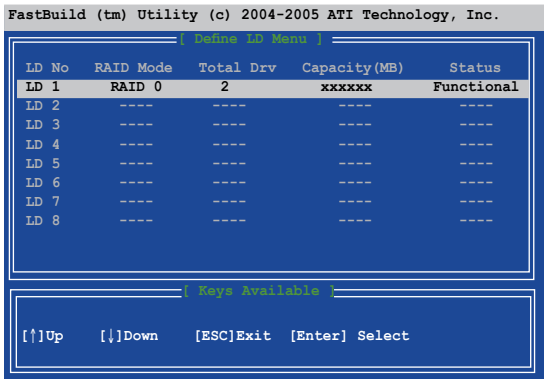
Press Ctrl-Y if you are sure to erase MBR! Press any other key to ignore this option...

MBR を消去するには <Ctrl+Y> を押してください。続けるには任意のキーを押してください。

Press Ctrl-Y to Modify Array Capacity or press any other key to use maximum capacity...

容量を入力するには<Ctrl+Y> を押してください。続けるには任意のキーを押してください。

- 6. 以下の画面が表示されます。



RAID 1 (ミラーリング)

設定方法

1. メインメニューで <2> を押して、「Define LD」メニューに入ります。
2. <Enter>を押すと次の画面が表示されます。

```
FastBuild (tm) Utility (c) 2004-2005 ATI Technology, Inc.

[ Define LD Menu ]
=====
LD No      RAID Mode    Total Drv
LD 1       RAID 1       2

Strip Block: 64 KB      Fast Init: OFF
Gigabyte Boundary: ON   Cache Mode: WriteThru

[ Define LD Menu ]
=====
Channel:ID   Drive Model    Capacity (MB)
Assignment
1:Mas XXXXXXXX XXXXXX     Y
2:Mas XXXXXXXX XXXXXX     Y
3:Mas XXXXXXXX XXXXXX     N
4:Mas XXXXXXXX XXXXXX     N

[ Keys Available ]
=====
[↑]Up  [↓]Down  [ESC]Exit  [Space] Change Option  [Ctrl-Y]Save
```

3. LD1の項目をハイライト表示させ、<Space>を押して RAID 1 を選択します。
4. 下矢印キーで Assignment の項目に移動し、任意の2つのドライブに Y を設定します。
5. <Ctrl+Y> を押して設定を保存します。次のメッセージが表示されます。

```
Press Ctrl-Y if you are sure to erase MBR! Press any other
key to ignore this option...
```

MBR を消去するには <Ctrl+Y> を押してください。続けるには任意のキーを押してください。

```
Press Ctrl-Y to Modify Array Capacity or press any other key
to use maximum capacity...
```

容量を入力するには<Ctrl+Y> を押してください。続けるには任意のキーを押してください。

6. 以下の画面が表示されます。

```
FastBuild (tm) Utility (c) 2004-2005 ATI Technology, Inc.

[ Define LD Menu ]
=====
LD No      RAID Mode    Total Drv    Capacity(MB)    Status
LD 1       RAID 1       2            xxxxxx         Functional
LD 2       ----              ----              ----              ----
LD 3       ----              ----              ----              ----
LD 4       ----              ----              ----              ----
LD 5       ----              ----              ----              ----
LD 6       ----              ----              ----              ----
LD 7       ----              ----              ----              ----
LD 8       ----              ----              ----              ----

[ Keys Available ]
=====
[↑]Up  [↓]Down  [ESC]Exit  [Enter] Select
```


RAID 10 (RAID 0+1)

設定方法

1. メインメニューで <2> を押して、「Define LD」メニューに入ります。
2. <Enter>を押すと次の画面が表示されます。

```
FastBuild (tm) Utility (c) 2004-2005 ATI Technology, Inc.

[ Define LD Menu ]

LD No   RAID Mode   Total Drv
LD 1     RAID 10      4

Strip Block:      64 KB      Fast Init:  OFF
Gigabyte Boundary: ON      Cache Mode: WriteThru

[ Define LD Menu ]

Channel:ID   Drive Model   Capacity (MB)
Assignment
1:Mas xxxxxxxx      xxxxxx      Y
2:Mas xxxxxxxx      xxxxxx      Y
3:Mas xxxxxxxx      xxxxxx      Y
4:Mas xxxxxxxx      xxxxxx      Y

[ Keys Available ]

[↑]Up   [↓]Down   [ESC]Exit   [Space] Change Option   [Ctrl+Y]Save
```

3. LD1 の項目をハイライト表示させ、<Space>を押して RAID 10 を選択します。
4. 下矢印キーで Assignment の項目に移動し、任意の 4 つのドライブに Y を設定します。
5. <Ctrl+Y> を押して設定を保存します。次のメッセージが表示されます。

```
Press Ctrl-Y if you are sure to erase MBR! Press any other
key to ignore this option...
```

MBR を消去するには <Ctrl+Y> を押してください。続けるには任意のキーを押してください。

```
Press Ctrl-Y to Modify Array Capacity or press any other key
to use maximum capacity...
```

容量を入力するには <Ctrl+Y> を押してください。続けるには任意のキーを押してください。

6. 以下の画面が表示されます。

```
FastBuild (tm) Utility (c) 2004-2005 ATI Technology, Inc.

[ Define LD Menu ]

LD No   RAID Mode   Total Drv   Capacity (MB)   Status
LD 1     RAID 10      4           xxxxxx         Functional
LD 2     ----         ----         ----         ----
LD 3     ----         ----         ----         ----
LD 4     ----         ----         ----         ----
LD 5     ----         ----         ----         ----
LD 6     ----         ----         ----         ----
LD 7     ----         ----         ----         ----
LD 8     ----         ----         ----         ----

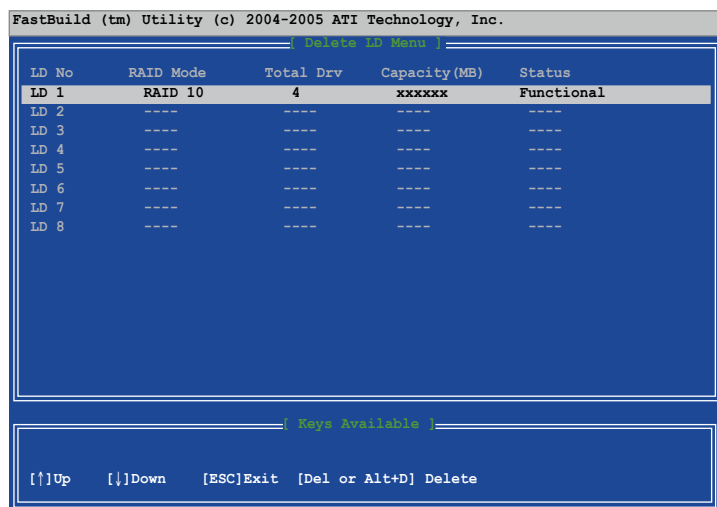
[ Keys Available ]

[↑]Up   [↓]Down   [ESC]Exit   [Enter] Select
```

RAID を削除する

手順

1. メインメニューで <3> を押して、「Delete LD」メニューに入ります。
2. 削除する RAID 項目を選択し または <Alt+D> を押します。



4.5 RAID ドライバディスクを作成する

RAID に組み込まれた ハードディスクドライブ に Windows® XP をインストールする際は、RAID ドライバを保存したフロッピーディスクが必要です。Windows Vista™ をインストールする場合は、RAID ドライバが保存されたUSBフラッシュディスクまたはマザーボードサポートDVDが必要です。

4.5.1 OS に入らずに RAID ドライバディスクを作成する

手順

1. コンピュータを起動します。
2. POST中に を押し、BIOS に入ります。
3. 光学ドライブをプライマリブートデバイスに設定します。
4. サポート DVD を光学ドライブにセットします。
5. 設定を保存し BIOS を退出します。
6. 「Press any key to boot from the optical drive」が表示されたら、任意のキーを押します。
7. メニューが表示されたら <1> を押して RAID ドライバディスクを作成します。
8. フォーマット済みのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし <Enter>を押します。
9. 画面の指示に従ってプロセスを完了させます。

4.5.2 Windows® 環境で RAID ドライバディスクを作成する

手順

1. Windows®を起動します。
2. サポート DVD を光学ドライブにセットします。
3. 「Make Disk menu」を開き、「ATI RAID/AHCI 32/64bit WinXP/Vista Driver」をクリックしてRAIDドライバディスクを作成します。
4. フロッピーディスクまたはUSB フラッシュディスクをシステムに接続します。
5. 画面の指示に従ってプロセスを完了させます。



フロッピーディスクはライトプロテクトしてウィルスの攻撃からシステムを保護してください。

Windows XP に RAID ドライバをインストールする

1. OS のインストール中に、「**Press the F 6 key to install third-party SCSI or RAID driver**」という指示が表示されます。
2. <F6>を押し、RAID ドライバディスクをフロッピーディスクドライブに入れます。
3. プロンプトが表示されたら、取り付ける SCSI アダプタを選択します。ここでは必ず「**SB 750**」を選択してください。
4. 画面の指示に従い、インストールを完了させます。

Windows® Vista™にRAIDドライバをインストールする

1. RAID ドライバを保存した USB デバイス/フロッピーディスクをシステムに接続します。
2. OS のインストールの過程で「**SB 750**」を選択します。
3. 画面の指示に従い、インストールを完了させます。